ローズタウン遺跡群 富田下大日Ⅳ遺跡

ローズタウン住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2001

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世、近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡・遺物が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域に800余基の存在が伝えられています。その中には大室四古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も９基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府の存在が示す通り、政治、宗教、経済の中心地として花開き一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏・上杉氏・武田氏・北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏・松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。まさに、前橋はこれまで連綿と続いてきた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

ローズタウン住宅団地が建設されようとしている江木・富田町周辺は、赤城山南麓の自然に恵まれた地であり、周辺では縄文時代からの人々の生活の跡がのこされています。

本年度調査のローズタウン遺跡群富田下大日Ⅳ遺跡では、事業実施に先立ち、発掘調査を実施いたしました。この調査期間中、縄文時代の住居跡や奈良から平安時代の住居跡、掘立柱建物跡などが確認され、地区の歴史解明に貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたりまして、ご協力をいただきました市工業課、前工団、地元関係者、酷暑のなか調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成14年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　阿　部　明　雄

例　　言

1．本報告書は、ローズタウン住宅団地造成に伴うローズタウン遺跡群富田下大日Ⅳ遺跡の発掘調査報告書である。
2．遺跡の所在地　群馬県前橋市江木町1043番地10他
3．調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長 阿部明雄）の指導のもと、業務委託を受けた山武考古学研究所（所長 平岡和夫）が実施した。
　発掘・整理担当者　　平野岳志（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）
　　山崎悟・福山俊彰・土生朗治（山武考古学研究所）
4．発掘調査・整理期間　平成13年10月16日～平成14年3月8日
5．発掘調査面積　　17,400㎡
6．出土遺物は前橋市教育委員会が保管する。
7．本書は、調査団の指導のもと、山武考古学研究所が作成にあたり、原稿執筆…Ⅰ・Ⅱを平野岳志（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）、Ⅲ・Ⅳ…山崎悟、Ⅴ・Ⅵ…福山俊彰・土生朗治、編集・校正…福山俊彰、遺物洗浄・注記・復元・遺物実測・トレース・図面整理…江口弘子・遠藤恵子・片岡美和子・木村春代・田口るみ子・根本時子・本田利子、石器実測…大越直樹が担当した。
8．発掘調査に参加した方々(敬称略)
　安達典子・天野晴治・大島徳重・女屋誠司・神山祐吉・小屋千代子・後藤加津枝・後藤貞良
　新保梅夫・高田進弘・竹生正明・牧野完一・松本秀明・宮下哲之・渡辺永造・綿貫晃・綿貫瑛一

凡　　例

1．遺跡の略称は、13D16である。
2．挿図に国土地理院発行の1/200,000地形図（宇都宮）、1/50,000地形図（前橋）を使用した。
3．挿図中に示した方位は、座標北である。
4．遺構の略称は、次のとおりである。
　Ｊ－縄文時代住居跡　　Ｈ－土師器使用住居跡　　Ｂ－掘立柱建物跡
　Ｄ－土坑　　Ｉ－井戸跡　　Ｗ－溝跡
5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。
　遺　構　　全体測量図……1/400　住居跡・掘立柱建物跡・土坑・井戸跡・溝跡断面図……1/60
　　カマド・炉跡……1/30　　溝跡……1/150　　標準土層図……1/40
　遺　物　　土器……1/3・1/4　　石器・鉄製品・鉄滓……1/3　　石鏃……2/3
6．計測値については、(　　) は現存値、[　　]は復元値を表す。
7．遺物写真図版の縮尺は実測図と基本的に同縮尺とし、石鏃は等倍とした。
8．スクリーントーン等の使用は、次のとおりである。
　●―土器・土製品　　▲―石器・自然石　　■―鉄製品・鉄滓　　須恵器断面―黒塗り

　―地山　　―繊維含有　　―粘土分布範囲　　―焼土・煤

目　　次

序 …… i
例言・凡例 …… ii

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境
　1　遺跡の立地 …… 1
　2　歴史的環境 …… 3

Ⅲ　調査の経過
　1　調査方針 …… 5
　2　調査経過 …… 5

Ⅳ　層　序 …… 7

Ⅴ　遺構と遺物
　1　竪穴住居跡 …… 15
　2　掘立柱建物跡 …… 17
　3　土　　坑 …… 18
　4　井　戸　跡 …… 19
　5　溝　　跡 …… 19
　6　グリッド等出土遺物 …… 19

Ⅵ　成果と課題 …… 20

挿　　図

Fig.1　ローズタウン遺跡群の位置
2　ローズタウン遺跡群周辺図
3　本遺跡とグリッド設定図
4　標準土層図
5　北調査区全体図
6　南調査区西地区全体図
7　南調査区中央地区全体図
8　南調査区東地区全体図
9　特殊磨石・直線状の摩滅痕を持つ磨石例
10　L字形プランの竪穴住居跡
11　墨書・油煙痕・その他
12　J－1・2号住居跡
13　J－4・5号住居跡
14　H－1号住居跡
15　H－2号住居跡
16　H－3号住居跡
17　H－4号住居跡
18　H－5号住居跡
19　H－6号住居跡
20　B－1号掘立柱建物跡・D－1～3号土坑
21　D－4～11・14号土坑
Fig.22　D－12・13・15～22号土坑
23　D－23～34号土坑
24　D－35・36・38～44号土坑
25　D－45～56号土坑
26　D－57～64・66～68号土坑
27　W－1号溝跡
28　I－1・2号井戸跡
29　J－1・2号住居跡出土遺物
30　J－4・5号住居跡、H－1号住居跡出土遺物
31　H－2・3号住居跡出土遺物
32　H－4・5号住居跡出土遺物
33　H－6号住居跡出土遺物
34　土坑出土遺物、遺構外出土縄文土器
35　遺構外出土縄文土器
36　遺構外出土縄文土器
37　遺構外出土縄文土器
38　遺構外出土縄文土器
39　遺構外出土縄文土器
40　遺構外出土石器
41　遺構外出土石器

表

Tab.1　縄文時代住居跡一覧表
2　奈良～平安時代住居跡一覧表
3　土坑計測表
4　縄文時代住居跡出土土器観察表
5　縄文時代住居跡出土石器観察表
Tab.6　奈良～平安時代住居跡・土坑出土土器観察表
7　石製品・鉄製品・土製品・鉄滓観察表
8　土坑・グリッド出土縄文土器観察表
9　グリッド出土石器観察表
10　報告書抄録

図　　版

ＰＬ.1　南調査区全景（空撮　南から）
南調査区全景（空撮　上が西）
2　北調査区全景（空撮　上が南）
北調査区全景（西から）
3　南調査区中央地区全景（北から）
南調査区東地区遺構配列状況（北東から）
4　南調査区遺物出土状況（南から）
X110Y35グリッド出土遺物（南から）
Ｊ－１号住居跡覆土断面（北から）
Ｊ－１号住居跡埋甕炉（南から）
Ｊ－１号住居跡全景（南から）
5　Ｊ－２号住居跡全景（西から）
Ｊ－２号住居跡出土遺物（東から）
Ｊ－４号住居跡覆土断面（南西から）
Ｊ－４号住居跡出土遺物（南西から）
Ｊ－４号住居跡全景（南西から）
6　Ｊ－５号住居跡全景（西から）
Ｊ－５号住居跡覆土断面（西から）
Ｈ－１号住居跡全景（西から）
Ｈ－１号住居跡竈覆土断面（南西から）
Ｈ－１号住居跡竈（西から）
7　Ｈ－２号住居跡遺物出土状況（西から）
Ｈ－２号住居跡竈粘土堆積状況（西から）
Ｈ－２号住居跡竈覆土断面（南から）
Ｈ－２号住居跡竈（西から）
Ｈ－２号住居跡全景（西から）
8　Ｈ－３号住居跡覆土断面（西から）
Ｈ－３号住居跡遺物出土状況（西から）
Ｈ－３号住居跡全景（西から）
Ｈ－４号住居跡全景（西から）
Ｈ－４号住居跡竈覆土断面（南から）
Ｈ－４号住居跡竈（西から）
Ｈ－５号住居跡竈覆土断面（南から）
Ｈ－５号住居跡竈（西から）
9　Ｈ－５号住居跡遺物出土状況（北から）
Ｈ－５号住居跡全景（西から）
Ｈ－５号住居跡出土遺物（北から）
ＰＬ.9　Ｈ－５号住居跡出土遺物（南から）
Ｈ－５号住居跡出土遺物（南から）
10　Ｈ－６号住居跡遺物出土状況（西から）
Ｈ－６号住居跡竈（西から）
Ｈ－６号住居跡出土遺物（北から）
Ｈ－６号住居跡出土遺物（北から）
Ｈ－６号住居跡出土遺物（北から）
11　Ｂ－１号掘立柱建物跡覆土断面（南から）
Ｂ－１号掘立柱建物跡全景（南から）
Ｗ－１号溝跡覆土断面（南から）
Ｗ－１号溝跡全景（南から）
Ｉ－１号井戸跡全景（南から）
12　Ｄ－６号土坑全景（東から）
Ｄ－11号土坑全景（南から）
Ｄ－14号土坑覆土断面（南東から）
Ｄ－14号土坑出土遺物（北西から）
Ｄ－14号土坑全景（北西から）
13　Ｄ－17号土坑全景（東から）
Ｄ－32号土坑全景（北西から）
Ｄ－56号土坑全景（南から）
Ｄ－59号土坑全景（東から）
Ｄ－64号土坑全景（南西から）
Ｄ－64号土坑出土遺物（南西から）
Ｄ－66号土坑全景（南から）
Ｄ－66号土坑出土遺物（南から）
14　Ｊ－1・2号住居跡出土遺物
15　Ｊ－4・5、Ｈ－1・2号住居跡出土遺物
16　Ｈ－3～6号住居跡出土遺物
17　Ｈ－6号住居跡、Ｄ－14・32・64・66号土坑出土遺物
18　遺構外出土縄文土器（88～117）
19　遺構外出土縄文土器（118～146）
20　遺構外出土縄文土器（147～167）
21　遺構外出土縄文土器（168～192）
22　遺構外出土縄文土器（193～215）
23　遺構外出土石器（216～227）
24　遺構外出土石器（228～235）

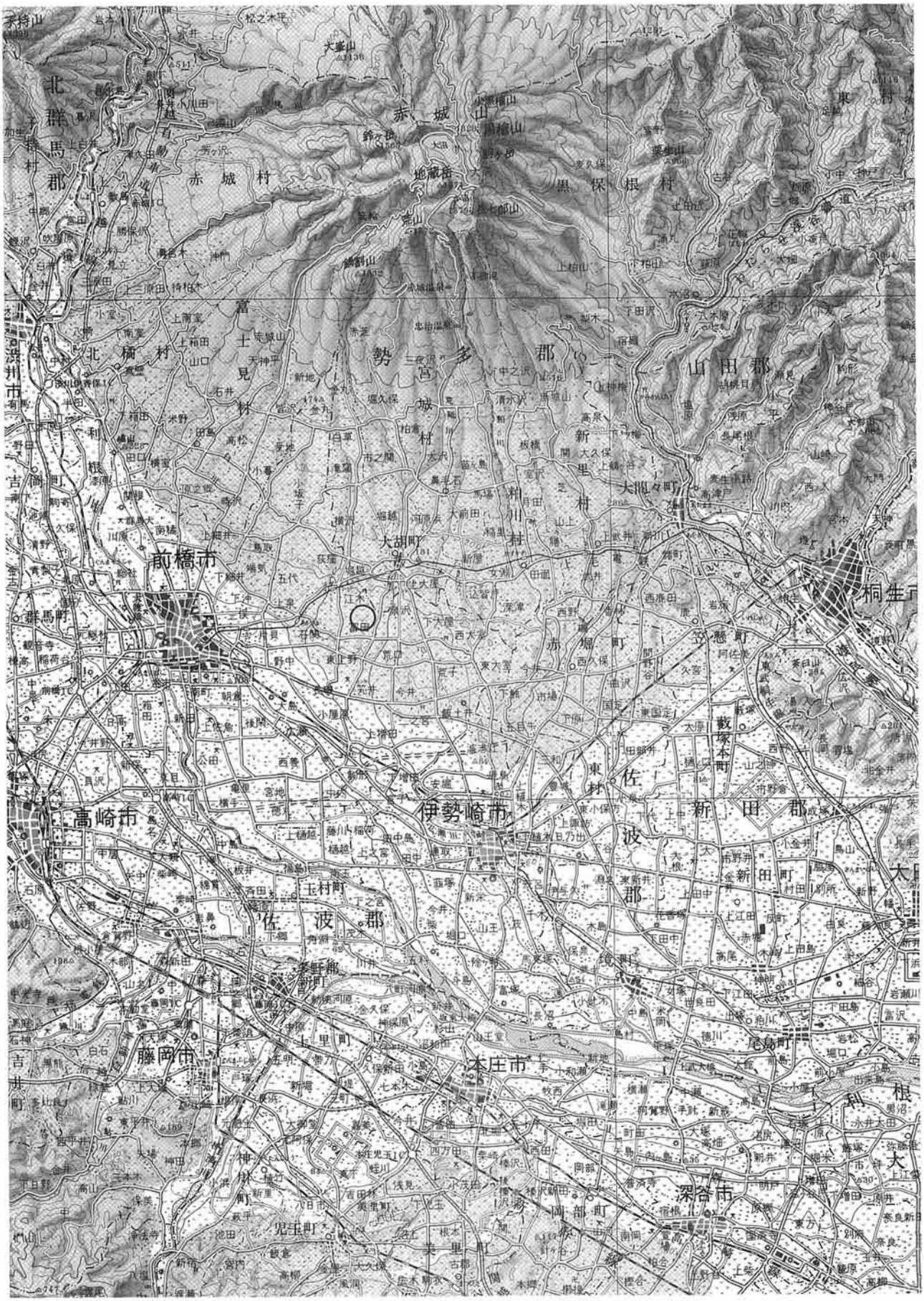


Fig.1　ローズタウン遺跡群の位置

Ⅰ　調査に至る経緯

平成11年10月25日、前橋工業団地造成組合（前橋市商工部工業課、以下前工団）から同市教育委員会文化財保護課へ住宅団地造成事業に伴う埋蔵文化財確認調査の依頼が打診された。これを受け、同年10月28･29日、同文化財保護課で試掘調査を実施した。この部分は住宅団地の調整池部分であったが、遺構は確認できなかった。しかし平成12年４月17日、前工団より住宅団地造成予定地の部分について、文化財保護課に埋蔵文化財発掘調査の依頼がなされた。そこで同年４月18日に前工団と文化財保護課間で発掘調査についての協議を経て、５月18日、前工団管理者　萩原　弥惣治と前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団の団長　阿部　明雄との間で、埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結の運びとなり、５月24日から現地での発掘調査を開始するに至った。調査依頼面積が45haと広大であり、さらに調査を依頼されている箇所が住宅団地造成により掘削されてしまう高台と、新たに住宅団地内に造成される道路予定地部分に限られていたため、調査は遺構分布状態を確認するための試掘調査から取りかからねばならなかった。そのため、７月中旬までトレンチ掘削による試掘調査を行った。この結果、昭和30～40年代に実施された土地改良のため、調査対象区域の大部分で攪乱が認められた。このため調査面積に比して検出遺構並びに検出遺物は少量であった。しかし、調査対象区域南側の中央から西側にかけての区域には、比較的遺構が残存していることが判明した。

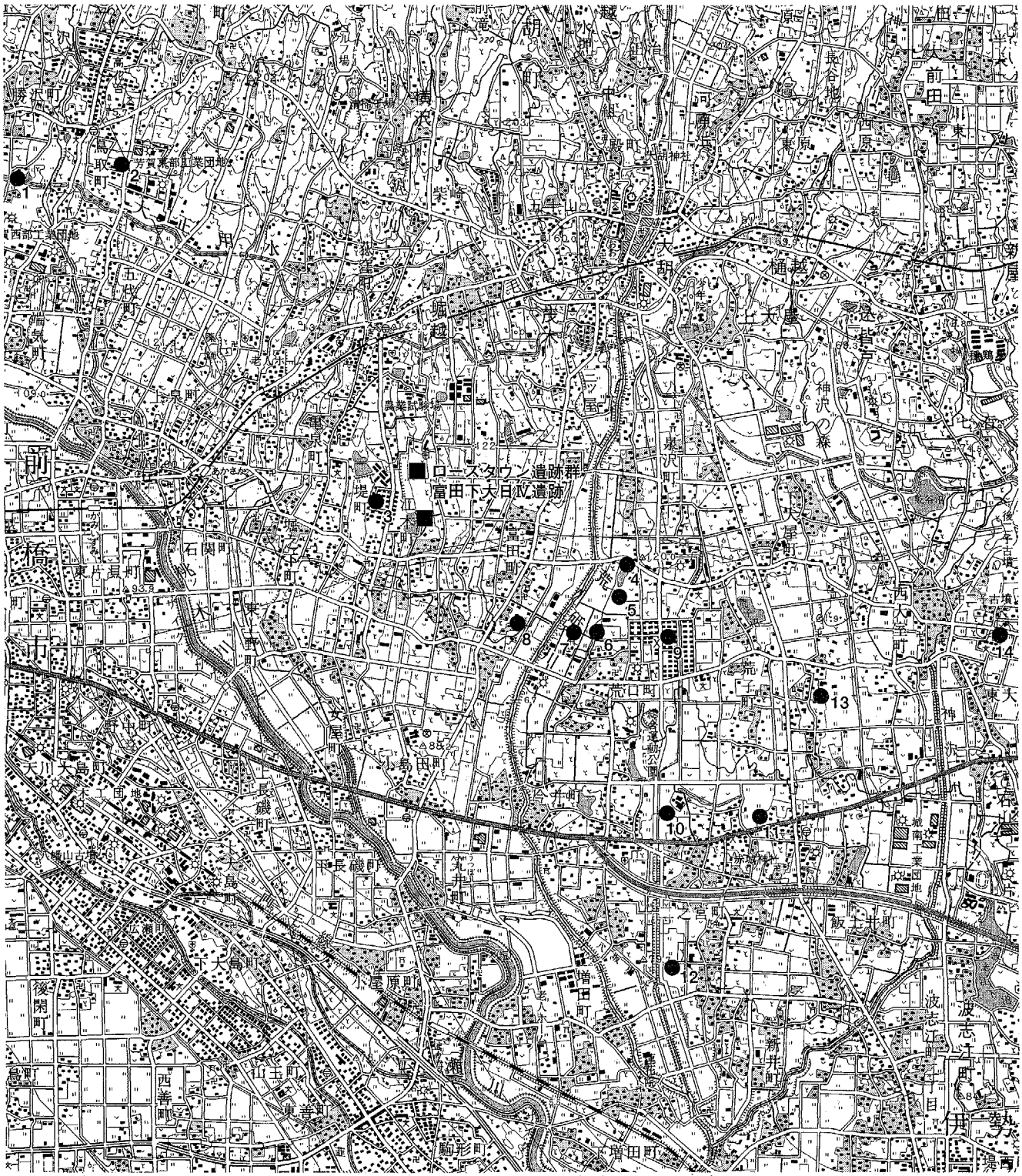
こうした試掘調査の結果に基づき、平成12年度分の調査は前橋市富田町1791番地６付近の遺構が集中して検出された部分（ローズタウン遺跡群富田下大日Ⅰ遺跡）に限定して、７月17日より本調査を開始した。この区域以外の場所から検出された遺構については、平成12年度民間の調査会社に委託して調査する区域（ローズタウン遺跡群富田下大日Ⅱ遺跡）・平成13年度直営で調査する区域・平成13年度民間の調査会社に委託して調査をする区域の三区域に分けて、２年間かけて遺跡群全体を発掘調査することとなった。

平成13年度富田下大日Ⅲ遺跡発掘調査では、富田下大日Ⅰ遺跡の西側をＡ区（前橋市富田町1816番地１）、南から南西側をＢ区（前橋市富田町1824番地10他）と称した。調査面積はＡ・Ｂ区を合わせて約8,930㎡である。民間の調査会社に委託して調査した江木町部分が、ローズタウン遺跡群富田下大日Ⅳ遺跡であり、調査面積は17,400㎡である。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　遺跡の立地

本遺跡群は、前橋市街地から東方に６㎞ほど離れた前橋市江木町・富田町に跨って所在する。地番は前橋市富田町1791番地ほかである。ここは標高約114m、赤城山南麓傾斜地南端部の台地上である。この台地は中央部に幅約300mほどで、南北に走る谷地を挟んで南東方向に長く延びている。現在では、台地を囲むように住宅が建ち並び、西側は萱野団地、北東部は大胡町に接する。谷地の水田面と台地面との高低差は約７m、遺跡群の西側、萱野団地との高低差は約９mである。また、遺跡地の北側には前橋大間々桐生線、南側には前橋赤堀線といった主要幹線道が走っている。



1：50,000　**前　橋**

1000m　0　1000　2000　3000

1．小神明遺跡　2．芳賀東部工業団地遺跡　3．萱野遺跡　4．北原遺跡　5．諏訪遺跡
6．諏訪西遺跡　7．荒砥諏訪西遺跡　8．富田古墳群　9．鶴が谷遺跡　10．荒砥大日塚遺跡
11．荒砥上ノ坊遺跡　12．荒砥島原遺跡　13．舞台遺跡　14．西大室丸山遺跡

Fig.2　ローズタウン遺跡群周辺図

赤城山南麓には関東ローム層を基盤とする洪積台地が発達し、山頂部の小沼から流れ出す粕川をはじめとする荒砥川・白川等が放射線状に流れ出している。これらの川の間を中小の河川が枝状に流下している。こうした大小の河川が沖積地を形成し、水田として開けている。さらに、火山性泥流丘（流山）が数か所確認されており、起伏に富んだ地形を示している。赤城山南麓傾斜地は、標高約500mの宮城村三夜沢付近に変換点があり、そこから下では緩傾斜となる。そのまま緩傾斜は10kmほど下り、本遺跡地の南側約１km付近で沖積傾斜地に接合する。この接合部の標高はおよそ80mである。

こうした赤城山南麓の地形は原始から古代にかけての集落形成に適していたようで、ここは県内でも遺跡が集中している地域である。大小の河川によって複雑に絡み合って形成された谷地では、古くから多くの水田が開拓されている。標高の高い場所でも谷底部は水田となっている場合が多い。遺跡の分布は、標高350～400m辺りを北限として山麓を環状に取り巻いている。本遺跡群周辺地域でも、長年にわたり土地改良に伴う発掘調査が行われ、数多くの遺跡が発見されている。特に荒砥川西から本遺跡地までの台地上では、昭和50年代に県営荒砥北部地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査がなされ、数多くの調査報告がなされている。

2　歴史的環境

本遺跡群と幅約200mの谷地を挟んで西側に隣接している萱野団地では、昭和60・61年度にかけて発掘調査が行われた。横穴式石室をもつ古墳や５万㎡の団地造成面積全面にわたる集落跡が確認された。遺構は、縄文時代から古墳・奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡30軒以上が数えられた。また、遺跡群の東方約６kmには、大室古墳群と古墳時代から平安時代にかけての集落跡を中心に調査された内堀遺跡群がある。ここでは、28,000年前の旧石器も検出されている。

縄文時代の遺跡は、標高550mより低い地域に濃く分布している。本遺跡群からは平成12年度の試掘調査の段階から、トレンチ内で縄文時代中期の加曽利Ｅ式土器を確認している。本遺跡群の北東約３kmの大胡町上大屋南部遺跡群にある西小路遺跡や上ノ山遺跡や諏訪東遺跡群からも加曽利Ｅ式土器と竪穴住居跡の調査報告がなされている。また、昨年度・本年度の調査では、縄文時代前期の土器片を多数収納した。本遺跡群の北西約５kmには、芳賀東部団地遺跡群がある。ここでは、昭和48年から８年間発掘調査が行われ、縄文時代から中近世までの住居跡が数百軒検出されている。芳賀地区からは縄文時代草創期・早期の土器が出土しており、嶺町、鳥取町、勝沢町等の調査では、竪穴式住居跡が検出されている。また、荒砥川西岸の荒砥北原遺跡・荒砥宮田遺跡でも、縄文時代前期から中期にかけての竪穴住居跡や土坑を検出している。

本遺跡群周辺の弥生時代の遺跡は少ない。芳賀地区では、小神明Ⅳ遺跡から１軒、小神明Ⅱ遺跡から弥生時代中期から後期にかけての住居跡が２軒検出された。しかし、このうち１軒は焼失住居であることがわかっている。荒砥川周辺でも、東岸の荒口前原遺跡で弥生時代中期の住居跡から竜見式土器が出土した調査例や、荒砥大日塚遺跡・荒砥島原遺跡・鶴が谷遺跡・諏訪遺跡・内堀遺跡群・荒砥上ノ坊遺跡などに数件の調査例があるが、住居の軒数自体は少ないものである。隣接する大胡町金丸遺跡に弥生時代中期の岩櫃山式の壺や甕が出土した調査報告がある。この時期の多くの遺跡では、人々が谷地地形の地域を中心に集落を形成するというより、試行的に進出する傾向があるように見受けられる。

古墳時代では、赤城山南麓一帯には多くの遺跡が所在する。前橋市広瀬町の八幡山古墳や天神山古墳に代表されるように、大型墳がつくられる。それに続いて今井神社古墳、大室古墳群など有力墳がつくられる。また、市内各地に後期古墳群が形成される。芳賀東部団地遺跡群においては、古墳時代から奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡374軒、掘立柱建物遺構206棟にも及ぶ集落遺跡が調査されている。ここに隣接する芳賀西部団地遺跡においても、古墳時代の古墳が30基、芳賀北部団地遺跡では竪穴住居跡227軒、掘立柱建物跡８棟、製鉄跡３基を検出している。荒砥川流域では、石田川式土器を共伴する遺跡の数が多く、古墳時代前期の開発が早くから行われた。その後も古墳時代の集落がいくつも形成され、継続的に存続していたと考えられている。荒砥川東岸の北原遺跡では、古墳時代の竪穴住居跡が73軒、円形周溝墓２基が調査されている。荒砥川の自然堤防上に位置する諏訪西遺跡からは古墳時代前・中・後期の竪穴式住居跡11軒、古墳２基（うち一つは竪穴式石室）が調査された。荒砥諏訪西遺跡からは古墳時代前期の竪穴住居跡49軒、古墳時代後期の竪穴住居跡10軒が、いずれも荒砥川左岸の丘陵地帯に集中している。荒砥川東側の前橋市域だけでも古墳時代中期の集落遺跡は20遺跡以上、古墳時代後期の遺跡では36遺跡も確認されている。荒砥川左岸地域（泉沢町・荒口町・今井町・荒子町・西大室町）には、この時期に数多くの古墳も造られている。当時これらの集落の数が古墳の数多い分布にそのまま反映されているようである。荒砥川とその東側の赤堀町を南流する粕川流域は、県内ではもっとも古墳の分布が集中している地域である。『上毛古墳綜覧』にも旧荒砥村には365基、赤堀町には333基の古墳があったと記述されている。

本遺跡周辺部にも古墳群が多数存在する。代表的なものとしては、前橋市の大室古墳群・富田古墳群・荒子古墳群、赤堀町の多田山古墳群、伊勢崎市の波志江古墳群等、枚挙にいとまがない。荒砥川東岸丘陵部の舞台西遺跡では古墳が４基、西大室丸山遺跡では古墳を３基調査している。この古墳は、県内に６世紀代に導入されたとされている横穴式石室をもつことや副葬品の様相から、６世紀後半から７世紀前半の築造とされている。本遺跡地北西の前橋市五代町では、７世紀前半の副葬品をもつ五代大日塚古墳、南西約３㎞離れた堀之下町には６世紀前半の横穴式石室をもつ正円寺古墳がある。幾つかの巨石が並べられ、それを信仰の対象としたと考えられる祭祀跡も確認されている。西大室丸山遺跡以外で確認されている巨石を信仰の対象とした祭祀跡は、粕川村の七ツ石遺跡や宮城村の櫃石遺跡があげられる。この遺跡では、有孔円板・臼玉などの石製模造品、手捏土器などが検出され、祭祀との関わりがあったとみられている。前橋市泉沢町にある丸山遺跡やそのすぐ南に位置する荒砥荒子遺跡からは柵列をめぐらす環濠居館が確認されている。

奈良・平安時代の遺構は、本遺跡地の東側に位置する富田遺跡群からも57軒の竪穴住居跡が確認されている。また、芳賀東部団地遺跡からは、竪穴住居跡374軒、掘立柱建物遺構206軒と大量に見つかっている。芳賀北部団地遺跡からは、竪穴住居跡227軒、製鉄跡３か所が確認された。こうした遺跡の広がりから、古墳時代から継続的に形成された生活圏は平安時代に入っても途絶えることがなかったようである。上泉・五代町にある檜峯遺跡からは奈良三彩小壺が見つかっている。当時、貴重であった奈良三彩小壺がこの赤城山南麓から出土したことは、この地域の文化的水準が高かったことを示しているといえよう。

Ⅲ　調査の経過

1　調査方針

委託された発掘箇所は、ローズタウン住宅造成事業が計画される部分の17,400㎡である。本遺跡は調査区が南北に離れて位置しているため、北側を北調査区、南側を南調査区に区分し、更に三か所に分断されている南調査区を調査範囲東側から東・中央・西地区に小区分することとした。

グリッドは、４ｍピッチで西から東にX0、X1、X2……、北から南にY0、Y1、Y2……と付番し、各グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。富田下大日Ⅳ遺跡のＸ90Ｙ20の公共座標は次のとおりである。

第Ⅸ系	＋43620.000（X）		－62100.000（Y）
緯度	36°23′28″8966	経度	139°08′27″6104
子午線収差角	24′38″7758	増大率	0.999948

調査方法については、表土掘削・遺構確認・測量基準杭打設・遺構掘り下げ・遺構精査・測量・写真撮影・空撮の手順で行った。図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、住居跡・土坑・井戸跡・掘立柱建物跡は1/20、住居跡竈・炉跡は1/10、溝跡は1/40、土層図・エレベーション図を1/20・1/10縮尺で作成し、遺跡全測図は個別遺構図をもとに作成した。遺物については、平面分布図を作成し、各種記録を記載して収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納した。また、遺構確認の段階で1/100縮尺の現況図を作成し、その後の調査に活用した。

2　調査経過

本遺跡の発掘調査は、本調査範囲を確認した後、調査区内の草刈作業を10月16日から開始した。10月24日より北調査区の表土掘削を重機（バックフォー0.7㎥・10ｔクローラー）で開始し、10月30日からは同じく南調査区の表土掘削を開始した。北調査区の表土掘削は10月31日に終了し、11月５日より人力による遺構確認を行い、古代の住居跡２軒・土坑３基・井戸跡２基・ピット等を確認した。同日北調査区・南調査区東地区に測量基準杭を設置し、遺構掘り下げ・調査を開始した。尚、北調査区の調査は11月８日に中断し、12月７日から再開した。南調査区の表土掘削は11月28日に終了し、表土掘削と併行して遺構確認を行った。11月９日からは南調査区を中心に調査を進め、11月19日には調査の終了した東地区の空撮を実施した。11月30日に中央・西地区に測量基準杭を設置し、西地区より遺構掘り下げ・調査を行い、併せて中央地区の遺構確認を行った。12月11日からは旧石器時代試掘調査・土層観察を開始した。南調査区の遺構掘り下げ・調査は12月26日までに終了し、縄文時代の住居跡４軒・古代の住居跡４軒・土坑63基・溝跡1条・ピット等を検出した。同日、北調査区の遺構調査も終了し、12月27日に両地区の空撮を実施した。１月４日より北・南両地区のグリッド遺物採集を行い、併せてピット等の図面作成を開始した。１月９日より南調査区の埋め戻し作業を行い、11日に現地調査を全て終了した。

整理作業は、現地調査と併行して遺物・図面・写真等の整理に取り組み、３月８日までに報告書作成に係る全ての作業を完成させる運びとなった。

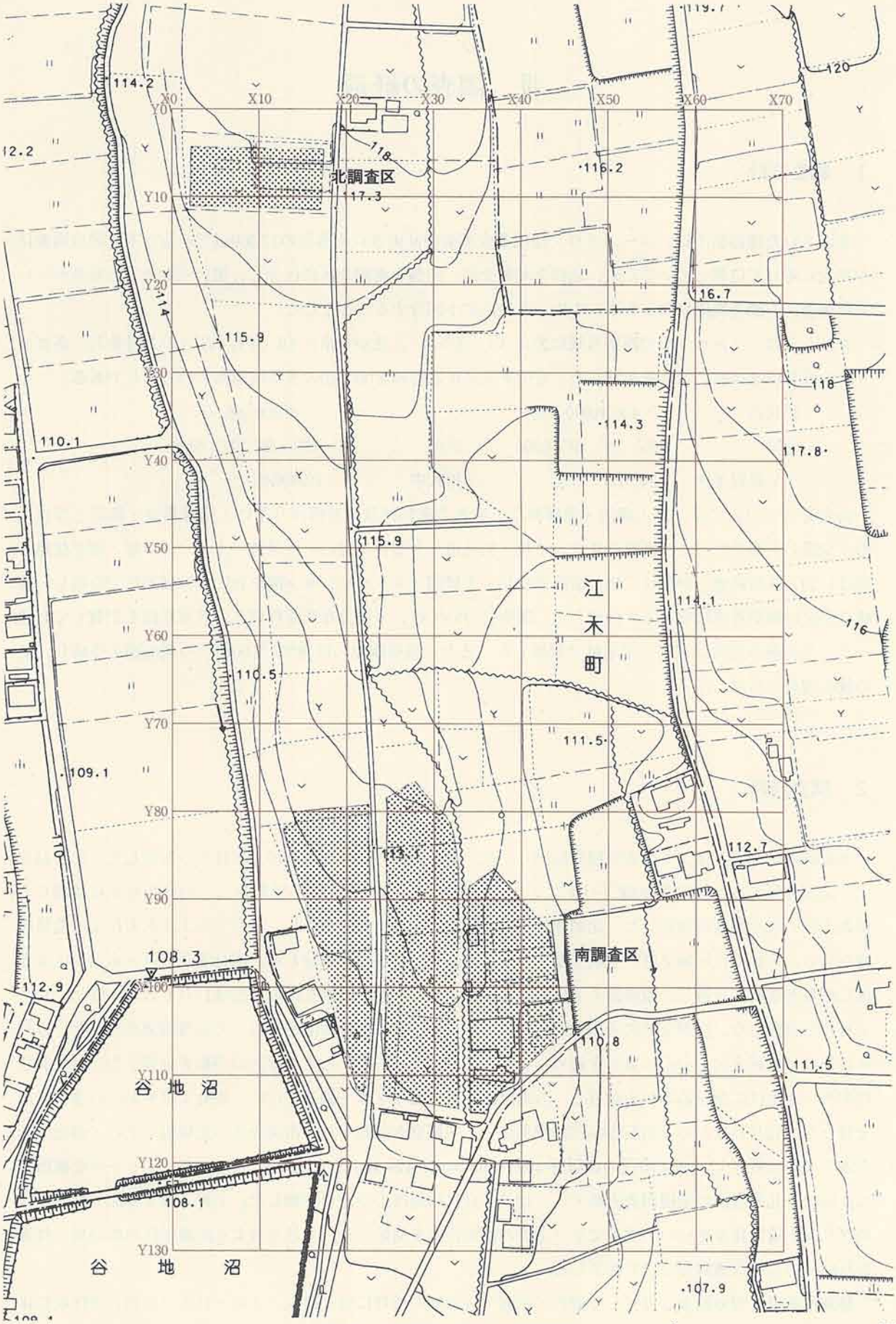


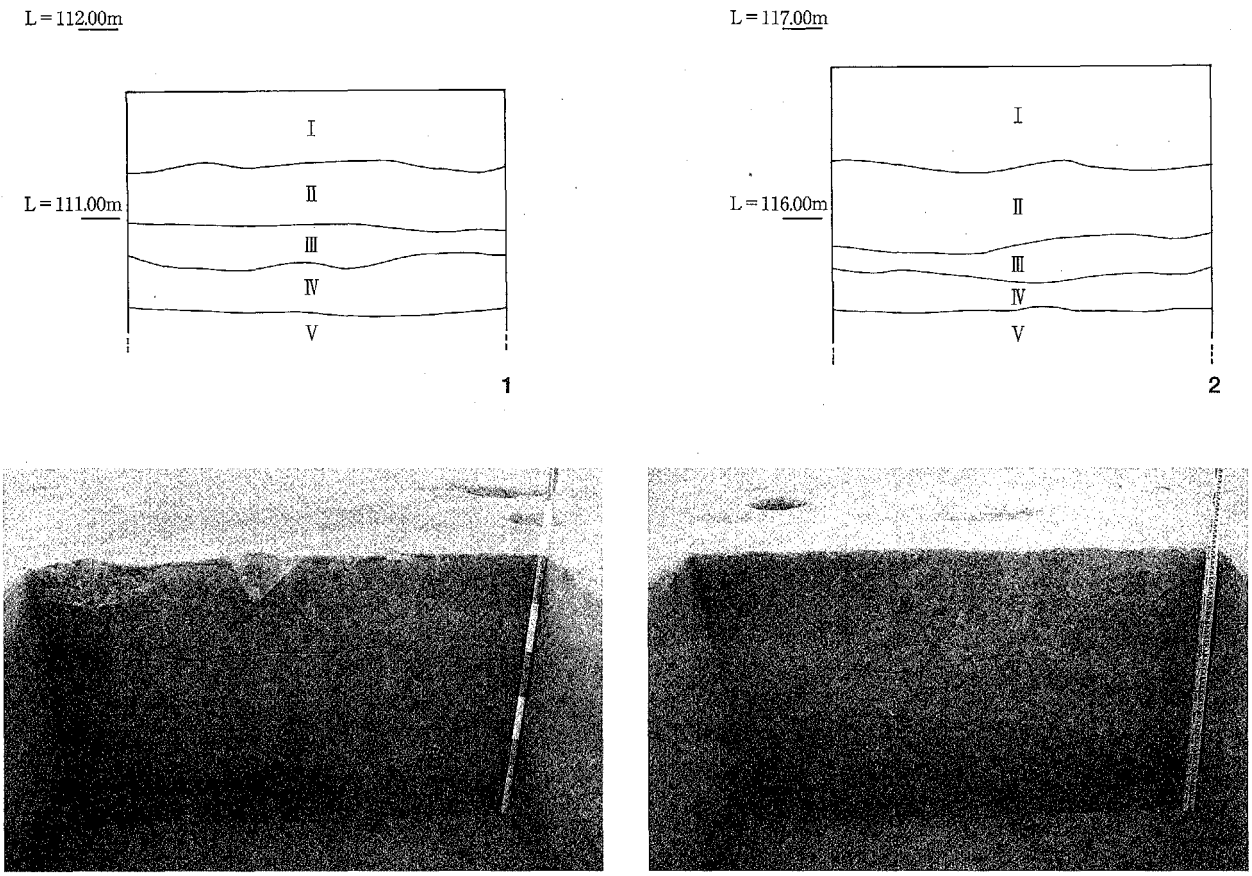
Fig.3　本遺跡とグリッド設定図

Ⅳ 層　　序

富田下大日Ⅳ遺跡は、赤城火山斜面と呼称される赤城山の裾野に属する緩傾斜台地に立地し、周辺には赤城山南麓を源とする中小河川が南流し、ところどころに開析谷が形成されている。標高は概ね110m～118mである。

本遺跡の土層については、旧石器時代試掘坑を掘り下げて、確認面以下の土層を観察した。確認面までは黒色～暗褐色を呈する表土及び耕作土と、一部にローム漸移層的な土層の堆積が見られた。

Fig. 4の1は南調査区、2は北調査区で作成した確認面以下の土層図である。第Ⅰ層は白色軽石を微量含む明黄褐色土、第Ⅱ層は白色軽石・YPを含む明黄褐色土、第Ⅲ層は白色軽石を微量含み、YP及びBPをブロック状に含む明黄褐色土、第Ⅳ層は明黄褐色を呈する粘土層になり、第Ⅴ層は青灰色軽石を微量含む暗褐色の粘土層になる。確認面以下は、ハードローム層になっており、上層のソフトローム層は、耕作等により既に消失したものと考えられる。



Ⅰ　明黄褐色土　締まり・粘性強　白色軽石微量含む
Ⅱ　明黄褐色土　締まり・粘性強　白色軽石・YP微量含む
Ⅲ　明黄褐色土　締まり・粘性強　白色軽石微量・YP・BPブロック状に含む
Ⅳ　明黄褐色粘土層　締まり・粘性強
Ⅴ　暗褐色粘土層　締まり・粘性強、青灰色軽石微量含む

Fig.4　標準土層図

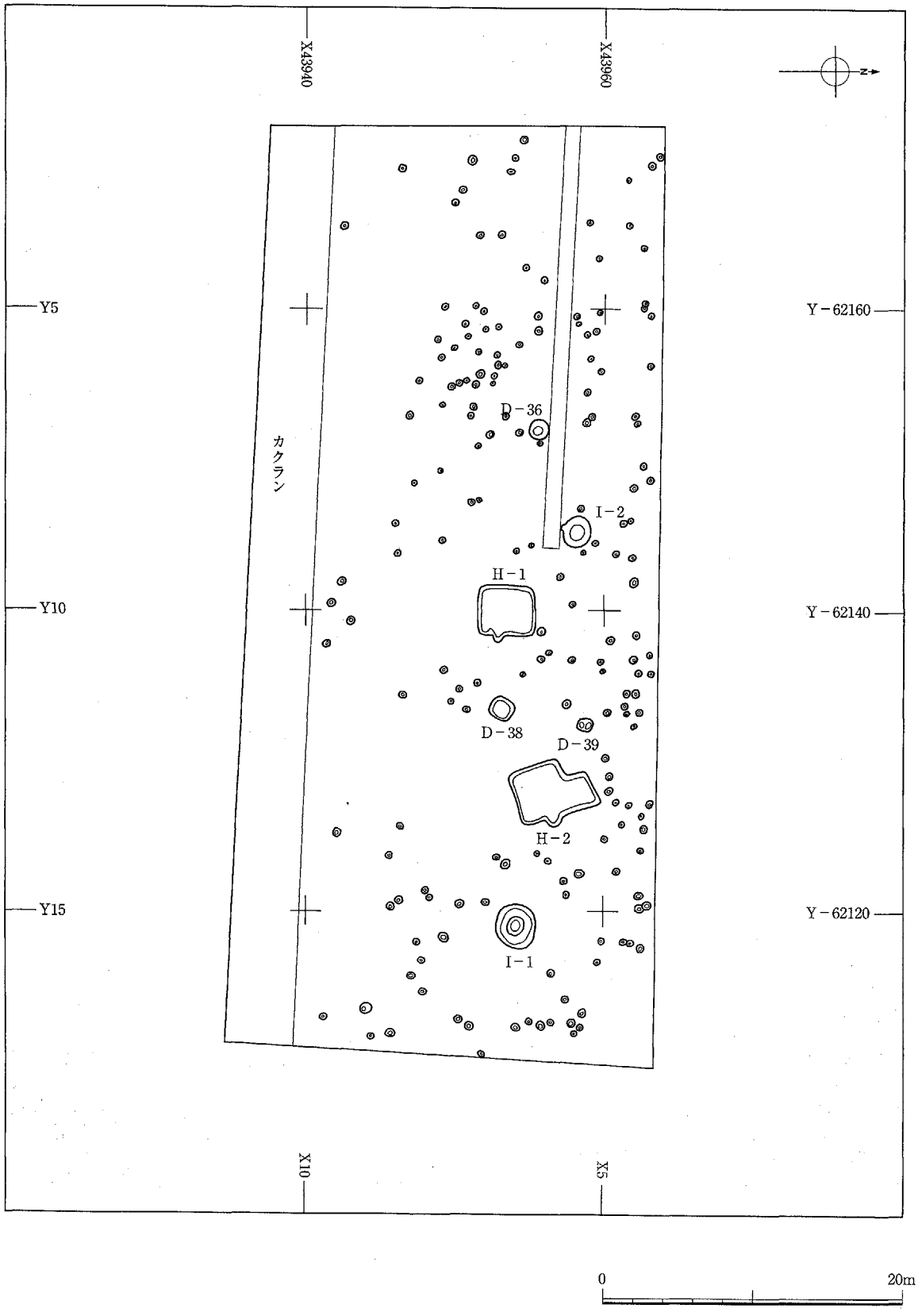


Fig.5　北調査区全体図

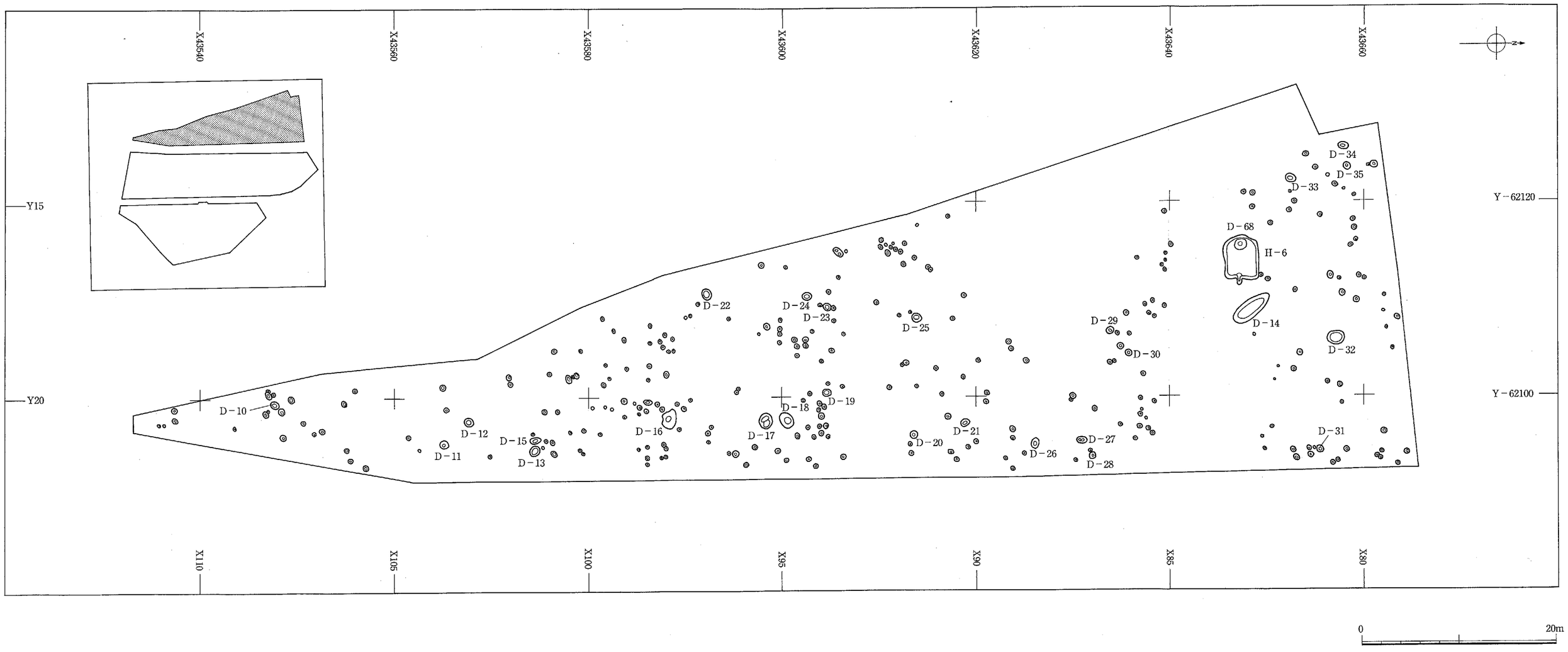


Fig.6　南調査区西地区全体図

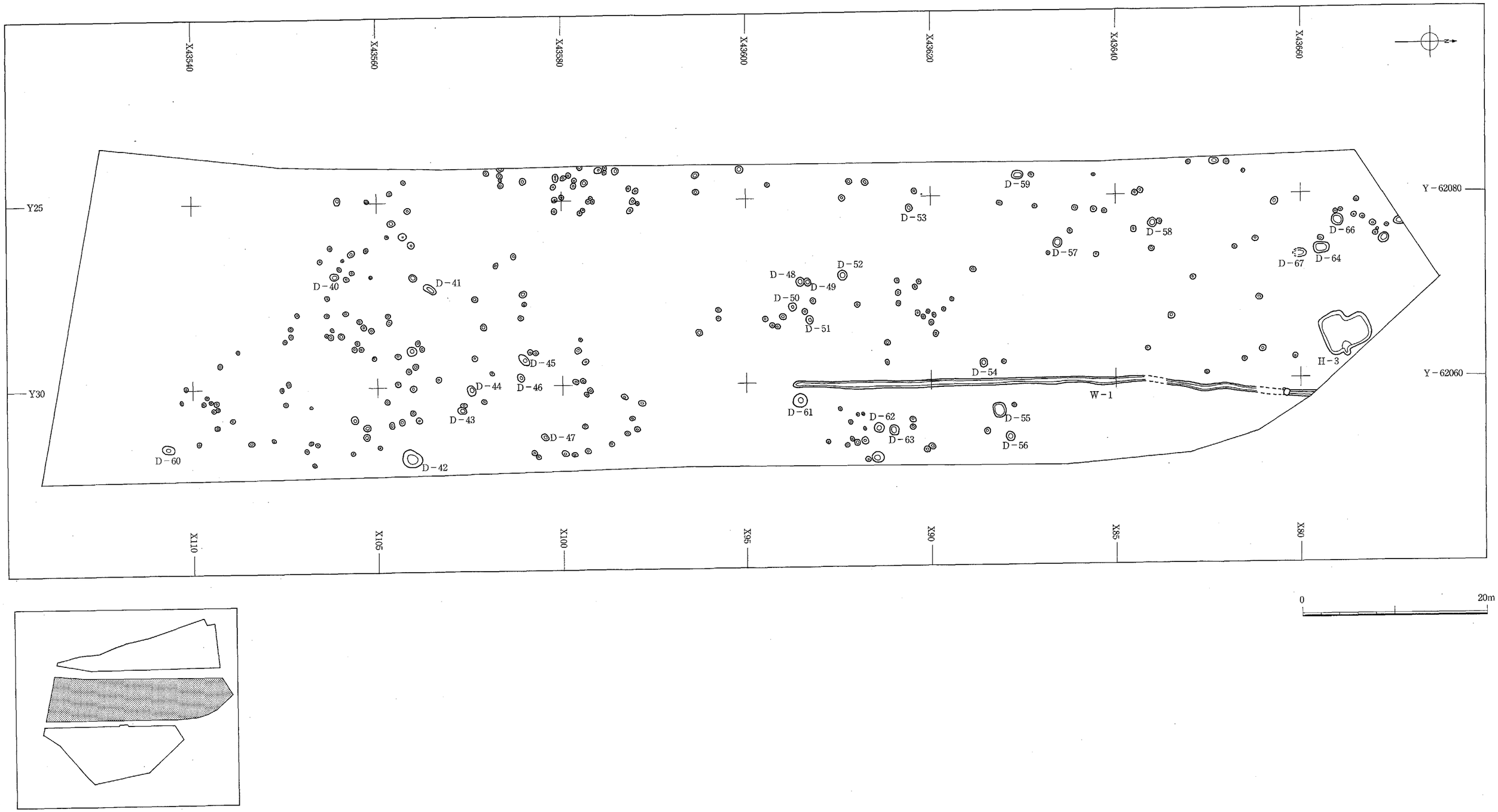


Fig.7　南調査区中央地区全体図

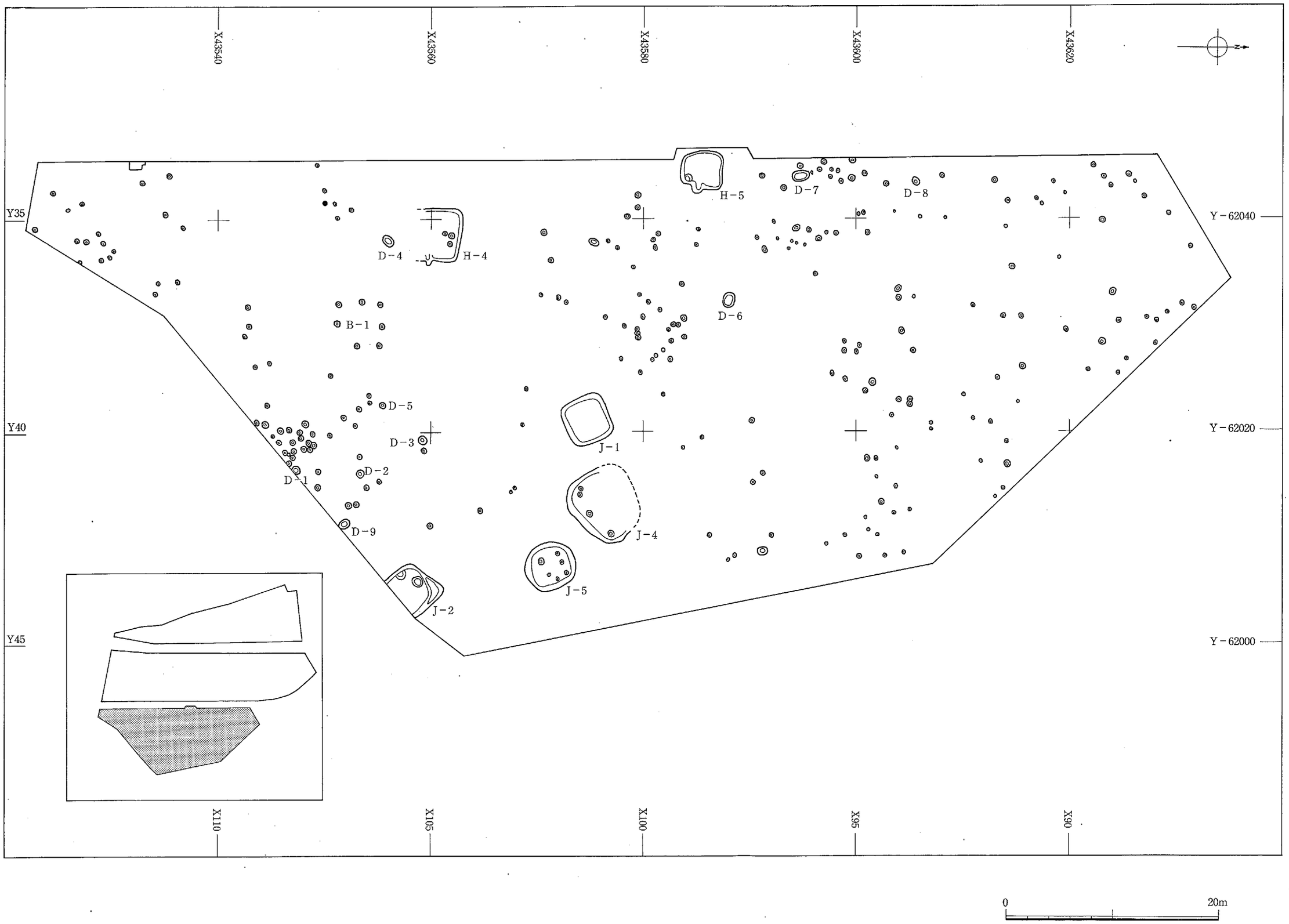


Fig.8　南調査区東地区全体図

Ⅴ　遺構と遺物

1　竪穴住居跡

竪穴住居跡は北調査区から２軒、南調査区から８軒、総数10軒検出された。その内、南調査区東地区の北端部に集中し、弧状に配列された状況で検出された４軒が縄文時代、他の６軒は奈良～平安時代の所産で、散発的に検出されている。

縄文時代

Ｊ－１号住居跡（Fig.12･29、Tab.1・4・5、PL.4・14）

位置　南調査区東地区　X100・101Y39・40グリッドに位置する。　**形状**　南北方向に長軸を持つ方形を呈する。　**規模**　長軸394cm、短軸380cm、壁高60cm。　**壁溝**　北壁及び東壁沿いに確認された。　**炉**　中央部西側に位置する。諸磯ｃ式の深鉢上半部を正位に埋設した埋甕炉で、炉底面には厚さ５cmの焼土が明瞭に残存していた。　**ピット**　床上６か所で確認されたが、径18～25cm、深さ10～15cm程度のもので、柱穴とするには不明瞭である。　**遺物**　埋甕炉に使用されていた15の諸磯ｃ式深鉢上半部の他に、覆土中から黒浜～諸磯ｃ式の土器片（１～14）と有溝砥石（16)、剥片類が少量出土している。

掲載遺物　土器15点、石器１点。

Ｊ－２号住居跡（Fig.12･29、Tab.1・4・5、PL.5・14）

位置　南調査区東地区　X104・105Y43・44グリッドに位置する。　**形状**　南東部分が調査区外になるため、明瞭ではないが方形基調と推測される。　**規模**　長軸（東西方向）410cm、短軸（南北方向）320cm＋調査区外部分、壁高60cm。　**炉**　検出されなかった。　**ピット**　床上に柱穴状のピットはなく、土坑状の浅い掘り込みが北及び西側壁に密着して検出された。径90～100cm、深さ10～15cm。　**遺物**　覆土中から黒浜～諸磯ｃ式の土器片（17～25)、打製石斧（26)、石鏃（27)、剥片等が出土している。

掲載遺物　土器9点、石器2点。

Ｊ－４号住居跡（Fig.13･30、Tab. 1・4・5、PL.5・15）

位置　南調査区東地区　X100・101Y40～42グリッドに位置する。　**形状**　北側が攪乱により消失しているため、明瞭ではないが、東西方向に長軸を持つ隅丸方形～台形と推測される。　**規模**　長軸620cm、短軸510cm、深さ50cm。　**炉**　検出されなかった。　**ピット**　柱穴状のピットが７か所で確認された。径14～30cm、深さ15～60cm。　**遺物**　黒浜～諸磯ｃ式の土器片（28～32）と、南壁際から磨石（33）と数点の自然石が散在して出土している。

掲載遺物　土器５点、石器１点。

Ｊ－５号住居跡（Fig.13･30、Tab. 1・4・5、PL.6・15）

位置　南調査区東地区　X101・102Y43・44グリッドに位置する。　**形状**　南北方向に長軸を持つ隅丸台形。　**規模**　長軸360cm、短軸342cm、壁高54cm。　**炉**　炉の可能性のある浅い楕円形の掘り込みが、南西隅

から検出されたが、焼土は確認されなかった。　ピット　柱穴状のピットが9か所確認され、内2基は壁に接している。径10～30cm、深さ10～40cm。　遺物　覆土中から黒浜・諸磯a式の土器片（34～39）、凝灰岩製垂飾り（40）、有溝砥石（41）、凹石（42）、剥片等が少量出土している。

掲載遺物　土器6点、石器3点。

奈良・平安時代

H－1号住居跡（Fig.14·30、Tab.2・6、PL.6・15）

位置　北調査区中央部　X6Y9・10グリッドに位置する。　形状　南北方向に長い長方形。　壁溝　北西部角の幅約1.2mと南東部の角部を除いて全周する。幅は上端で約8cm，深さは10cm程度である。　竈　東壁の中央部から南に寄った位置にある。燃焼部奥行き約95cm、幅約40cmで、両袖を含めた幅は約105cm、焚き口先端は壁から約70cm離れた位置にある。煙道部は約45°の傾斜で立ち上がり、燃焼部から煙道斜面にかけて、焼土を含んだ堆積と燃焼部奥側では灰の堆積が見られた。　ピット　床上に主柱穴を含めてピットは確認できなかった。　遺物　覆土中から43・44の土師器坏と、竈内から45の土師器甕口縁部・底部が出土している。

掲載遺物　土器3点。

H－2号住居跡（Fig.15·31、Tab.2・6・7、PL.7・15）

位置　北調査区東部　X5・6Y12・13グリッドに位置する。　形状　南北方向に長い長方形で、北東部に大きく張り出しを持ち，南東角にも幅1m、奥行き40cm程の拡張部を持っている。　竈　東壁の中央部から南に寄った位置にある。燃焼部奥行き約75cm、幅約55cmで、両袖を含めた幅は約160cm、焚き口先端は壁から約40cm離れた位置にある。煙道部は約57°の傾斜で急激に立ち上がり、燃焼部から煙道斜面にかけて、焼土粒や焼土ブロック等竈本体の崩壊に伴う土層が堆積し、さらに全体を覆うように厚さ10cm程の粘土層が堆積していた。　壁溝　東壁の竈部分と南東角部の拡張部を除いて全周する。幅は上端で約12cm，深さは3cm程である。　ピット　床上に主柱穴は確認できないが、竈の南側の住居南東部の拡張部で床の軟質な部分が確認された。　遺物　覆土中から46～49の土師器坏と50の土師器甕、51の凝灰岩製砥石が出土している。

掲載遺物　土器5点、石製品1点。

H－3号住居跡（Fig.16·31、Tab.2・6、PL.8・16）

位置　南調査区中央地区北端部　X78・79Y28・29グリッドに位置する。　形状　南北方向に長い長方形で、南東部に張り出しを持っている。　竈　東壁の中央部から南に寄った位置にある。燃焼部奥行き約80cm、幅約50cmで、両袖を含めた幅は約105cm、焚き口先端は壁から約60cm離れた位置にある。煙道部は燃焼部奥から急激に立ち上がり、高さ25cm程の高さで再び緩やかになり、奥行き25cm程の緩斜面の後再び急激に立ち上がる。焚き口部で灰の堆積が燃焼部奥から煙道斜面にかけて、焼土を含んだ堆積が見られた。　ピット　床上にピットが5か所確認されたが、径15cm、深さ10cm程度のもので形状や配列に規則性がない。　遺物　中央南寄りの覆土下層内の床面直上で52の土師器坏、やや浮いて53の土師器坏、中央部の覆土中から57の土師器甕、58の土師器皿が出土している。

掲載遺物　土器8点。

H－4号住居跡（Fig.17･32、Tab.2・6・7、PL.8･16）

位置　南調査区東地区南西部　X104Y34・35グリッドに位置する。　形状　東西方向に長い長方形と見られるが、南部を攪乱穴によって破壊されている。　竈　東壁の中央部南寄りの位置にある。攪乱穴によって右袖が壊されている。燃焼部幅は約60cmで、煙道部は燃焼部奥から約40°の角度で立ち上がる。7層が焼土を含んだ灰層で、5・6層は竈崩壊に伴う焼土ブロックを含む土層である。　ピット　住居中央部北寄りにピットが3か所確認された。径30～60cm、深さ約35cm前後である。　遺物　覆土中から60の須恵器甕体部片、61の砂岩製の石錘が出土している。

掲載遺物　土器1点、石製品1点。

H－5号住居跡（Fig.18･32、Tab.2・6・7、PL.8･9･16）

位置　南調査区東地区西端部　X98Y33・34グリッドに位置する。　形状　南北方向にやや長い長方形である。　竈　東壁の中央部からやや南に寄った位置にある。燃焼部奥行き約60cm、幅約65cmで、両袖を含めた幅は約105cm、焚き口先端は壁から約40cm離れた位置にある。煙道部は燃焼部奥からほぼ45°の角度で立ち上がっている。　ピット　床上に土坑状の掘り込みが2か所確認された。竈の南側の住居の角にある土坑は、径70cm、深さ10cmである。住居北壁際にある土坑は、径約150cm、深さ約20cmで、土層から見て住居廃絶後の住居埋没途中に開けられた土坑である。　遺物　南壁際の床面直上から62の土師器坏、63の須恵器坏、南西部角の床面からわずかに浮いて64の須恵器高台付坏が，北西部床上から67の鉄製鍬先が出土している。北壁際の土坑覆土からは65の土師器高台付椀、66の台付甕、68の鉄鎌が出土している。

掲載遺物　土器5点、鉄製品2点。

H－6号住居跡（Fig.19･33、Tab. 2・6・7、PL.10･16･17）

位置　南調査区西地区北部　X83・84Y16グリッドに位置する。　形状　東西方向に長い長方形である。竈　東壁の中央部にある。燃焼部奥行き約60cm、幅約25cmで、両袖を含めた幅は約100cm、袖部先端は壁から約31cm住居内に突出している。燃焼部奥には、高さ17cm、幅15cm、厚さ12cmの安山岩の自然石が支脚として使用されていた。煙道部はさらに奥の燃焼部奥壁の上から緩やかに傾斜して立ち上がっている。　ピット　床上にピットが2か所確認された。竈南側の住居角にあるピットは、径約60cm、深さ約10cmである。住居中央部にあるピットは、径約64×48cm、深さ47cmである。　遺物　竈前面の床上から69の土師器坏、76の甕が、覆土下層から70の須恵器坏、74の須恵器壺底部が出土している。その他に磁性が弱く鉄を含んでいない流動滓・炉底滓（78～80）が総重量872g出土している。

掲載遺物　土器8点、土製品1点、鉄滓3点。

2　掘立柱建物跡

B－1号掘立柱建物跡（Fig.20、PL.11）

位置　南調査区東地区南部　X106・107Y36・37グリッドに位置する。4号住居跡からは、南東11mの近接した位置にある。　規模・形状　南東角の柱穴が攪乱によって存在していないが、2間×2間と見られる。各柱穴間の距離は、北壁の東側と南壁の西側が約180cm（6尺）、西壁と東壁の北側が約215cm（7尺強）、北

壁の西側は約225cm（7尺半）である。四隅の柱を直角に結ぶ直線に対し、北・西・南の間柱が直線の外に25cm程突出して正確な方形にはならない。　柱穴　各柱穴の大きさは径40～50cm、深さ12～58cmで土層断面から径20cm弱の柱本体の太さが推測される。

遺物・掲載遺物　無。

3　土　坑

土坑は総数66基検出されている。その内、遺物が伴う状況で出土したものはD－14、D－32、D－64、D－66号土坑の4基のみで、時期・性格ともに不明なものが大半を占める。検出された土坑の規模・形状等は計測表（Tab.3）にまとめた。

D－14号土坑（Fig.21·34、Tab.3・6、PL.12·17）

位置　南調査区西地区北部　H－6号住居跡に近接したX82・83Y17・18グリッドに位置する。　規模・形状　長さ3.83m、幅1.44m、深さ北西端で0.30m、南東で0.41mの底面南東下りの長方形である。　遺物　土坑の中には全体に厚さ約20cmの炭化材が多量に堆積し、南東部下層からは81の須恵器椀が出土している。

掲載遺物　土器1点。

D－32号土坑（Fig.23·34、Tab.3・6・8、PL.13·17）

位置　南調査区西地区北部　X80Y18グリッドに位置し、D－14号土坑・H－6号住居跡に比較的近い。規模・形状　径0.72×0.64m、深さ0.20mの楕円形である。　遺物　覆土中から83・84の手捏ね土器2点と、85・86の縄文前期土器片が出土している。

掲載遺物　土器4点。

D－64号土坑（Fig.26·34、Tab.3・8、PL.13·17）

位置　南調査区中央地区北端部　X79Y26グリッドに位置する。　規模・形状　長軸140cm、短軸102cm、深さ50cmの南北方向に長軸を持つ不整方形、断面形は鍋底状を呈する。南側が深い2段掘り込みになり、東壁に接してピット1基を有している。　遺物　底面に潰れた状態で、87の縄文前期中葉黒浜・有尾式期の深鉢口縁～底部に至る大破片が出土している。

掲載遺物　土器1点。

D－66号土坑（Fig.26·34、Tab.3・6、PL.13·17）

位置　南調査区中央地区北端部　X78Y25グリッドに位置し、H－3号住居跡に近い。　規模・形状　径1.40×1.14m、深さ0.27mの方形気味の掘り方を呈す。　遺物　覆土から82の土師器坏が出土している。

掲載遺物　土器1点。

4　井戸跡

Ｉ－１号井戸跡（Fig.28、PL.11）

位置　北調査区北部　X6Y15グリッド内に位置し、Ｈ－２号住居跡の北約８ｍの位置にある。　規模・形状　径2.7m、深さ0.44mで中段面を持ち、さらに径1.2m、深さ１ｍ以上下がり、２段に掘り込まれているが、出水及び危険防止のために掘り下げを断念した。　遺物　遺物は８世紀頃の須恵器甕肩部小片が出土している。

掲載遺物　無。

Ｉ－２号井戸跡（Fig.28）

位置　北調査区中央部　X5Y8グリッドに位置し、Ｈ－1号住居跡からは南西約７ｍの位置にある。　規模・形状　径1.8×1.6mで円筒形に掘られており、深さ2.7mで、出水及び危険防止のために掘り下げを断念した。

遺物・掲載遺物　無。

5　溝　跡

W－１号溝跡（Fig.27、PL.11）

位置　南調査区中央地区　X79～94Y29・30グリッドに位置する。　形状　断面形は逆台形及びU字状を呈し、ほぼ南北方向に走行する。　規模　幅26～58cm、深さ14～28cm、検出長56m。北端部は調査区外に延びている。　遺物　覆土中から流水込みと思われる縄文時代前期土器細片が少量出土している。

掲載遺物　無。

6　グリッド等出土遺物

縄文時代前期初頭及び中葉の土器を主体として、少量の前期後半・中期土器、石器類と、奈良・平安時代の土師器が出土した。大半の遺物は南調査区から出土している。図示したものは縄文土器127点（Fig.34～39)、石器20点（Fig.40・41）である。

主体となる縄文時代の土器は、前期初頭花積下層式期（88～122)、前期中葉黒浜・有尾式期（123～192)、前期後半諸磯ａ・ｂ式期（193～211)、中期中葉勝坂・阿玉台式期（212・213)、中期後半～末葉加曾利Ｅ式期（214・215）に大別され、前期中葉黒浜・有尾式期の出土量が最も多い。石器は図示した石鏃（216～219)、石匙（220)、打製石斧（221～227)、磨製石斧（228)、磨石兼凹石（229)、凹石（230・231)、直線状の摩滅痕を持つ磨石－特殊磨石（232・233)、特殊磨石兼凹石（234)、多孔石（235）の他に剥片類が出土している。

Ⅵ　成果と課題

本遺跡の調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡４軒、奈良～平安時代の竪穴住居跡６軒、掘立柱建物跡１棟、井戸跡２基、溝跡１条、土坑66基、ピット930基が検出され、縄文時代前期を主体とする土器片、石器類、奈良～平安時代の須恵器、土師器、鉄製品、鉄滓、砥石等の遺物が出土した。本章では、本遺跡の主体となる縄文時代前期、奈良・平安時代の遺構と遺物について述べ、調査の成果を示す。

縄文時代

遺　構

本遺跡から検出された縄文時代の遺構は、南調査区東地区の南側に弧状に配列された竪穴住居跡４軒と、南調査区中央地区の北端部に位置し、黒浜・有尾式期の深鉢が底面から出土したＤ－64号土坑である。竪穴住居跡は、Ｊ－１号住居跡から諸磯ｃ式の深鉢上半部を正位に埋設した埋甕炉が検出されており、諸磯ｃ式期と判断される。他の３軒も黒浜～諸磯ｃ式期の遺物が出土していることから、Ｊ－１号住居跡とほぼ同時期と思われるが、判断材料に乏しく、諸磯ｃ式期以前・前期後半の所産としたい。尚、遺構外出土遺物ではあるが、南調査区全域に亘って花積下層式、黒浜・有尾式、諸磯ａ式、諸磯ｂ式期の遺物が散在し、北調査区からも同時期の遺物が出土していることから、本遺跡周辺は、縄文時代前期のほぼ全般に亘って居住空間として利用されていた可能性が高い。

遺　物

調査で検出された遺物で特筆されるものは、群馬県内でも良好な出土例が少ない前期初頭花積下層式期の遺物である。いずれも遺構外出土遺物であるが、出土量も前期中葉黒浜・有尾式期に次いで多く見られる状況であった。

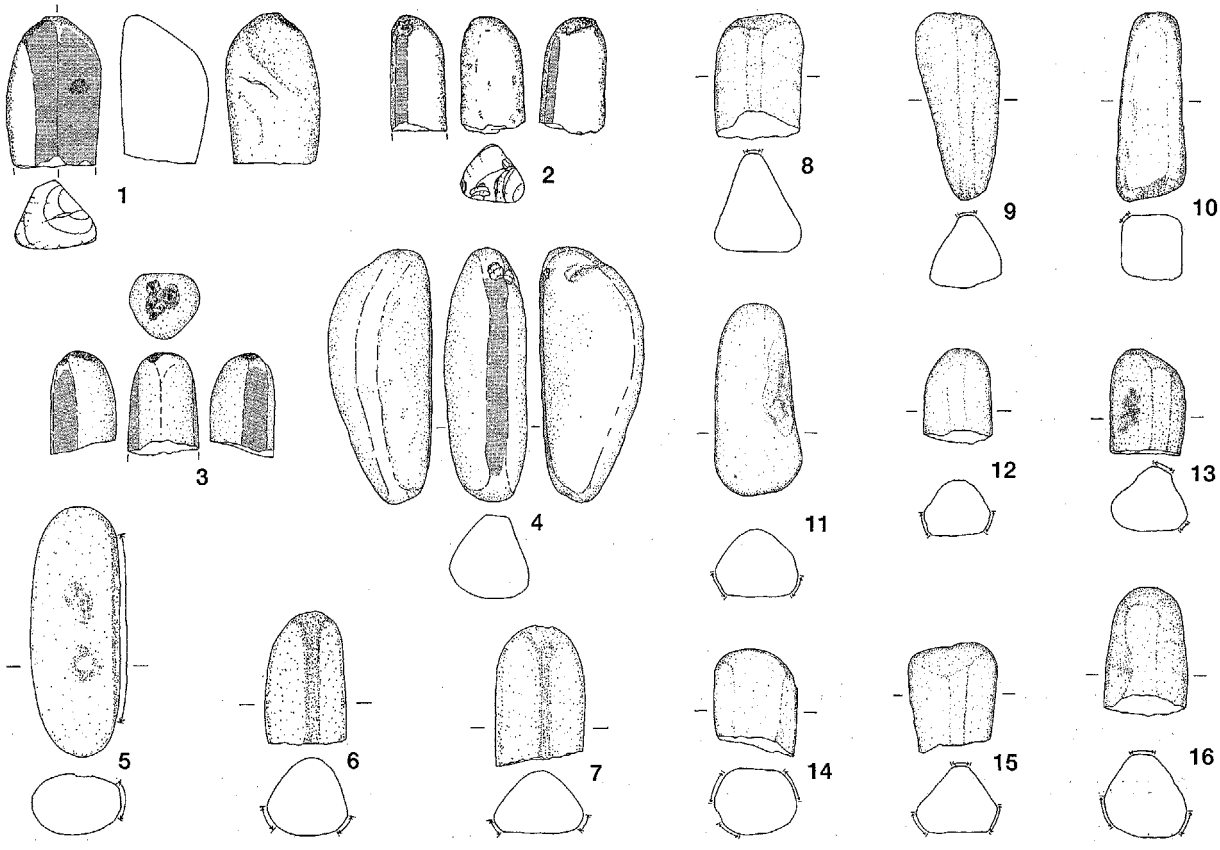
出土した花積下層式土器は、口縁部に原体側面圧痕を施文するものがあり、胴部～底部に単節縄文（０段多条主体）を菱形～Ｖ字状に施文し、底部は尖底が主体となる花積下層式期でも古い段階、前期最初頭に位置するものである。本遺跡で多量に出土した黒浜・有尾式期の胴部片と文様・胎土が酷似し、判別しづらいが、胴下部でＶ字状、縦方向に縄文を施文すること、内面が比較的良く磨かれている黒浜・有尾式期に比べて荒れた感じの調整で、器肉が概して厚い等が特徴として挙げられる。

群馬県内において早期末～前期最初頭の遺物を出土した主な遺跡は、北群馬郡小野上村八木沢清水遺跡、碓氷郡松井田町横川大林遺跡、佐波郡赤堀町五目牛清水田遺跡等が挙げられる。八木沢清水遺跡と横川大林遺跡は、早期末に比定される絡条体圧痕文土器と花積下層式土器が出土しており、不明瞭な早期末～前期初頭の編年を考える上で重要な遺跡とされている。また、五目牛清水田遺跡は、本遺跡と同時期の前期最初頭が主体であり、早期末の遺物はほとんど見られないことから、絡条体圧痕文期と花積下層式期が時期差を有する傍証になり得るものと捉えられよう。

出土した石器の内、花積下層式期に伴う可能性のあるものとして、3点出土した直線状の摩滅痕をもつ磨石－特殊磨石（232・233・234）が挙げられる。232・233は断面三角形を呈する自然礫の２角面を使用する破損品で、234は楕円形断面の側縁片側のみを使用する凹石兼特殊磨石である。この種の磨石が大量に出土した前述の横川大林遺跡の例を見ても、早期末に非常に多く使用されていたことが明確であり、前期初頭ま

で残存した可能性は高いと判断される。

いわゆる特殊磨石（Fig.9－1～16参照）は、角柱状・円柱状の自然礫の稜線部を使用し、礫の稜線部に狭長な使用面が残されたものであり、各遺跡からの出土品は圧倒的に破損品が多く、破損後はほとんど使用されないことが特長として挙げられる。早期を中心とする時期に限定される遺物で、所属時期・使用目的等注意を要するが、磨石等の礫石器類は使用痕に乏しく、大半が破損品であることから軽視されがちであり、今後の資料の集成を待って検討すべき課題であろう。



1～4　八木沢清水遺跡　5～7　富田下大日Ⅳ遺跡　8～16 横川大林遺跡

Fig.9　特殊磨石・直線状の摩滅痕を持つ磨石例

奈良～平安時代

遺　構

本遺跡から検出された奈良～平安時代の竪穴住居跡は6軒で，8世紀前半～9世紀末頃にかけての時期のものである。8世紀前半代の竪穴住居跡の中で北地区のH－2号住居跡（Fig.10－5）、南地区のH－3号住居跡は平面形がL字形を呈した特異な形態をしている。H－2号住居跡は、北壁の東側を北に向かって幅1.8m、奥行き1m程拡張している。H－3号住居跡も同様に北壁東部を幅2.2m、奥行き1.6m程拡張している。類例を近隣の遺跡で探すと、本跡と同じ様に北壁東部を拡張している竪穴住居跡は、前橋市鳥羽遺跡で見られる。鳥羽遺跡H区28号住居跡（Fig.10－2）は拡張部幅約1.8m、奥行き1.3mで本跡H－2号住居跡の数値に近く、さらに竈右脇の住居南東コーナー部を部分拡張している点も共通している。鳥羽遺跡のⅠ区105号住居跡（Fig.10－1）では拡張部の幅がやや広く、Ⅰ区108号住居（Fig.10－3）では奥行きが深い。下東西

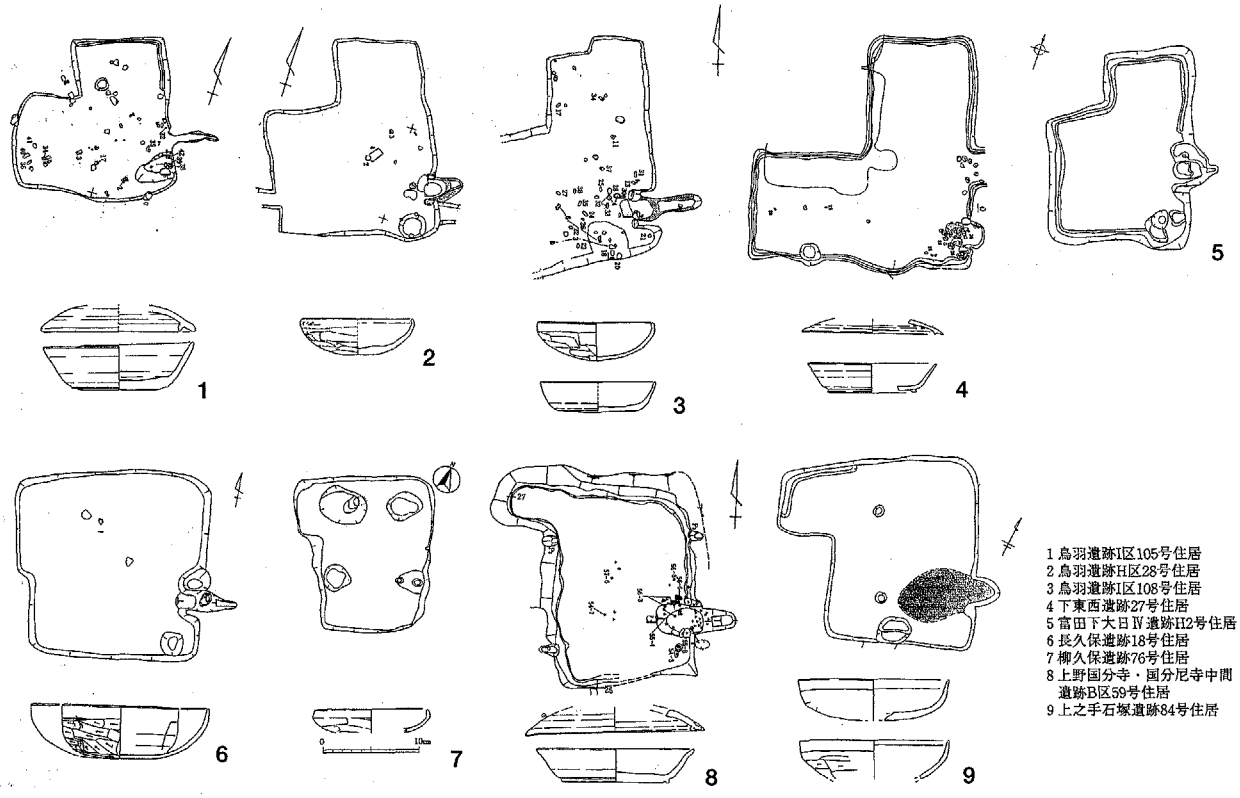


Fig.10　L字形プランの竪穴住居跡

遺跡のＳＪ27は２軒の竪穴住居跡が廊下によって連結されている住居であるが、このＬ字形プランは拡張というよりも方形のプランの北西1/4部分を掘り残していると言った方がいいかもしれない。それほど均整のとれた形態をしている。以上の竪穴住居跡から出土している遺物は、かえりのついた須恵器の蓋や底径が大きく底部回転ヘラ削りの坏、丸底で口縁部の内彎気味の土師器坏等で、７世紀末～８世紀初め頃の時期の遺構と見られる。図示していないが芳賀北部団地遺跡からは北壁の拡張の幅が1.65mと狭いものがあり、出土遺物は８世紀中頃の須恵器坏である。

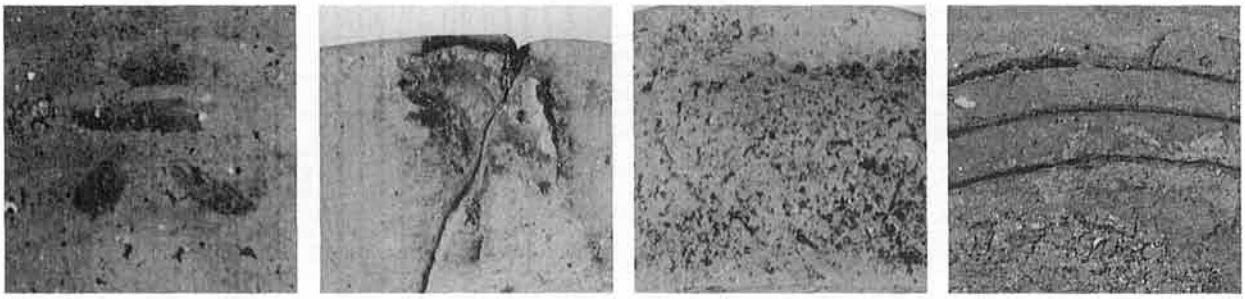
また、Fig.10－６～９のように北壁ではなく、竈対面の西壁の北西部を拡張するものや、図示していないが下東西遺跡のＳＪ3・ＳＪ118のように西壁南部の拡張例もある。下東西遺跡のＳＪ118の場合、出土遺物は９世紀代のものである。

遺　物

本遺跡から出土している遺物は、土器・鉄製品・石製品である。土器は奈良～平安時代の土師器・須恵器と手捏ね土器があり、土師器は非ロクロの土師器坏が主体である。非ロクロの土師器坏は、丸底のものと平底のものがあり、丸底のものは体部外面に稜を持ち口縁部が強く外反するものと、口縁部が内彎気味なものがある。平底の坏は口縁部に歪みや外面の指頭圧痕が見られる等、成形・調整が比較的粗雑である。土師器甕は、口縁部と体部の境の不明瞭な長胴甕と体部外面をヘラ削りし、器壁を薄くしている甕がある。須恵器は、底径が大きく底部回転ヘラ削り調整のものと回転糸切り無調整のものがある。

墨書土器は須恵器坏の体部側面に「六」の文字が正位で描かれているものが１点出土している（Fig.11－１）。土師器坏には口縁部に油煙痕が残り灯明皿として使用されているものがある（Fig.11－２）。同じく土師器坏の中に体部外側面の口縁部のヨコナデ調整と底部のヘラ削り調整の施される間の部分に小さなヒビ・皺が入るものがあり、これは８世紀代のもの・９世紀代のもの両方にも見られる（Fig.11－３）。須恵器壺の高台接合部に沈線を入れているものが見られた（Fig.11－４）。

鉄製品は、５号住居跡から鍬先、５号住居跡の廃絶後に掘られた穴から鉄鎌が出土している。その他に６号住居跡からは鉄滓と羽口が出土している。石製品は４号住居跡から紐通し穴のあく砂岩製の大型品が出土しており石錘状であるが用途は不明である。



1　2　3　4

Fig.11　墨書・油煙痕・その他

主要参考文献および引用文献

1986　群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団『三原田城遺跡・八崎城址・八崎塚・上青梨子古墳』
関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第13集

1986　群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団『糸井宮前遺跡Ⅱ』
関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第14集

1986　群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団『鳥羽遺跡Ｇ・Ｈ・Ｉ区』
関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第11集

1987　群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団『下東西遺跡』
関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第16集

1991　前橋市教育委員会『芳賀西部団地遺跡』　芳賀団地遺跡群 第4巻

1993　建設省・群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団『五目牛清水田遺跡』
一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1994　前橋市教育委員会『芳賀北部団地遺跡Ⅰ』　芳賀団地遺跡群 第５巻

1997　日本道路公団・群馬県教育委員会・松井田町遺跡調査会『横川大林遺跡・横川萩の反遺跡・原遺跡・西野牧小山平遺跡』
関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書

1997　小野上村教育委員会『八木沢清水遺跡』

1998　川白田遺跡調査会『川白田遺跡』

1998　安中市教育委員会『中野谷松原遺跡』

1990　埼玉考古学会『シンポジウム　大木・有尾そして黒浜』
―縄文前期中葉土器群にみる系統と交流の実態―　埼玉考古別冊３

1994　縄文セミナーの会『早期終末・前期初頭の諸様相』

1997　縄文セミナーの会『前期中葉の諸様相』

2001　縄文セミナーの会『早期後半の再検討』

Tab.1　縄文時代住居跡一覧表

遺構名	調査区	位　置	平面形	長軸	短軸	壁高	炉	ピット	出土遺物	備　考
J－1	南(東)	X100・101Y39・40	方形	394	390	60	中央部	6	黒浜～諸磯c、有溝砥石	諸磯c式深鉢上半部埋甕炉
J－2	南(東)	X104・105Y43・44	方形基調	410	—	60	無	無	黒浜～諸磯c、石鏃、打製石斧	南東部調査区外　土坑状掘り込み2
J－3	欠　番									
J－4	南(東)	X100・101Y40～42	隅丸方形～台形	620	510	50	無	7	黒浜～諸磯c、磨石	北側撹乱で消失
J－5	南(東)	X101・102Y43・44	隅丸台形	360	342	54	無	9	黒浜～諸磯a、凹石、垂飾り、有溝砥石	土坑状掘り込み1

Tab.2　奈良～平安時代住居跡一覧表

遺構名	調査区	位　置	規模（cm）			面積（㎡）	壁溝	竈位置	ピット	方　位	出土遺物
			東西	南北	壁高						
H－1	北	X6Y9・10	3.4	3.7	40	8.4	有	東壁の中央部から南寄り	無	N－92°－E	土師器坏・甕
H－2	北	X5・6Y12・13	3.8	3.6(5.3)	64	12.2	有	東壁の中央部から南寄り	無	N－70°－E	土師器坏・甕、砥石
H－3	南(中央)	X78・79Y28・29	4.3	2.8(5.0)	55	15	無	東壁の中央部から南寄り	5	N－68°－E	土師器坏・甕
H－4	南(東)	X104Y34・35	4.7	－	77	－	無	東壁の中央部から南寄り	3	N－101°－E	須恵器甕、石錘
H－5	南(東)	X98Y33・34	3.4	4.4	57	11.3	無	東壁の中央部から南寄り	2	N－95°－E	土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏、鉄製鏃先
H－6	南(西)	X83・84Y16	4.3	3.5	60	11.4	無	東壁の中央部から南寄り	2	N－93°－E	土師器坏・須恵器坏・壺、鉄滓、羽口

Tab.3　土坑計測表

遺構名	調査区	位　置	平面形	断面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
D－1	南(東)	X108Y40	円　形	U字状	50	44	20	
D－2	南(東)	X106Y40	円　形	鍋底状	57	53	28	
D－3	南(東)	X105Y40	円　形	鍋底状	69	65	30	ピット1
D－4	南(東)	X105・106Y35	円　形	皿　状	106	86	12	ピット1
D－5	南(東)	X106Y39	隅丸方形	鍋底状	52	35	32	
D－6	南(東)	X97・98Y36	長方形	鍋底状	115	75	27	
D－7	南(東)	X96Y33・34	不整形	皿　状	144	86	12	
D－8	南(東)	X93Y34	不整形	鍋底状	64	42	25	ピット1
D－9	南(東)	X107Y42	楕円形	皿　状	95	65	12	
D－10	南(西)	X108Y20	円　形	鍋底状	65	60	35	
D－11	南(西)	X103Y21	円　形	鍋底状	64	59	35	一部袋状
D－12	南(西)	X103Y20	円　形	鍋底状	82	73	34	
D－13	南(西)	X101Y21	楕円形	鍋底状	70	62	37	2段掘り込み
D－14	南(西)	X82・83Y17・18	長楕円形	鍋底状	382	144	47	須恵器墨書坏出土
D－15	南(西)	X101Y21	楕円形	鍋底状	85	52	53	2段掘り込み
D－16	南(西)	X97・98Y20	不整形	皿　状	215	145	26	ピット4
D－17	南(西)	X95Y20	楕円形	皿　状	166	130	30	2段掘り込み
D－18	南(西)	X94Y20	楕円形	鍋底状	162	110	36	ピット1
D－19	南(西)	X93Y19	楕円形	鍋底状	72	56	24	
D－20	南(西)	X91Y20・21	円　形	鍋底状	70	59	32	2段掘り込み
D－21	南(西)	X80Y20	楕円形	V字状	74	47	30	
D－22	南(西)	X96・97Y17	円　形	鍋底状	113	100	34	
D－23	南(西)	X93Y17	楕円形	鍋底状	67	56	28	
D－24	南(西)	X94Y17	楕円形	鍋底状	76	63	33	
D－25	南(西)	X91Y17・18	円　形	鍋底状	76	72	36	

遺構名	調査区	位　置	平面形	断面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　　考
D－26	南(西)	X88Y21	楕円形	鍋底状	81	58	25	
D－27	南(西)	X87Y21	楕円形	U字状	98	80	30	ピット2
D－28	南(西)	X87Y21	円　形	鍋底状	52	50	30	
D－29	南(西)	X86Y18	円　形	V字状	67	62	26	ピット1
D－30	南(西)	X86Y18	円　形	鍋底状	50	45	34	
D－31	南(西)	X83Y21	楕円形	鍋底状	72	56	26	ピット1
D－32	南(西)	X80Y18	円　形	鍋底状	148	132	30	
D－33	南(西)	X81・82Y14	円　形	鍋底状	90	74	38	
D－34	南(西)	X80Y13	楕円形	鍋底状	88	68	32	
D－35	南(西)	X80Y14	円　形	鍋底状	38	35	25	
D－36	北	X5・6Y6・7	略方形	鍋底状	82	74	36	
D－37	欠　番（Ⅰ－2号井戸跡に変更）							
D－38	北	X6Y11	方　形	皿　状	156	146	25	
D－39	北	X5Y11	長方形	U字状	102	72	28	ピット1
D－40	南(中央)	X106Y26・27	楕円形	鍋底状	106	75	32	手捏ね土器出土
D－41	南(中央)	X103・104Y27	長楕円形	鍋底状	110	52	39	
D－42	南(中央)	X103・104Y31・32	不整形	鍋底状	225	154	66	
D－43	南(中央)	X102Y30	円　形	皿　状	77	75	11	
D－44	南(中央)	X102Y30	楕円形	鍋底状	90	72	40	
D－45	南(中央)	X100・101Y29	長方形	鍋底状	140	80	28	
D－46	南(中央)	X101Y29	楕円形	鍋底状	78	53	48	
D－47	南(中央)	X100Y31	円　形	U字状	60	54	40	
D－48	南(中央)	X93Y27	楕円形	鍋底状	85	68	30	
D－49	南(中央)	X93Y27	円　形	鍋底状	64	56	25	
D－50	南(中央)	X93Y27・28	円　形	鍋底状	70	67	32	2段掘り込み
D－51	南(中央)	X93Y28	円　形	鍋底状	60	58	22	
D－52	南(中央)	X92Y27	不整方形	鍋底状	100	82	32	2段掘り込み
D－53	南(中央)	X90Y25	円　形	鍋底状	56	52	42	2段掘り込み
D－54	南(中央)	X88Y29	円　形	鍋底状	77	70	36	
D－55	南(中央)	X87・88Y30	方　形	鍋底状	137	98	40	
D－56	南(中央)	X87Y31	円　形	鍋底状	90	84	33	
D－57	南(中央)	X86Y24	円　形	鍋底状	80	77	22	
D－58	南(中央)	X83Y25	円　形	鍋底状	70	64	20	撹乱有
D－59	南(中央)	X87Y24	楕円形	鍋底状	122	76	33	撹乱有
D－60	南(中央)	X110Y31	楕円形	U字状	123	75	25	撹乱有
D－61	南(中央)	X93Y30	不整方形	U字状	144	140	65	2段掘り込み
D－62	南(中央)	X91Y31	円　形	鍋底状	78	72	34	
D－63	南(中央)	X90Y31	楕円形	鍋底状	100	73	27	
D－64	南(中央)	X79Y26	不整方形	鍋底状	140	102	50	2段掘り込み・ピット1 黒浜式深鉢出土
D－65	欠　番							
D－66	南(中央)	X78Y25	台　形	鍋底状	126	108	30	ピット1・土師器坏出土
D－67	南(中央)	X79Y26	楕円形	鍋底状	110	104	38	2段掘り込み
D－68	南(西)	X83Y16	円　形	皿　状	123	110	13	

Tab.4　縄文時代住居跡出土土器観察表

番号	出土位置	胎　土	焼　成	色　調	遺存度	文様要素・文様構成・器形の特徴	時　期	備　考
1	J－1覆土	繊維・石英	良　好	褐	口 縁 部	口唇刻み、口縁部多段円形刺突文	黒浜ヵ	2・3と同一個体
2	J－1覆土	繊維・石英	良　好	褐	口 縁 部	口唇刻み、口縁部多段円形刺突文	黒浜ヵ	1・3と同一個体
3	J－1覆土	繊維・石英	良　好	褐	口 縁 部	口唇刻み、口縁部多段円形刺突文	黒浜ヵ	1・2と同一個体
4	J－1覆土	繊維・石英	良　好	褐	口～胴部	単節ＬＲ斜縄文	黒浜ヵ	1～3と同一個体ヵ
5	J－1覆土	繊維・細砂粒	良　好	淡赤褐	口 縁 部	波状口縁、平行沈線	黒浜・有尾	
6	J－1覆土	繊維・砂粒	良　好	褐	口～胴部	菱形構成平行沈線	黒浜・有尾	
7	J－1覆土	繊維	良　好	褐	胴　　部	平行沈線	黒浜	
8	J－1覆土	繊維・赤色粒	良　好	淡赤褐	胴　　部	単節ＬＲ斜縄文	黒浜	
9	J－1覆土	繊維・白色粒	不　良	黄　褐	胴　　部	単節ＬＲ斜縄文	黒浜	
10	J－1覆土	繊維・細砂粒	良　好	赤　褐	胴　　部	単節ＬＲ斜縄文	黒浜	
11	J－1覆土	繊維	良　好	赤　褐	胴　　部	無節Ｌ斜縄文	黒浜	
12	J－1覆土	繊維	良　好	赤　褐	胴　　部	単節ＲＬ斜縄文	黒浜	
13	J－1覆土	細砂粒	良　好	黄　褐	胴　　部	地文単節斜縄文＋横位平行沈線、口縁開く	諸磯ｂ	
14	J－1覆土	砂粒・小石	不　良	淡　褐	底　　部	無文、底部張り出す	諸磯ａ・ｂ	
15	J－1埋甕炉	細砂粒	良　好	黄　褐	口～胴部	集合沈線＋ボタン状・棒状貼付文、口縁大きく開く	諸磯ｃ	外面煤付着
17	J－2覆土	繊維・細砂粒	良　好	淡　褐	口 縁 部	横位結節平行沈線、単節縄文	黒浜	
18	J－2覆土	繊維・細砂粒	良　好	灰　白	口 縁 部	単節ＬＲ斜縄文	黒浜	
19	J－2覆土	繊維・砂粒	不　良	褐	胴　　部	無節Ｌ斜縄文	黒浜	
20	J－2覆土	繊維・細砂粒	良　好	暗赤褐	胴　　部	単節ＬＲ＋ＲＬ羽状縄文	黒浜	
21	J－2覆土	繊維・砂粒	良　好	赤　褐	胴　　部	地文単節ＲＬ斜縄文＋横位結節沈線	黒浜	
22	J－2覆土	細砂粒・雲母	良　好	褐	口 縁 部	沈線	諸磯ａ	
23	J－2覆土	細砂粒・雲母	良　好	赤　褐	胴　　部	縦位・横位集合沈線	諸磯ｃ	
24	J－2覆土	細砂粒・雲母	良　好	橙	胴　　部	縦位集合沈線	諸磯ｃ	
25	J－2覆土	砂粒・雲母	良　好	赤　褐	底　　部	横位集合沈線	諸磯ｂ	
28	J－4覆土	繊維・細砂粒	良　好	淡赤褐	胴　　部	単節ＬＲ斜縄文	黒浜	
29	J－4覆土	繊維・白色粒	良　好	黒	胴　　部	単節ＬＲ斜縄文	黒浜	
30	J－4覆土	繊維・細砂粒	良　好	淡赤褐	胴　　部	無節Ｒ斜縄文	黒浜	
31	J－4床面	細砂粒	良　好	黒	口 縁 部	斜位集合沈線＋棒状貼付文	諸磯ｃ	内面煤付着
32	J－4覆土	細砂粒・雲母	良　好	赤	胴　　部	縦位集合沈線	諸磯ｃ	
34	J－5覆土	繊維・細砂粒	良　好	橙	胴　　部	横位撚糸文	黒浜	
35	J－5覆土	繊維・砂粒	良　好	灰　白	胴　　部	単節ＬＲ＋ＲＬ羽状縄文	黒浜	
36	J－5覆土	繊維・石英	良　好	淡赤褐	胴　　部	単節ＬＲ＋ＲＬ羽状縄文	黒浜	
37	J－5覆土	繊維・細砂粒	良　好	淡　褐	胴　　部	無節Ｌ斜縄文	黒浜	
38	J－5覆土	繊維・砂粒	良　好	灰　白	胴　　部	連続波状沈線	黒浜	
39	J－5覆土	細砂粒	良　好	淡　褐	口～胴部	口縁部無文、胴部無節Ｌ斜縄文	諸磯ａ	

Tab.5　縄文時代住居跡出土石器観察表

番号	出土位置	種　類	石　材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備　考
16	J－1覆土	有溝砥石	砂岩	(7.0)	(3.5)	1.0	30.50	破片
26	J－2覆土	打製石斧	シルト岩	10.7	6.0	1.6	88.20	撥形
27	J－2覆土	石　鏃	黒曜石	3.4	1.5	0.5	1.85	円基鏃・木葉形
33	J－4覆土	磨　石	輝石安山岩	9.7	8.7	6.3	731.00	
40	J－5覆土	垂 飾 り	凝灰岩	3.4	4.2	1.2	32.80	孔径0.6cm・片面穿孔
41	J－5覆土	有溝砥石	砂岩	(6.7)	5.0	1.3	61.40	残存約1/2
42	J－5覆土	凹　石	輝石安山岩	13.0	7.5	5.2	522.11	三面使用

Tab.6　奈良～平安時代住居跡・土坑出土土器観察表

番号	出土位置	器　種	器　形	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎　土	色　調	焼　成	成形・調整技法	遺存度%	備　考
43	H－1覆土	土師器	坏	[13.6]	3		石英微粒多量、角閃石粒少量	橙	普通やや良	底部ヘラケズリ	20	
44	H－1覆土	土師器	坏	[16.6]			石英微粒、角閃石	橙	普通やや良	断面内側弱還元	20	
45	H－1竈	土師器	甕	10.6			長石・石英・角閃石・砂粒多量	橙			10	
46	H－2覆土	土師器	坏	[12.8]	[2.2]		石英微砂粒	にぶい橙	普通やや不良	底部ヘラケズリ	10	
47	H－2覆土	土師器	坏	[12.8]	3.0		石英微粒	にぶい橙	普通		30	
48	H－2覆土	土師器	坏	[12.0]	3.3		長石・石英・角閃石微粒多量	橙	普通	底部ヘラケズリ	40	灯明皿
49	H－2覆土	土師器	坏	[18.0]	[4.2]		石英・角閃石微粒	橙	普通		30	
50	H－2覆土	土師器	甕	[22.9]			石英微粒	にぶい橙	普通		10	
52	H－3床	土師器	坏	12.8	4		石英・角閃石微砂粒	にぶい褐	普通			
53	H－3覆土	土師器	坏	15.5	3.6		石英・角閃石微砂粒	にぶい橙	普通		70	
54	H－3覆土	須恵器	蓋				長石微粒、黒色小粒	灰　白	良好		30	
55	H－3覆土	須恵器	坏	[14.4]	4.0	[8.2]	灰色礫、鉄分粒多い	灰	普通		30	
56	H－3覆土	土師器	甕	[11.6]			石英・角閃石その他微粒	にぶい橙	普通やや良		15	
57	H－3覆土	土師器	甕	[20.8]			長石・石英主体の砂粒多量	にぶい橙	普通	体部外面縦位ヘラケズリ	10	
58	H－3覆土	土師器	皿	[13.2]	3.1	6.4	微砂粒多量、石英・礫少量	灰　褐	酸化炎、やや不良		30	外面炭化物付着
59	H－3覆土	黒色土器	把手付坏	[11.6]			石英微粒子	黒		体部内外面ヘラミガキ	10	
60	H－4覆土	須恵器	甕				長石砂粒少量、鉄分黒色粒少量	灰	良好	外面斜格子、内面同心円アテ具痕	5	
62	H－5床面	土師器	坏	12.5	3.1		長石・石英・角閃石微砂粒	灰　褐	やや不良	底部ヘラケズリ	80	
63	H－5床面	須恵器	坏	13.4	4	7	長石・石英砂粒	灰　白	不良		30	
64	H－5覆土	須恵器	椀	13.4			鉄分粒	灰　白	不良		100	
65	H－5P1	土師器	椀	13.6	5.1	[7.4]	長石・石英・角閃石微粒	褐　灰	やや不良		80	
66	H－5P1	土師器	台付甕	11.6	[15.0]	[8.6]	微砂粒多量	褐	普通	体部ヘラケズリ	90	
69	H－6床上	土師器	坏	11.7	3.5	9	石英微粒多量、白色粒少量	橙	やや不良	体部指頭によるナデ・オサエ	100	
70	H－6覆土	須恵器	坏	[13.2]	4.5	6	長石・石英の微砂粒	灰　白	不良	底部回転糸切り	80	底部ヘラ記号
71	H－6竈	須恵器	坏	12.8	4.2	5.6	白色微～細粒、灰色角丸粒	灰	普通やや良	回転糸切り	100	
72	H－6覆土	須恵器	椀	[14.0]	[5.6]	8.1	長石微粒少量、黒色粒多量	灰	良好	回転糸切り	60	
73	H－6覆土	須恵器	皿	[14.2]	[3.0]	[6.8]	長石砂礫・微粒	灰	普通		40	
74	H－6覆土	須恵器	壺			14	長石礫、海綿骨針	灰	普通やや良		20	
75	H－6覆土	土師器	台付甕			6	石英微粒多量、白色粒	にぶい褐	普通やや良		15	
76	H－6覆土	土師器	甕	20.8	[25.0]	3.8	微砂粒多量	褐～橙	普通		50	
81	D－14覆土	須恵器	椀	13.2	5.5	6.3	白色軟質粒、白色微粒多量	灰	普通やや甘い	高台低く「ハ」の字に開く	95	墨書「六」
82	D－66覆土	土師器	坏	11.2	4.0		石英微粒やや多い	にぶい橙	普通	底部ヘラ削り	100	
83	D－32覆土	土師器	手捏ね土器	[10.3]	4.8	[7.6]	石英・長石粒多量、白色粒少量	橙、褐灰	普通やや不良		70	
84	D－32覆土	土師器	手捏ね土器	[10.0]	[7.0]	4.0	石英砂粒	褐　灰	普通	体部ナデ・オサエ	30	

Tab.7　石製品・鉄製品・土製品・鉄滓観察表

番号	出土位置	材　質	種　類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備　考
51	H－2覆土	石製品	砥　石	8.9	5.6	3.5	254	凝灰岩
61	H－4覆土	石製品	石錘？	13.8		4.7	623	砂岩
67	H－5床面	鉄製品	鍬　先	[22.6]	17.6	0.6	537	
68	H－5P－1	鉄製品	鉄　鎌	8.6	2.6	3	23	
77	H－6覆土	土製品	羽　口	6.8	[7.5]	2.5	98	
78	H－6覆土	鋼　滓	鉄　滓	6.0	4.9	1.7	101	
79	H－6覆土	鋼　滓	鉄　滓	8.4	5.4	1.7	63	
80	H－6覆土	鋼　滓	鉄　滓	7.0	5.8	1.5	142	

Tab.8　土坑・グリッド出土縄文土器観察表

番号	出土位置	胎　土	焼　成	色　調	遺存度	文様要素・文様構成・器形の特徴	時　期	備　考
85	D－32覆土	繊維・細砂粒	良　好	黒	口 縁 部	波状口縁、横位沈線	黒浜	
86	D－32覆土	繊維・石英	良　好	赤　褐	胴　　部	撚糸文羽状構成	黒浜	
87	D－64覆土	繊維・石英	不　良	褐	口～底部	口唇刻み、地文単節ＲＬ斜縄文、口縁部横位・斜位平行沈線	黒浜・有尾	図上復元
88	X97Y30	繊維・石英	良　好	淡　褐	口 縁 部	横位原体側面圧痕	花積下層	
89	X93Y32	繊維・石英	良　好	淡黄褐	口 縁 部	斜位原体側面圧痕	花積下層	
90	X93Y24	繊維・石英	良　好	褐	口 縁 部	原体側面圧痕	花積下層	
91	X80Y18	繊維・石英	良　好	灰　褐	口 縁 部	原体側面圧痕	花積下層	
92	X92Y19	繊維・石英	良　好	黄　灰	口 縁 部	斜位原体側面圧痕	花積下層	
93	X90Y30	繊維・石英	良　好	褐～黒	口 縁 部	口唇部面取り、口縁部原体側面圧痕、胴部Ｖ字状縄文	花積下層	
94	X91Y31	繊維・細砂粒	良　好	黄　灰	口 縁 部	口唇～口縁に0段多条縄文	花積下層	
95	X102Y21	繊維・細砂粒	良　好	褐	口 縁 部	小突起、縦位の条痕状擦痕もしくは無節縄文	花積下層	中越式ヵ
96	X90Y28	繊維・細砂粒	良　好	橙	胴　　部	０段多条羽状縄文	花積下層	
97	X78Y25	繊維・細砂粒	良　好	橙	胴　　部	縦位０段多条縄文	花積下層	
98	X86Y26	石英多・繊維	良　好	黒	胴　　部	０段多条羽状縄文	花積下層	
99	X84Y26	繊維・石英	良　好	浅黄橙	胴　　部	縦位０段多条縄文	花積下層	
100	X90Y27	繊維・細砂粒	良　好	橙	胴　　部	縦位０段多条縄文	花積下層	
101	X78Y25	繊維・細砂粒	良　好	橙	胴　　部	縦位０段多条縄文	花積下層	
102	X96Y28	繊維・石英	良　好	橙	胴　　部	縦位０段多条縄文	花積下層	
103	X92Y17	繊維・石英	良　好	灰　褐	胴　　部	０段多条縄文、縦位・Ｖ字状施文	花積下層	
104	X96Y34	繊維・細砂粒	良　好	明黄褐	胴　　部	０段多条縄文、縦位・Ｖ字状施文	花積下層	
105	X92Y17	繊維・砂粒	良　好	浅黄橙	胴　　部	０段多条縄文、縦位・Ｖ字状施文	花積下層	
106	X80Y14	砂粒多・繊維	良　好	浅黄橙	胴　　部	０段多条縄文、縦位・Ｖ字状施文	花積下層	
107	X98Y28	繊維・砂粒	良　好	橙	胴　　部	０段多条縄文、縦位・Ｖ字状施文	花積下層	
108	X84Y17	砂粒多・繊維	良　好	橙	胴　　部	０段多条縄文、縦位・Ｖ字状施文	花積下層	
109	X90Y27	繊維・砂粒	良　好	橙	胴　　部	０段多条縄文、縦位・Ｖ字状施文	花積下層	
110	X85Y26	砂粒多・繊維	良　好	橙	胴　　部	０段多条縄文、縦位・Ｖ字状施文	花積下層	
111	X97Y30	砂粒多・繊維	良　好	橙	胴　　部	０段多条縄文、縦位・Ｖ字状施文	花積下層	
112	X98Y26	繊維・砂粒	良　好	浅黄橙	胴　　部	０段多条縄文、縦位・Ｖ字状施文	花積下層	
113	X97Y41	繊維・砂粒	良　好	橙	胴～底部	尖底、０段多条縄文、縦位・Ｖ字状施文	花積下層	
114	X94Y27	繊維・砂粒	良　好	浅黄橙	胴～底部	尖底、０段多条縄文、縦位・Ｖ字状施文	花積下層	
115	X96Y28	繊維・砂粒	良　好	黄　橙	胴～底部	尖底、０段多条縄文、縦位・Ｖ字状施文	花積下層	
116	X81Y25	繊維・砂粒	良　好	黄　橙	胴～底部	尖底、０段多条縄文、縦位・Ｖ字状施文	花積下層	
117	X95Y25	繊維・砂粒	良　好	橙	胴～底部	尖底、０段多条縄文、縦位・Ｖ字状施文	花積下層	
118	X104Y43	繊維・砂粒	良　好	橙	底　　部	尖底、０段多条縄文、縦位・Ｖ字状施文	花積下層	
119	X85Y17	繊維・砂粒	良　好	黄　橙	底　　部	尖底、縦位縄文施文	花積下層	
120	X91Y35	繊維・砂粒	良　好	黄　橙	底　　部	尖底、縦位０段多条縄文	花積下層	
121	X97Y20	繊維・砂粒	良　好	黄　橙	底　　部	尖底、縦位縄文施文	花積下層	
122	X94Y21	繊維・砂粒	良　好	黄　橙	底　　部	尖底	花積下層	

番号	出土位置	胎　土	焼　成	色　調	遺存度	文様要素・文様構成・器形の特徴	時　期	備　考
123	X92Y35	繊維・細砂粒	良　好	灰　褐	口 縁 部	口縁小突起、平行沈線、コンパス文	黒浜	
124	X97Y35	繊維・細砂粒	良　好	黄　橙	口 縁 部	口縁小突起、平行沈線、コンパス文	黒浜	
125	X81Y18	繊維・細砂粒	良　好	灰　褐	口 縁 部	コンパス文、連続刺突文	黒浜	
126	X107Y28	繊維・砂粒	良　好	赤　褐	口 縁 部	平行沈線、コンパス文	黒浜	
127	X99Y21	繊維・砂粒	良　好	褐	口 縁 部	平行沈線、コンパス文、C字状押し引き文	黒浜	
128	X87Y18	繊維・石英	良　好	暗赤褐	口 縁 部	口唇刻み、横位平行沈線、菱形構成平行沈線	黒浜・有尾	
129	X92Y19	繊維・石英	不　良	橙	口 縁 部	横位平行沈線、菱形構成平行沈線	黒浜・有尾	
130	X88Y24	繊維・石英	良　好	赤　褐	口 縁 部	横位・斜位平行沈線	黒浜・有尾	
131	X85Y20	繊維・石英	良　好	灰　褐	口 縁 部	波状口縁、横位平行沈線	黒浜・有尾	
132	X112Y35	繊維・砂粒	良　好	橙	口 縁 部	波状口縁、横位平行沈線	黒浜・有尾	
133	X92Y25	繊維・細砂粒	不　良	赤　褐	口 縁 部	波状口縁、横位平行沈線	黒浜・有尾	
134	X80Y17	繊維・石英	良　好	褐	口 縁 部	波状口縁、波頂部棒状突起、地文縄文＋横位平行沈線	黒浜・有尾	
135	X80Y17	繊維・石英	良　好	暗赤褐	口 縁 部	波状口縁、地文縄文＋横位平行沈線	黒浜・有尾	
136	X96Y25	繊維・石英	不　良	黒	口 縁 部	横位平行沈線	黒浜	
137	X111Y35	繊維・石英	良　好	褐	口 縁 部	地文縄文＋横位平行沈線	黒浜	
138	X109Y29	繊維・細砂粒	良　好	暗　褐	口～胴部	地文縄文＋斜位・横位平行沈線	黒浜	
139	X108Y30	繊維・細砂粒	良　好	橙	口～胴部	地文縄文＋斜位・横位平行沈線	黒浜・有尾	
140	X80Y17	繊維・砂粒	不　良	褐	胴　部	地文無節Ｌ縄文＋櫛歯状施文具斜位平行沈線	黒浜・有尾	
141	X79Y17	繊維・石英	不　良	褐・黒	口～胴部	地文単節羽状縄文＋櫛歯状施文具横位平行沈線	黒浜・有尾	
142	X110Y34	繊維・石英	良　好	褐・黒	胴　部	地文単節ＬＲ縄文＋櫛歯状施文具小波状平行沈線	黒浜・有尾	
143	X109Y30	繊維・細砂粒	良　好	赤　褐	口 縁 部	地文単節ＲＬ縄文＋Ｃ字状爪形文	黒浜・有尾	
144	X108Y27	繊維・石英	良　好	明赤褐	口 縁 部	結節平行沈線	黒浜・有尾	
145	X83Y16	繊維・石英	良　好	黒	口 縁 部	地文無節Ｒ縄文＋Ｃ字状爪形文	黒浜・有尾	
146	X99Y21	繊維・石英	不　良	灰　褐	口 縁 部	地文単節ＬＲ縄文＋Ｃ字状連続刺突文	黒浜・有尾	
147	X88Y19	繊維・砂粒	良　好	橙	口～胴部	地文単節ＬＲ縄文＋結節平行沈線	黒浜・有尾	
148	X80Y27	繊維・細砂粒	良　好	橙	口 縁 部	櫛歯状施文具横位押し引き文・波状平行沈線	黒浜	
149	X81Y16	繊維・細砂粒	良　好	浅黄橙	胴　部	連続波状沈線	黒浜	
150	X80Y14	繊維・細砂粒	良　好	明赤褐	口～胴部	連続波状沈線	黒浜	
151	X110Y35	繊維・石英	良　好	褐・黒	口 縁 部	大波状口縁、全面連続波状沈線	黒浜	大破片
152	X81Y16	繊維・雲母	不　良	赤　褐	口 縁 部	横位・斜位撚糸文	黒浜	
153	X79Y17	繊維・砂粒	不　良	黒	口 縁 部	無節Ｌ・Ｒ縄文菱形構成	黒浜	
154	X106Y39	繊維・細砂粒	良　好	橙・褐	口 縁 部	無節Ｌ斜縄文	黒浜	
155	X111Y34	繊維・細砂粒	良　好	明褐・黒	口 縁 部	単節ＬＲ斜縄文	黒浜	
156	X110Y31	繊維・石英	良　好	黄　灰	口 縁 部	無節Ｒ斜縄文	黒浜	
157	X110Y37	繊維・石英	良　好	赤　褐	口 縁 部	無節Ｌ・Ｒ縄文羽状構成	黒浜	
158	X79Y17	繊維・石英	良　好	浅黄橙	口 縁 部	無節Ｌ斜縄文	黒浜	
159	X80Y16	繊維・石英	良　好	明赤褐	口 縁 部	無節Ｒ斜縄文	黒浜	
160	X111Y36	繊維・細砂粒	良　好	赤　褐	口 縁 部	無節Ｌ斜縄文	黒浜	
161	X111Y34	繊維・石英	良　好	橙	口 縁 部	単節ＬＲ・ＲＬ羽状縄文	黒浜	

番号	出土位置	胎　土	焼　成	色　調	遺存度	文様要素・文様構成・器形の特徴	時　期	備　考
162	X111Y36	繊維・石英	良　好	灰黄褐	口 縁 部	単節ＬＲ・ＲＬ羽状縄文	黒浜	
163	X107Y26	繊維・礫	良　好	明赤褐	口 縁 部	大波状口縁、波頂部刻み、単節ＬＲ斜縄文	黒浜	
164	X88Y24	繊維・石英	不　良	黄　灰	口 縁 部	無節Ｒ斜縄文	黒浜	
165	X108Y25	繊維・細砂粒	良　好	暗　褐	口 縁 部	単節ＲＬ斜縄文	黒浜	
166	X110Y31	繊維・石英	良　好	赤　褐	口 縁 部	単節ＬＲ斜縄文	黒浜	
167	X108Y38	繊維・石英	良　好	橙・褐	口～胴部	単節ＬＲ・ＲＬ羽状縄文	黒浜	
168	X79Y17	繊維・細砂粒	不　良	黒	胴　部	無節Ｒ斜縄文	黒浜	
169	X86Y19	繊維・細砂粒	良　好	橙	胴　部	無節Ｌ・Ｒ縄文羽状構成	黒浜	
170	X91Y26	繊維・細砂粒	良　好	黄　灰	胴　部	胴屈曲部片、無節Ｌ縄文	黒浜	
171	X78Y25	繊維・細砂粒	良　好	黄　灰	胴　部	無節Ｌ斜縄文	黒浜	
172	X79Y17	繊維・細砂粒	良　好	浅黄橙	胴　部	結節縄文	黒浜	
173	X95Y28	繊維・細砂粒	良　好	明　褐	胴　部	結節縄文	黒浜	
174	X112Y35	繊維・雲母	良　好	明赤褐	胴　部	単節ＲＬ斜縄文	黒浜	
175	X111Y34	繊維・雲母	良　好	褐	胴　部	単節ＬＲ・ＲＬ羽状縄文	黒浜	
176	X88Y27	繊維・砂粒	良　好	明赤褐	胴　部	単節ＬＲ・ＲＬ羽状縄文	黒浜	
177	X107Y38	繊維・細砂粒	良　好	明赤褐	胴　部	単節ＬＲ・ＲＬ羽状縄文、菱形構成	黒浜	
178	X107Y38	繊維・雲母	良　好	褐	胴　部	単節ＬＲ・ＲＬ羽状縄文、菱形構成	黒浜	
179	X103Y32	繊維・石英	良　好	黄　灰	胴　部	単節ＬＲ・ＲＬ羽状縄文	黒浜	
180	X81Y21	繊維・赤色粒	不　良	明赤褐	胴　部	単節ＲＬ・無節Ｌ羽状縄文	黒浜	
181	X88Y25	繊維・細砂粒	良　好	灰　褐	胴　部	附加条１種羽状縄文	黒浜	
182	X87Y19	繊維・石英	良　好	灰　褐	胴　部	附加条１種羽状縄文	黒浜	
183	X80Y16	繊維・石英	良　好	灰　褐	胴　部	附加条１種羽状縄文	黒浜	
184	X91Y20	繊維・細砂粒	良　好	黒	胴　部	附加条１種羽状縄文	黒浜	
185	X90Y21	繊維・石英	良　好	黄　灰	胴　部	附加条１種羽状縄文	黒浜	
186	X91Y20	繊維・細砂粒	不　良	橙	胴　部	羽状構成撚糸文	黒浜	
187	X80Y18	繊維・石英	良　好	橙	底　部	無節Ｌ・Ｒ羽状縄文、底部直上まで施文	黒浜	
188	X88Y31	繊維・石英	良　好	明赤褐	底　部	無節Ｌ・Ｒ羽状縄文、底部直上まで施文	黒浜	
189	X98Y21	繊維・石英	良　好	黄　灰	底　部	単節ＬＲ斜縄文、底部直上まで施文	黒浜	
190	X94Y21	繊維・砂粒	不　良	赤　褐	底　部	単節ＬＲ斜縄文、底部直上まで施文	黒浜	
191	X106Y27	繊維・細砂粒	良　好	赤　褐	底　部	単節ＲＬ斜縄文、底部直上まで施文	黒浜	
192	X86Y16	繊維・細砂粒	良　好	赤　褐	底　部	底部上げ底、無節Ｌ縄文、底部直上まで施文	黒浜	
193	X107Y21	石英・砂粒多	良　好	暗赤褐	口 縁 部	外反口縁、無節Ｌ斜縄文ヵ、器面風化	諸磯ａ	
194	X86Y29	石英・細砂粒	良　好	黄　灰	口 縁 部	外反口縁、単節ＲＬ斜縄文	諸磯ａ	
195	X102Y29	石英・砂粒多	良　好	橙	口 縁 部	内湾口縁、単節ＲＬ斜縄文	諸磯ａ	
196	X104Y25	石英・細砂粒	良　好	明赤褐	口 縁 部	外反口縁、単節ＲＬ斜縄文	諸磯ａ	
197	X103Y29	細砂粒	良　好	明赤褐	口～胴部	単節ＬＲ斜縄文	諸磯ａ	
198	X80Y14	石英・砂粒多	良　好	明赤褐	胴　部	単節ＲＬ斜縄文	諸磯ａ	
199	X108Y25	石英・砂粒多	良　好	暗赤褐	胴　部	単節ＬＲ斜縄文	諸磯ａ	
200	X108Y30	石英・砂粒多	良　好	暗赤褐	胴　部	単節ＲＬ斜縄文	諸磯ａ	

番号	出土位置	種　類	焼　成	色　調	遺存度	文様要素・文様構成・器形の特徴	時　期	備　考
201	X109Y26	細砂粒	良　好	橙・渇	胴　　部	単節ＲＬ斜縄文	諸磯ａ	
202	X99Y26	石英・砂粒多	良　好	赤　褐	胴　　部	無節Ｌ斜縄文	諸磯ａ	
203	X105Y31	細砂粒	良　好	黄　灰	胴　　部	単節ＲＬ斜縄文	諸磯ａ	
204	X79Y17	細砂粒	良　好	灰	胴　　部	単節ＲＬ・ＬＲ羽状縄文	諸磯ａ	
205	X9Y3	石英・砂粒多	良　好	明赤褐	胴　　部	単節ＲＬ斜縄文、器面風化	諸磯ａ	
206	X7Y2	細砂粒	良　好	橙	胴～底部	撚糸文疎らに施文	諸磯ａ	大破片
207	X6Y2	細砂粒	良　好	橙	口 縁 部	内湾口縁、地文縄文＋結節浮線文	諸磯ｂ	
208	X9Y3	細砂粒	良　好	灰褐・黒	口 縁 部	内湾・波状口縁、結節浮線文	諸磯ｂ	
209	X9Y13	石英・砂粒	良　好	灰　褐	口 縁 部	屈曲・波状口縁、渦巻状結節沈線文	諸磯ｂ	
210	X5Y15	石英・砂粒	良　好	橙	口 縁 部	屈曲口縁、結節沈線文、集合沈線、円形刺突	諸磯ｂ	
211	X92Y37	細砂粒	良　好	橙・黒	胴　　部	有段浅鉢の胴下部、無文、磨き	諸磯ｂ	
212	X91Y18	石英・砂粒	良　好	赤　褐	口 縁 部	環状突起	勝坂・阿玉台	213と同一個体ヵ
213	X90Y28	石英・砂粒	良　好	明赤褐	口～胴部	内面に段を持つ浅鉢、突起が付される可能性有	勝坂・阿玉台	212と同一個体ヵ
214	X99Y27	石英・砂粒	良　好	橙	胴　　部	単節ＲＬ斜縄文＋沈線区画磨消縄文	加曽利Ｅ	
215	X100Y29	石英・砂粒多	良　好	黄　灰	口 縁 部	口唇部内屈、波状口縁の波頂部に有孔突起、胴部楕円状の区画	加曽利Ｅ末	

Tab.9　グリッド出土石器観察表

番号	出土位置	種　類	石　材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備　考
216	X94Y27	石鏃	黒曜石	2.4	1.4	0.5	0.99	凹基無茎鏃
217	X86Y31	石鏃	チャート	2.8	1.5	0.6	2.08	凹基無茎鏃
218	X98Y30	石鏃	シルト岩	2.1	1.5	0.4	0.93	平基無茎・三角鏃
219	X98Y31	石鏃	シルト岩	2.0	1.6	0.6	1.85	平基無茎・三角鏃
220	X92Y25	石匙	頁岩	8.0	5.6	1.2	41.82	縦型
221	X87Y30	打製石斧	シルト岩	13.5	5.5	2.4	188.00	短冊形
222	X9Y2	打製石斧	シルト岩	13.1	5.5	2.0	131.97	短冊形
223	X96Y40	打製石斧	ホルンフェルス	13.0	6.1	1.3	109.05	撥形
224	X9Y15	打製石斧	シルト岩	10.4	4.7	1.4	86.35	
225	X89Y33	打製石斧	シルト岩	11.6	5.5	1.5	90.32	撥形
226	X78Y25	打製石斧	シルト岩	10.5	5.6	3.0	195.98	撥形
227	X85Y25	打製石斧	シルト岩	11.4	7.5	2.8	296.19	撥形
228	X108Y29	磨製石斧	緑色岩	(12.3)	5.0	3.1	296.84	乳棒状、基部・刃部欠損
229	X83Y16	磨石兼凹石	輝石安山岩	12.1	9.0	4.4	638.96	両側面磨石使用
230	X94Y20	凹石	輝石安山岩	8.6	6.0	3.9	299.00	
231	X103Y28	凹石	輝石安山岩	8.8	6.6	3.5	168.10	
232	X90Y27	特殊磨石	デイサイト	(10.4)	6.3	6.1	622.40	断面三角形の２辺使用、約1/2欠損
233	X83Y25	特殊磨石	砂岩	(11.0)	7.0	4.9	580.28	断面三角形の２辺使用、約1/2欠損
234	X96Y20	特殊磨石兼凹石	石英斑岩	19.6	6.9	4.7	1010.00	側面磨石使用
235	X108Y26	多孔石	輝石安山岩	(17.5)	17.9	10.5	4100.00	両面使用

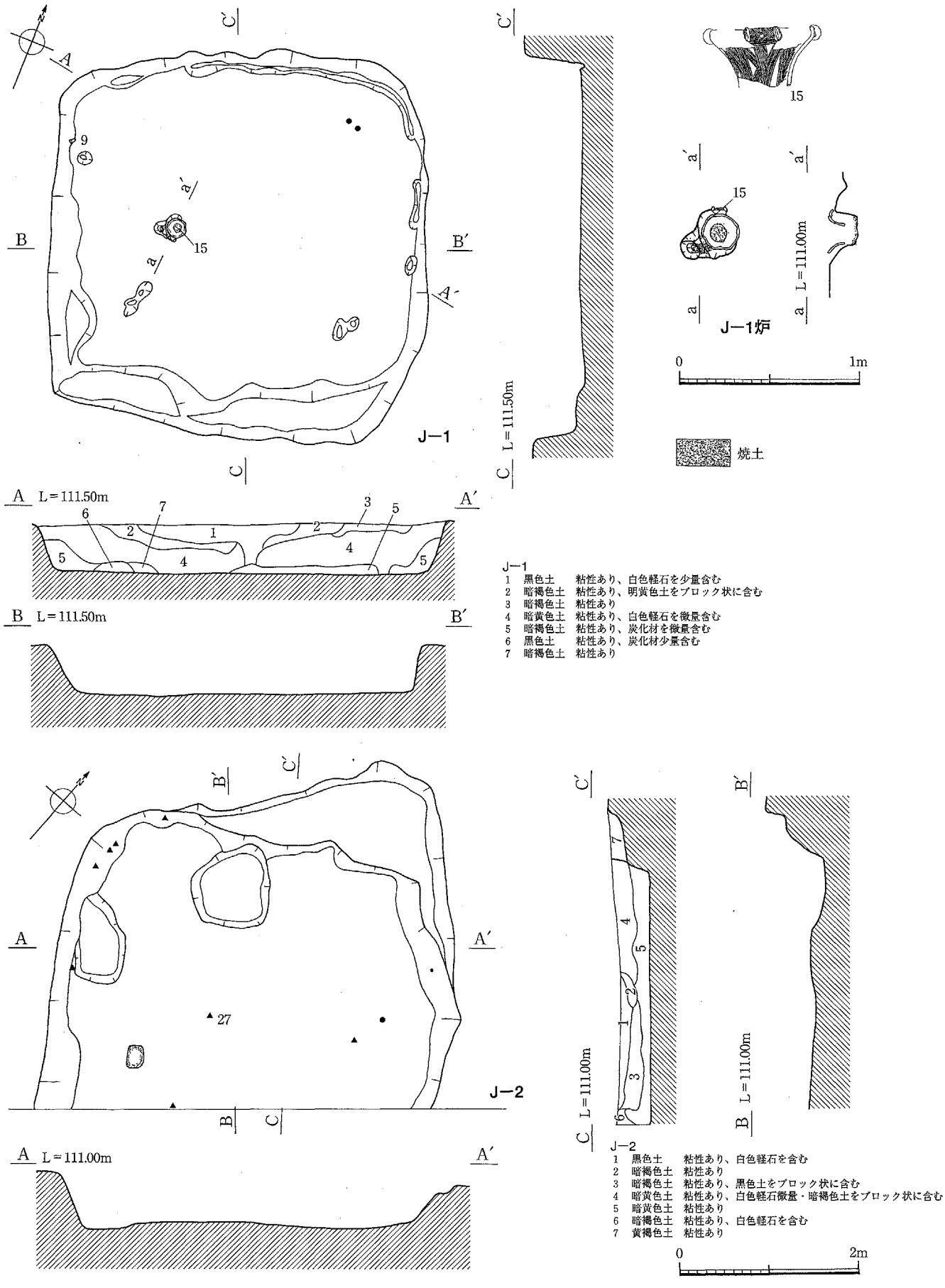


Fig.12 J－1・2号住居跡

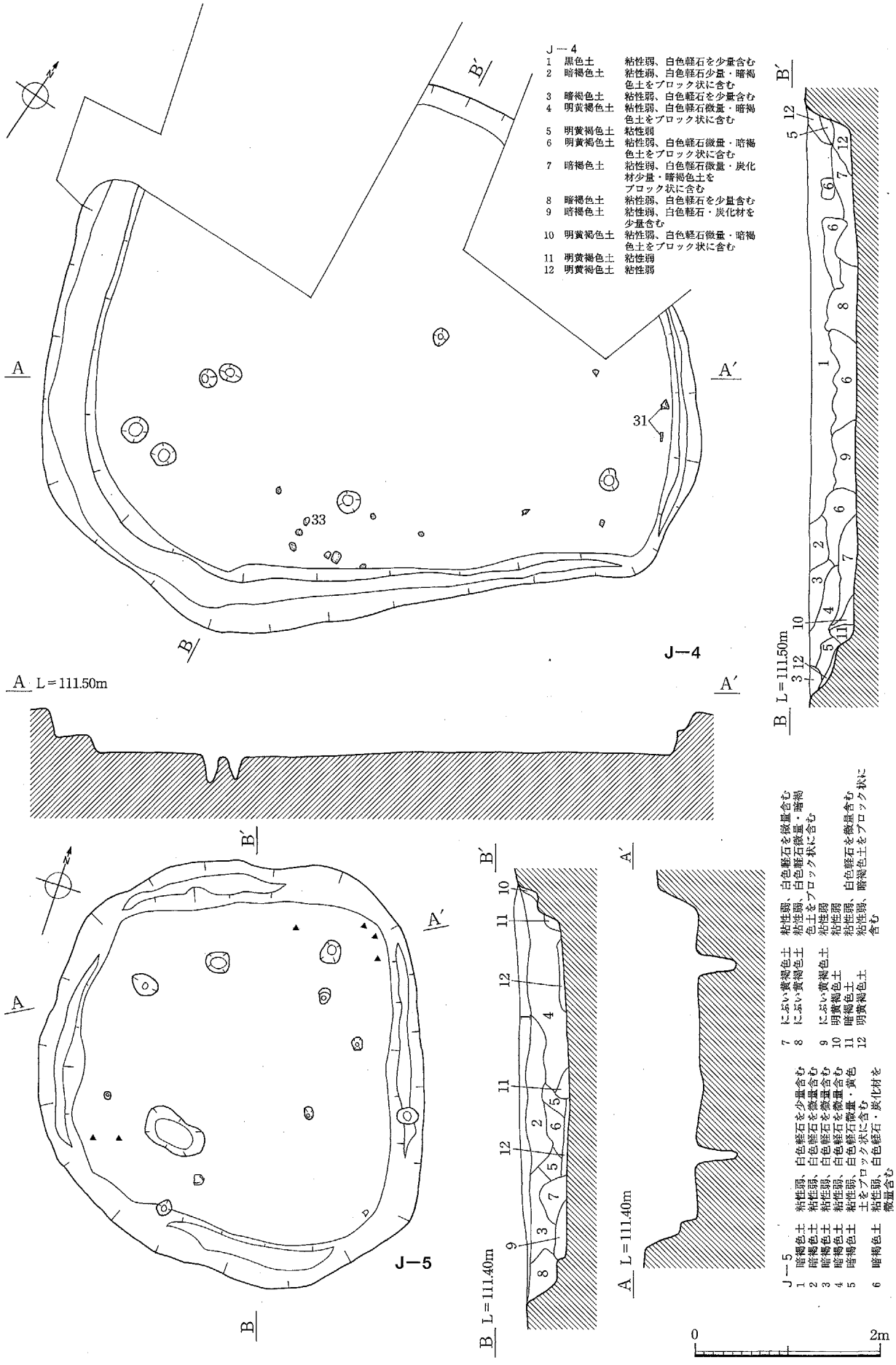
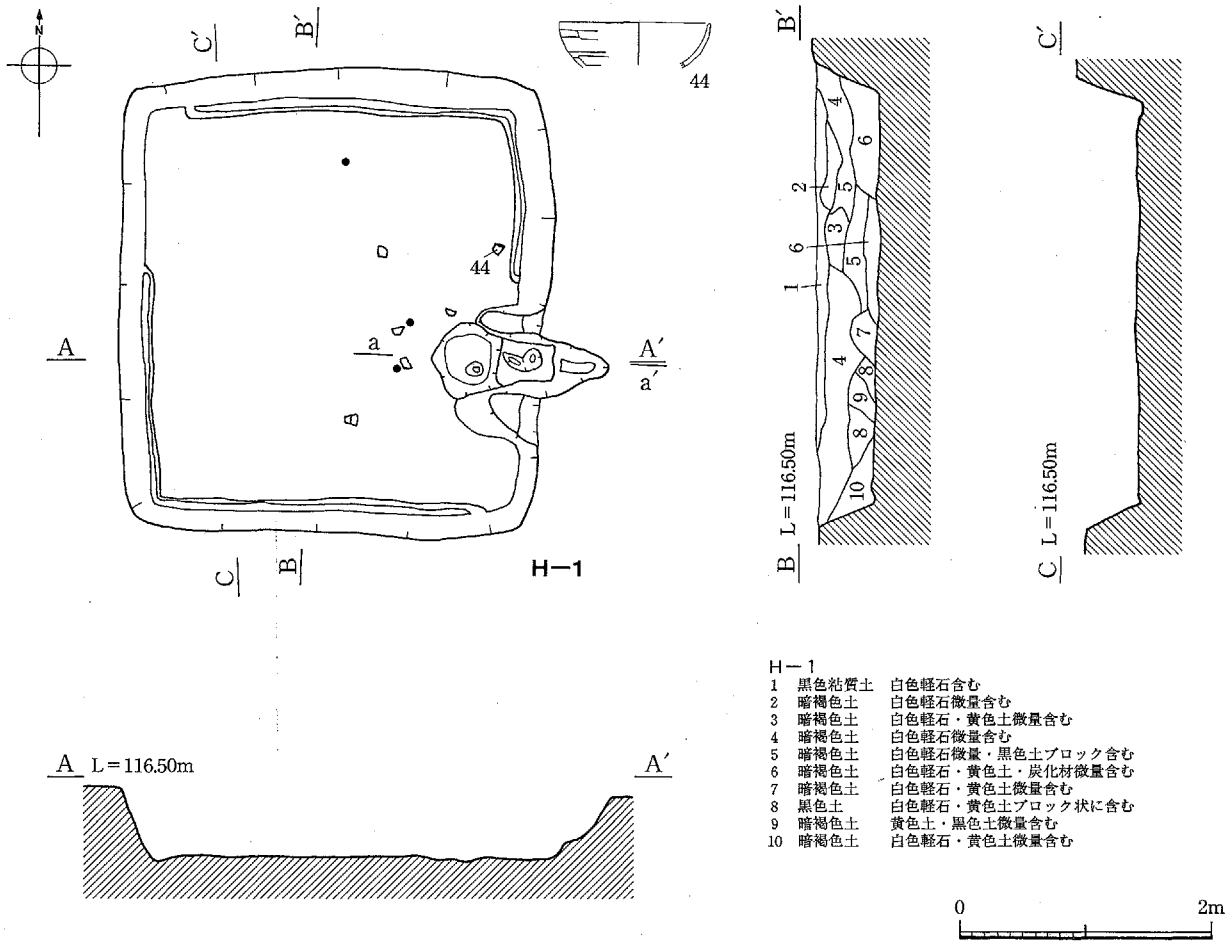


Fig.13　J－4・5号住居跡



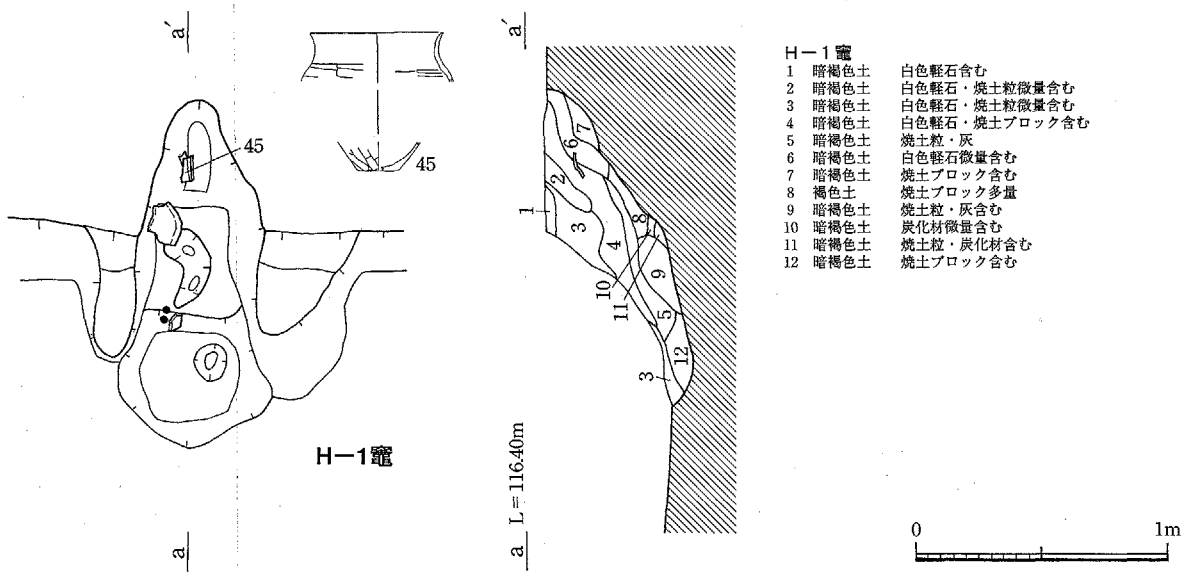


Fig.14 H−1号住居跡

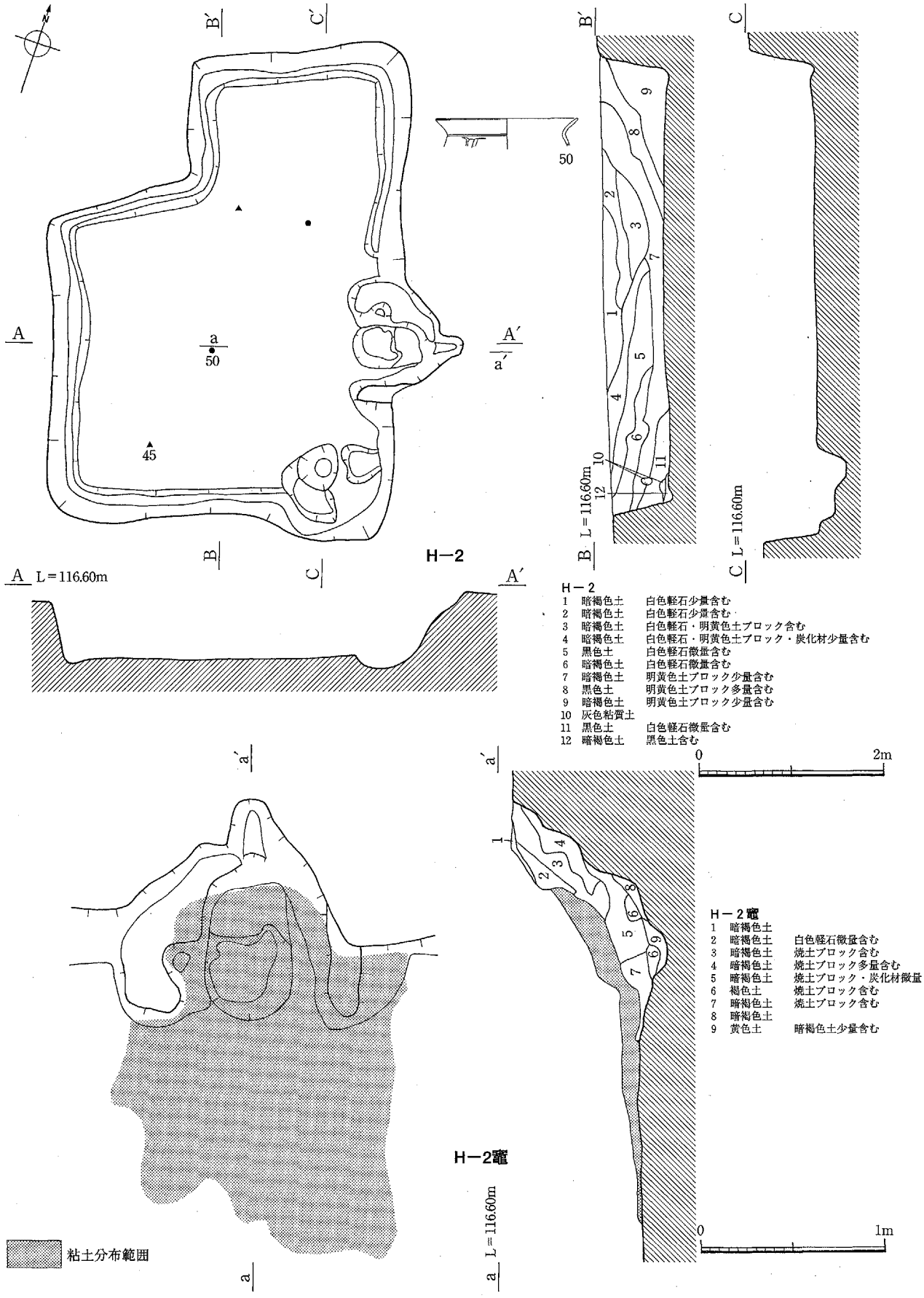
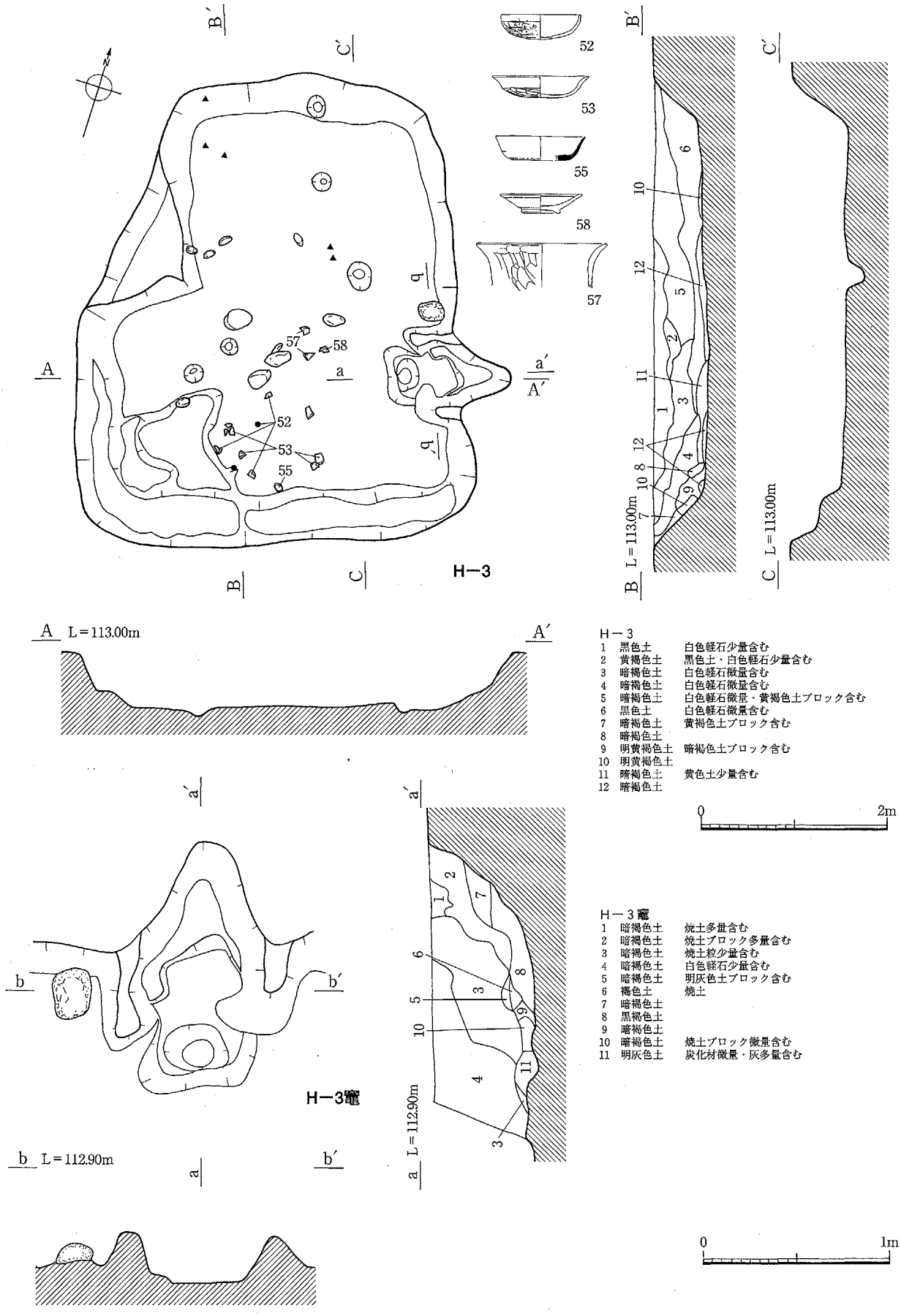


Fig.15　H−2号住居跡



H−3

1	黒色土	白色軽石少量含む
2	黄褐色土	黒色土・白色軽石少量含む
3	暗褐色土	白色軽石微量含む
4	暗褐色土	白色軽石微量含む
5	暗褐色土	白色軽石微量・黄褐色土ブロック含む
6	黒色土	白色軽石微量含む
7	暗褐色土	黄褐色土ブロック含む
8	暗褐色土	
9	明黄褐色土	暗褐色土ブロック含む
10	明黄褐色土	
11	暗褐色土	黄色土少量含む
12	暗褐色土	

H−3竈

1	暗褐色土	焼土多量含む
2	暗褐色土	焼土ブロック多量含む
3	暗褐色土	焼土粒少量含む
4	暗褐色土	白色軽石少量含む
5	暗褐色土	明灰色土ブロック含む
6	褐色土	焼土
7	暗褐色土	
8	黒褐色土	
9	暗褐色土	
10	暗褐色土	焼土ブロック微量含む
11	明灰色土	炭化材微量・灰多量含む

Fig.16　H−3号住居跡

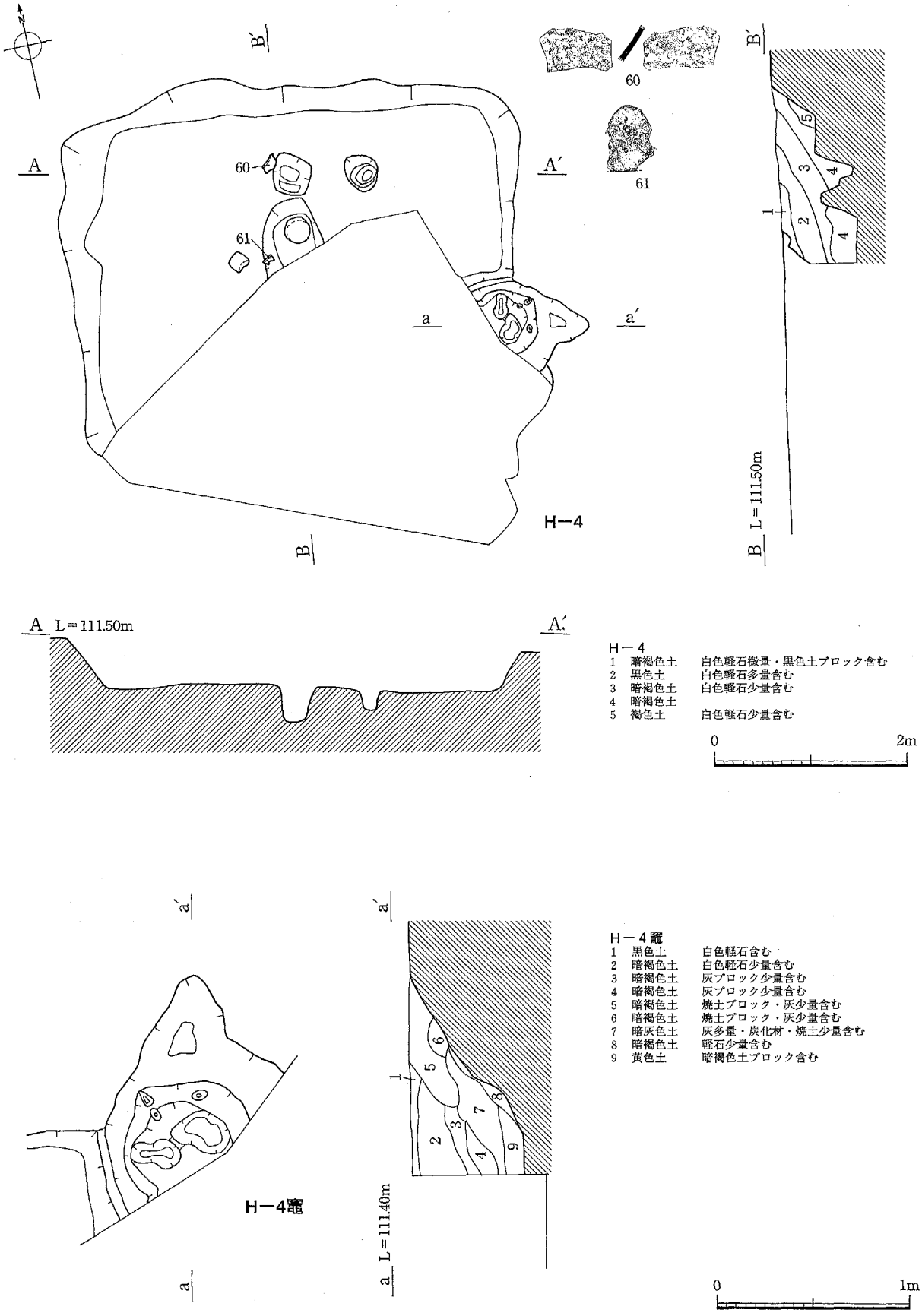


Fig.17　H－4号住居跡

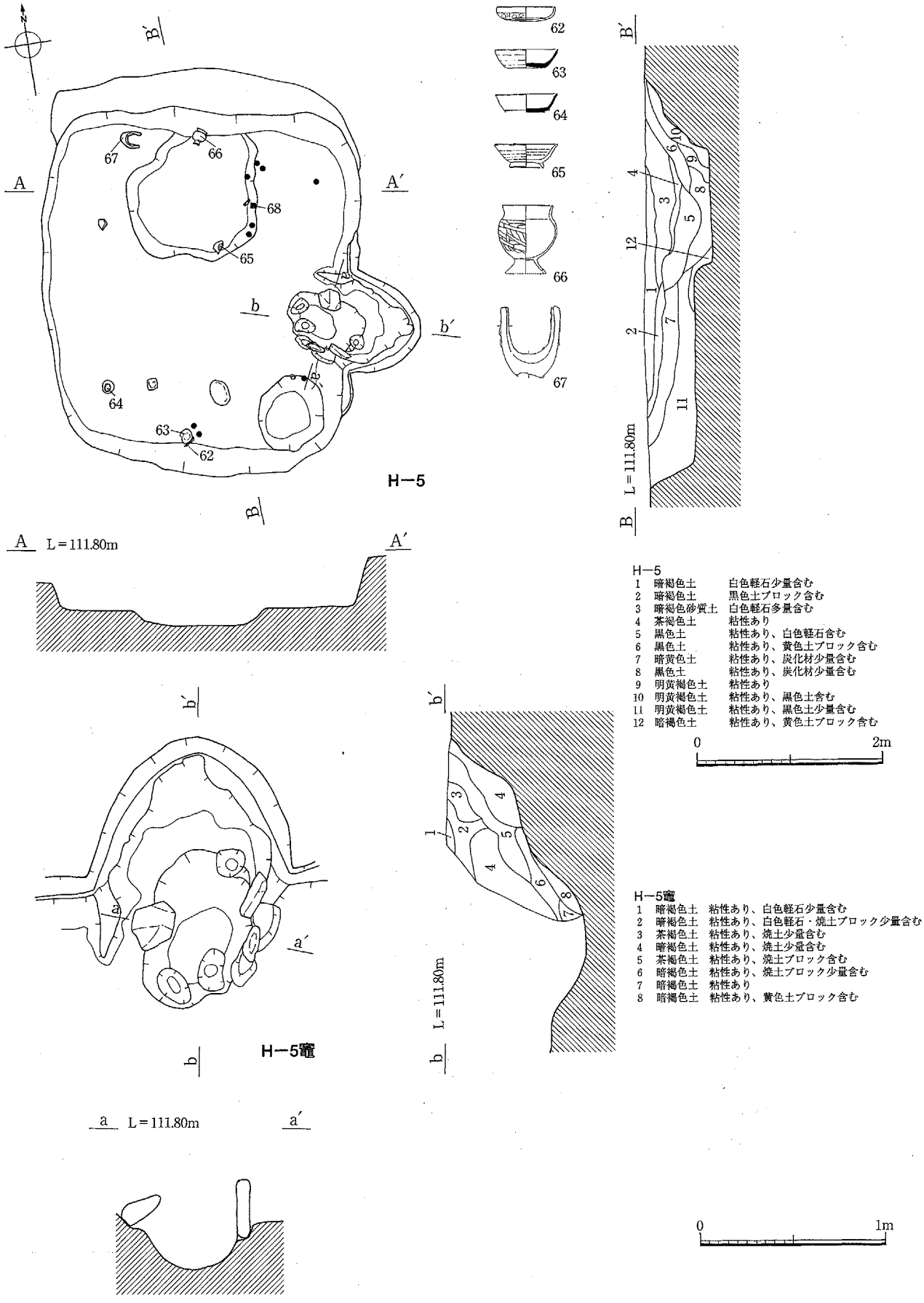


Fig.18 H−5号住居跡

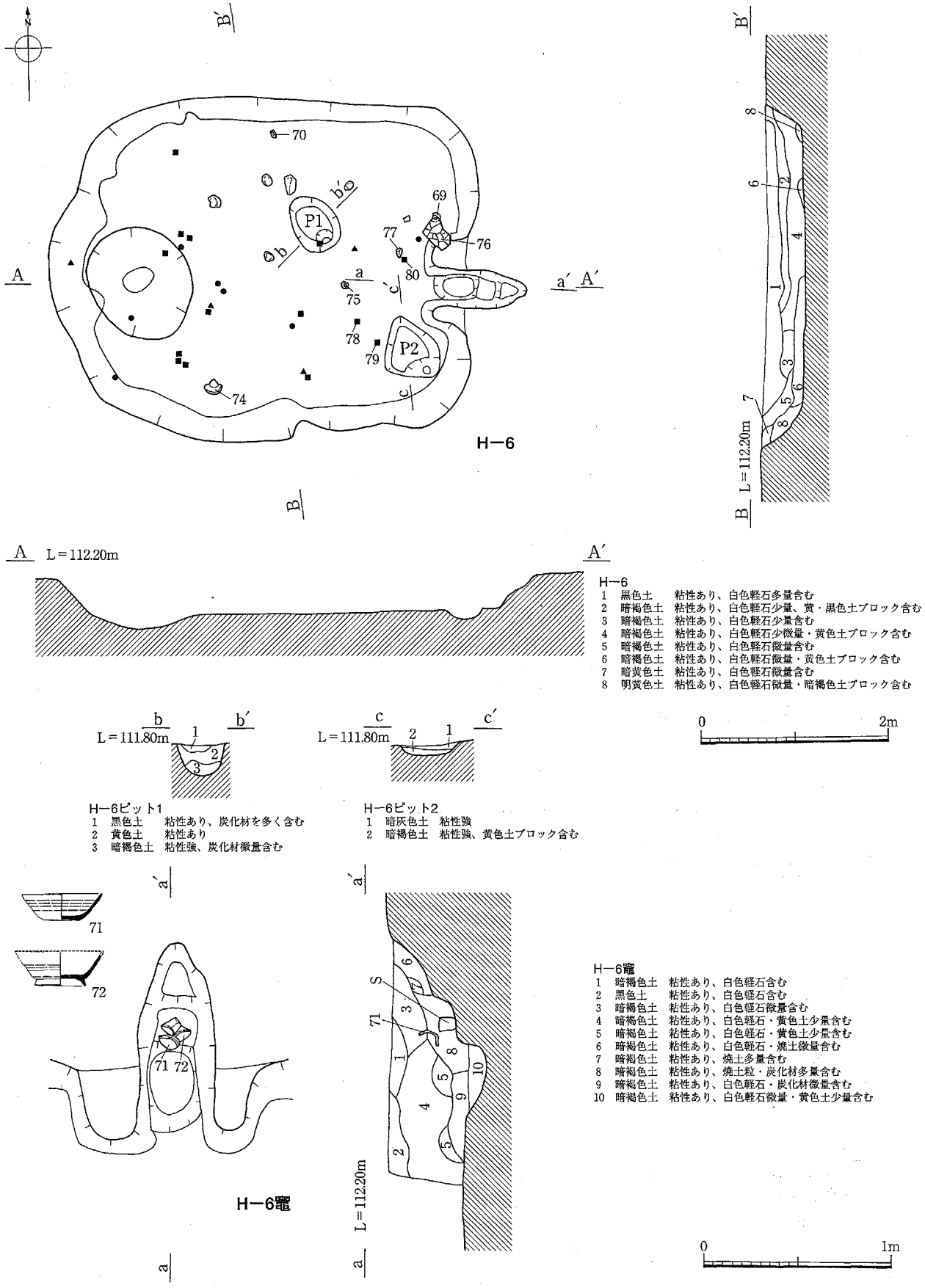


Fig.19 H－6号住居跡

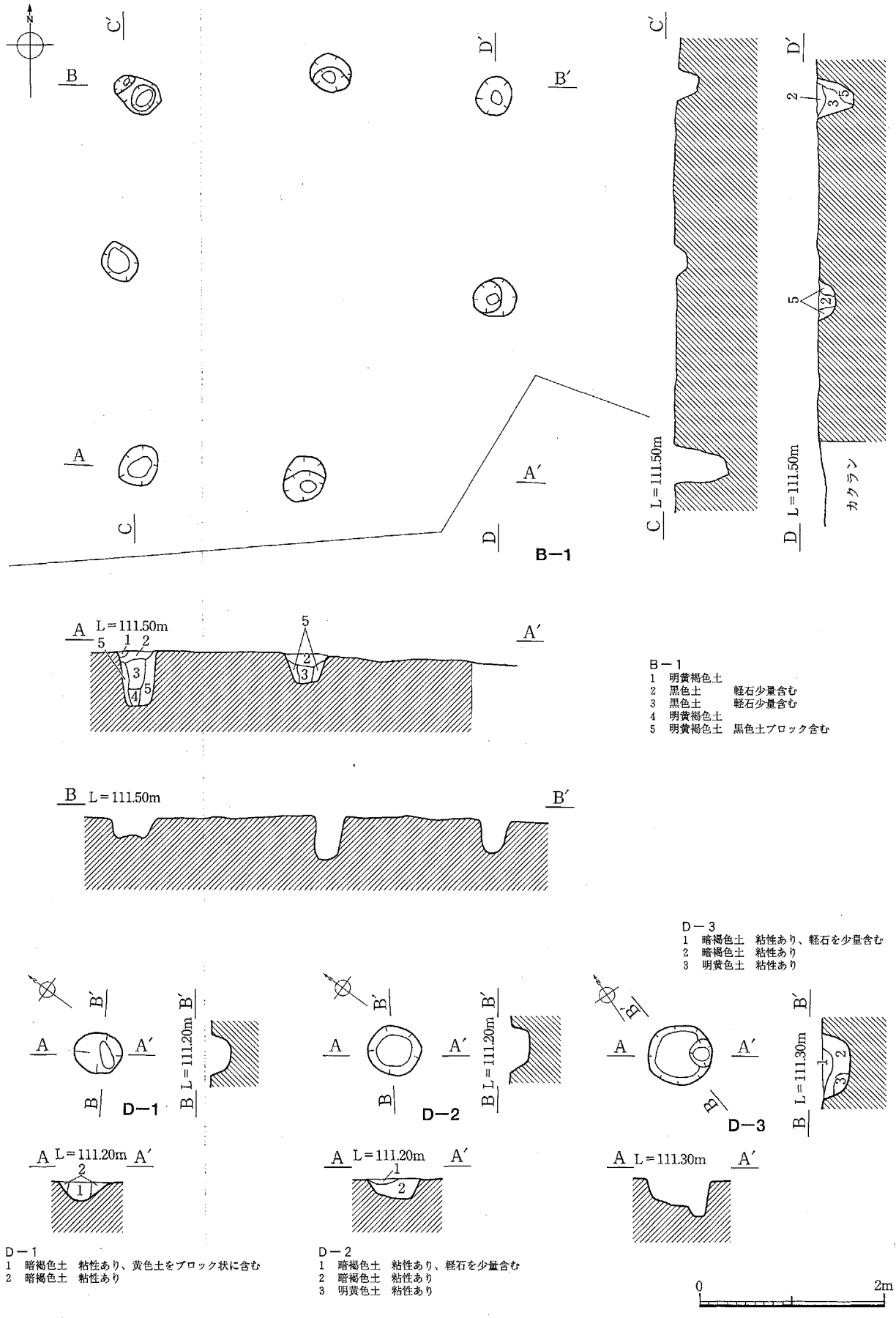


Fig.20 B−1号掘立柱建物跡・D−1〜3号土坑

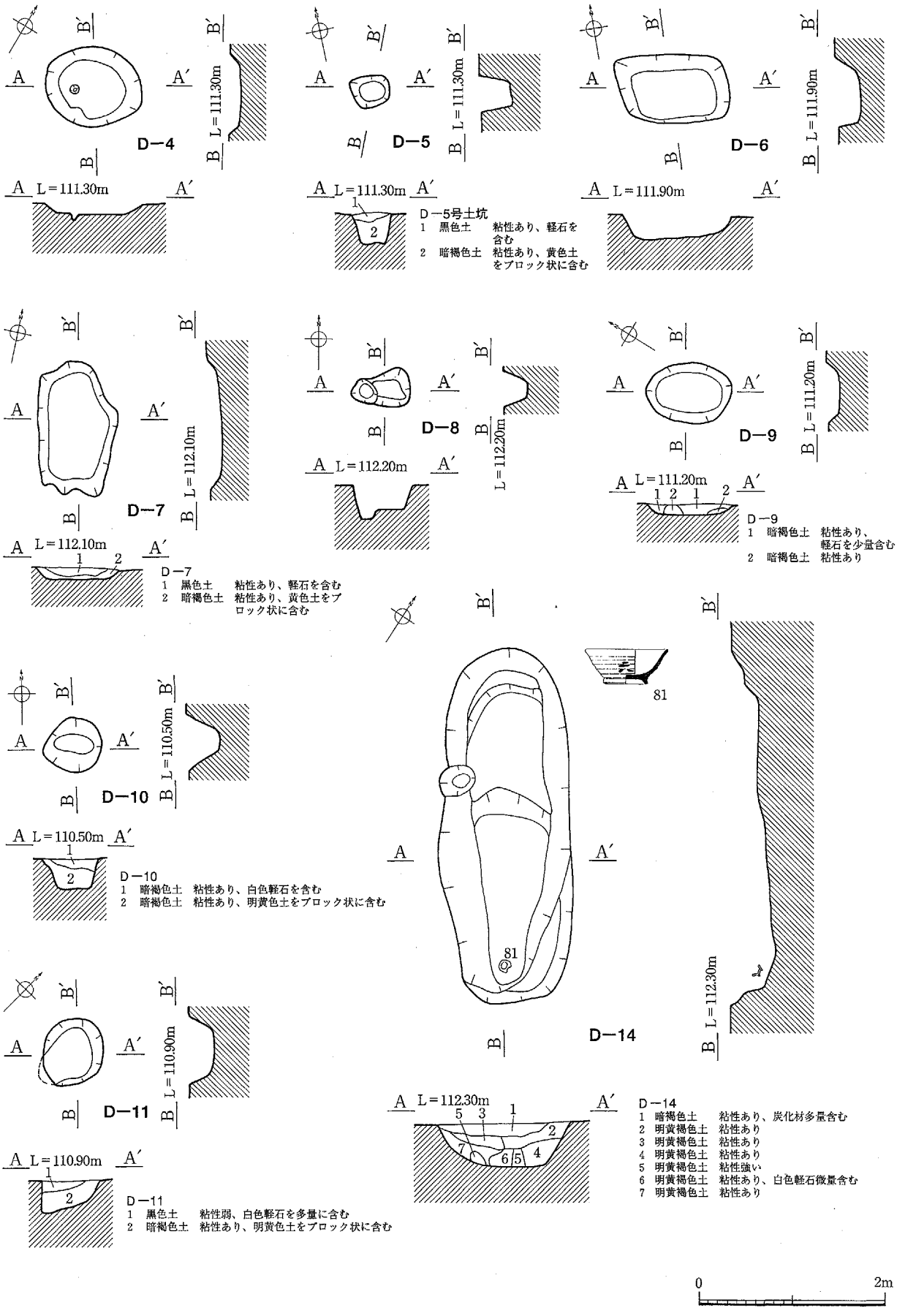


Fig.21 D−4〜11・14号土坑

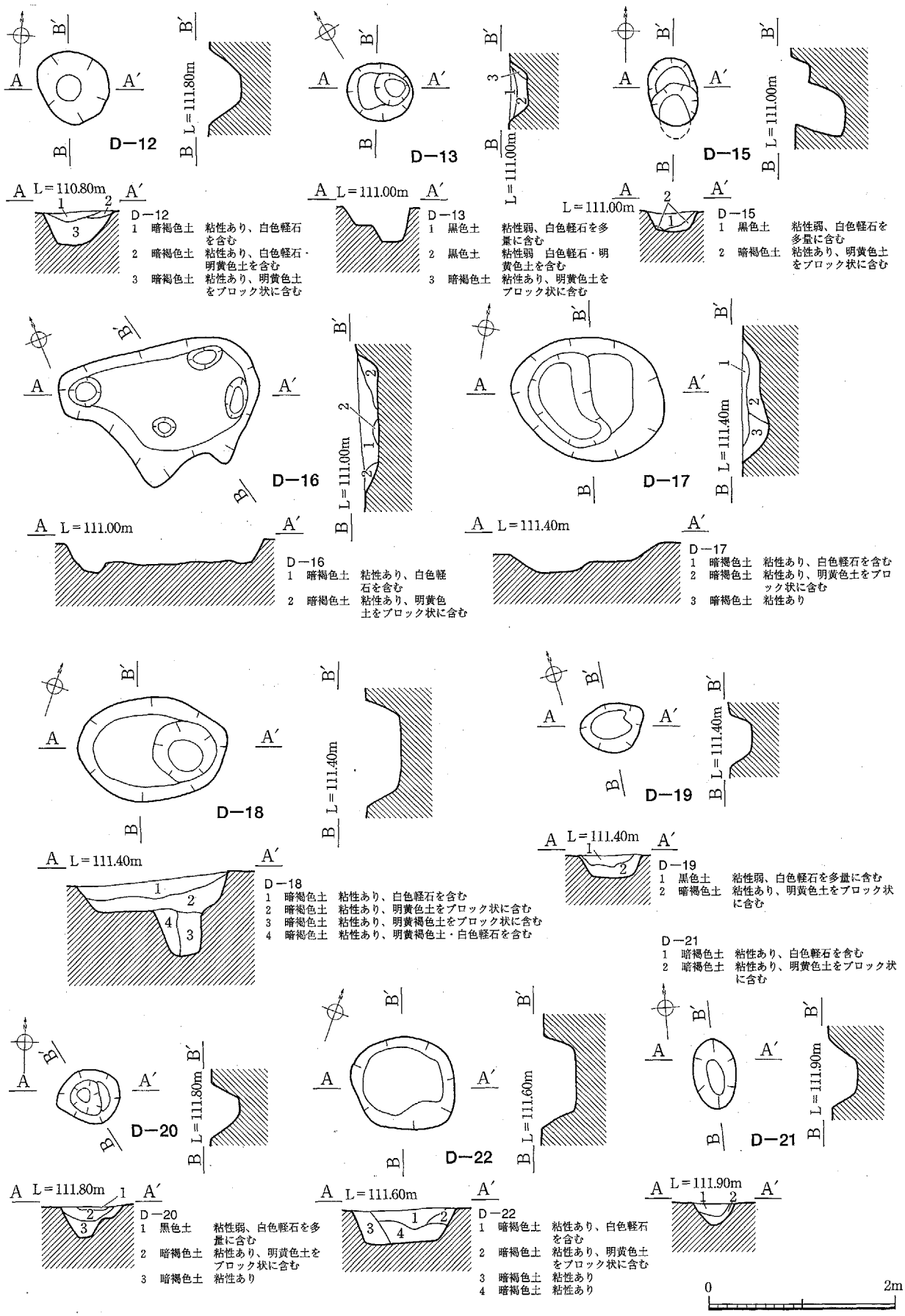


Fig.22 D−12・13・15〜22号土坑

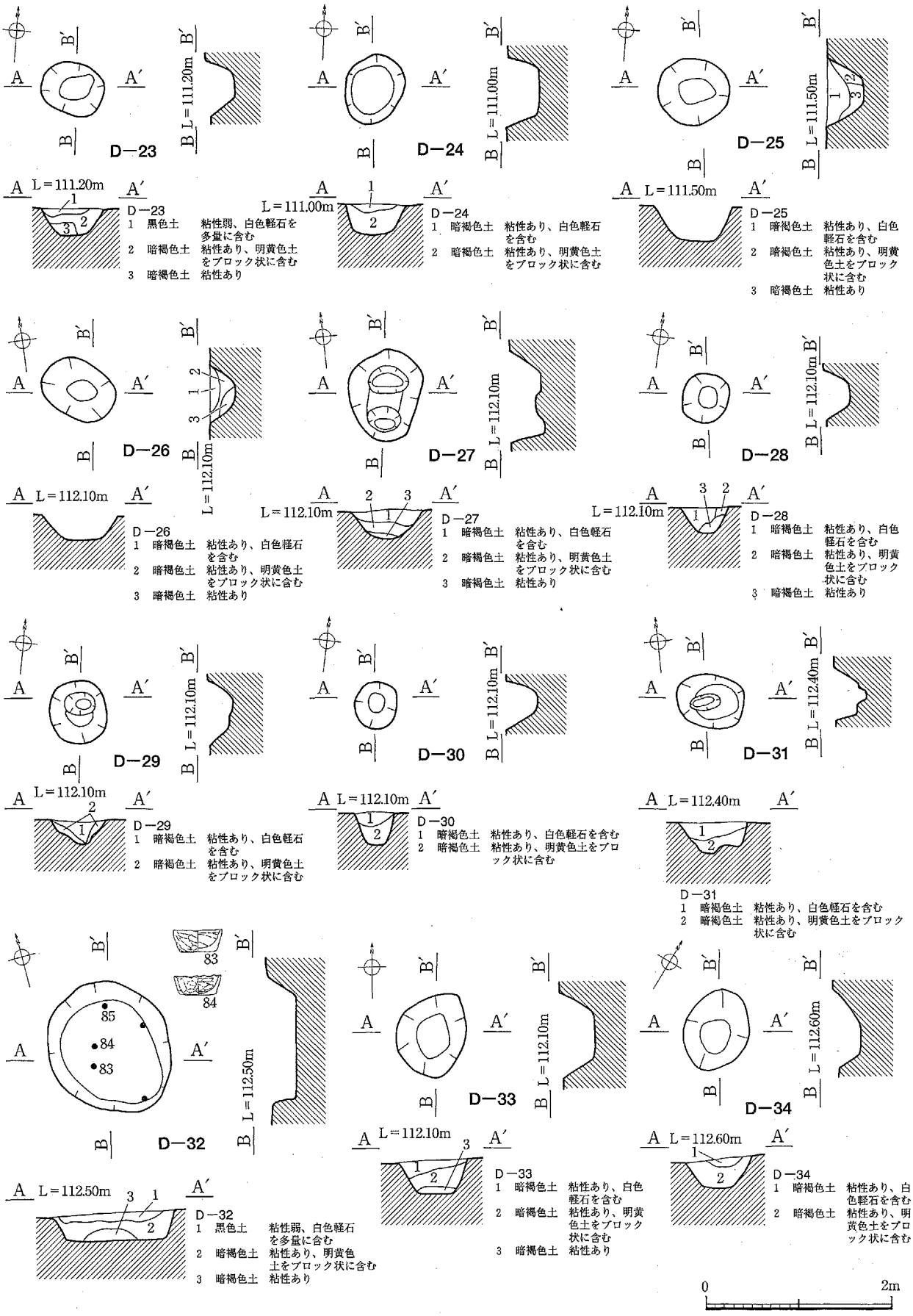
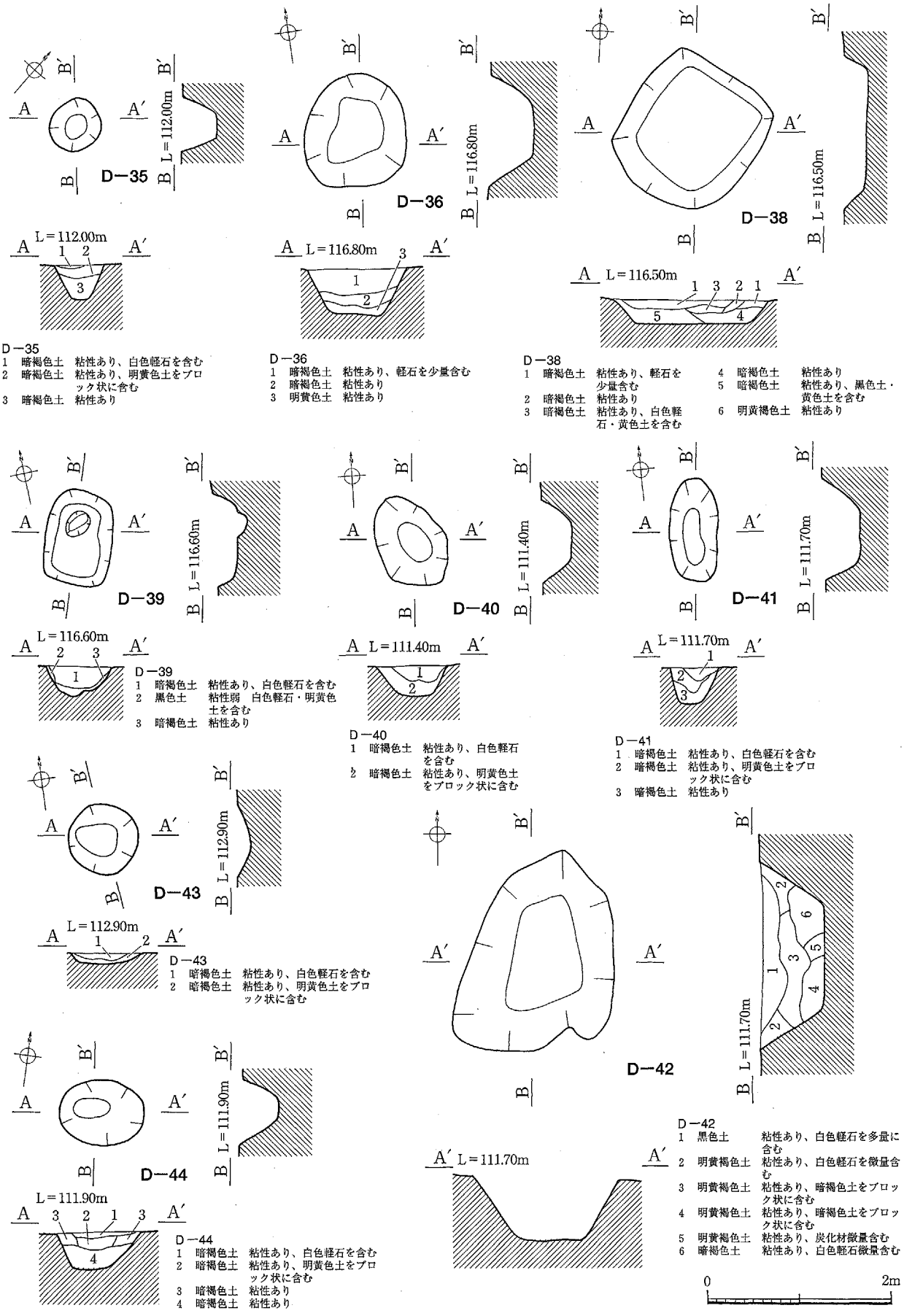


Fig.23 D−23〜34号土坑



D−35
1 暗褐色土 粘性あり、白色軽石を含む
2 暗褐色土 粘性あり、明黄色土をブロック状に含む
3 暗褐色土 粘性あり

D−36
1 暗褐色土 粘性あり、軽石を少量含む
2 暗褐色土 粘性あり
3 明黄色土 粘性あり

D−38
1 暗褐色土 粘性あり、軽石を少量含む
2 暗褐色土 粘性あり
3 暗褐色土 粘性あり、白色軽石・黄色土を含む
4 暗褐色土 粘性あり
5 暗褐色土 粘性あり、黒色土・黄色土を含む
6 明黄褐色土 粘性あり

D−39
1 暗褐色土 粘性あり、白色軽石を含む
2 黒色土 粘性弱 白色軽石・明黄色土を含む
3 暗褐色土 粘性あり

D−40
1 暗褐色土 粘性あり、白色軽石を含む
2 暗褐色土 粘性あり、明黄色土をブロック状に含む

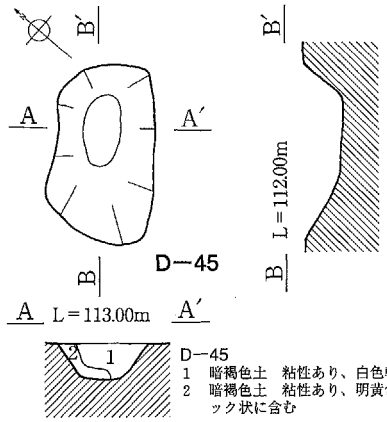
D−41
1 暗褐色土 粘性あり、白色軽石を含む
2 暗褐色土 粘性あり、明黄色土をブロック状に含む
3 暗褐色土 粘性あり

D−43
1 暗褐色土 粘性あり、白色軽石を含む
2 暗褐色土 粘性あり、明黄色土をブロック状に含む

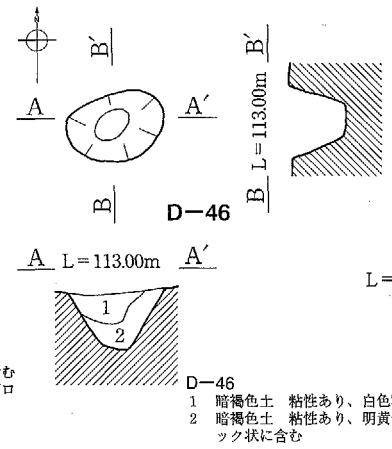
D−42
1 黒色土 粘性あり、白色軽石を多量に含む
2 明黄褐色土 粘性あり、白色軽石を微量含む
3 明黄褐色土 粘性あり、暗褐色土をブロック状に含む
4 明黄褐色土 粘性あり、暗褐色土をブロック状に含む
5 明黄褐色土 粘性あり、炭化材微量含む
6 暗褐色土 粘性あり、白色軽石微量含む

D−44
1 暗褐色土 粘性あり、白色軽石を含む
2 暗褐色土 粘性あり、明黄色土をブロック状に含む
3 暗褐色土 粘性あり
4 暗褐色土 粘性あり

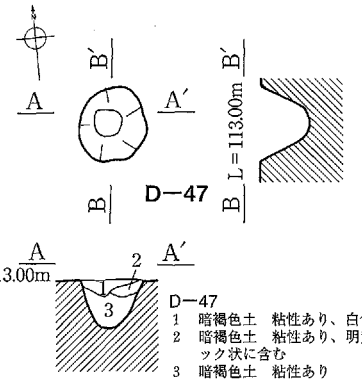
Fig.24 D−35・36・38〜44号土坑



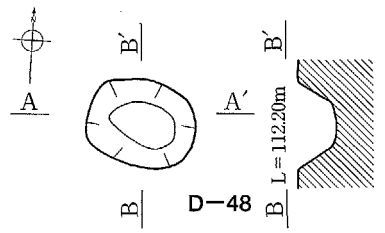
D−45
1 暗褐色土　粘性あり、白色軽石を含む
2 暗褐色土　粘性あり、明黄色土をブロック状に含む



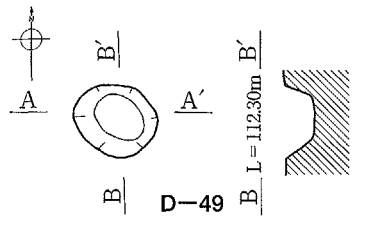
D−46
1 暗褐色土　粘性あり、白色軽石を含む
2 暗褐色土　粘性あり、明黄色土をブロック状に含む



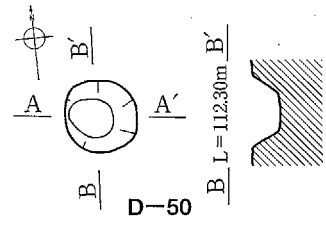
D−47
1 暗褐色土　粘性あり、白色軽石を含む
2 暗褐色土　粘性あり、明黄色土をブロック状に含む
3 暗褐色土　粘性あり



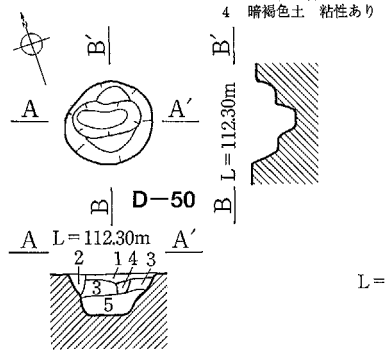
D−48
1 暗褐色土　粘性あり、白色軽石を含む
2 暗褐色土　粘性あり、白色軽石・明黄色土を含む
3 暗褐色土　粘性あり、明黄色土をブロック状に含む
4 暗褐色土　粘性あり



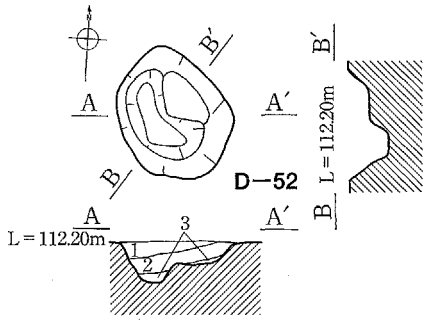
D−49
1 暗褐色土　粘性あり
2 暗褐色土　粘性あり、白色軽石を含む
3 暗褐色土　粘性あり、明黄色土をブロック状に含む
4 暗褐色土　粘性あり、黒色土・黄色土含む



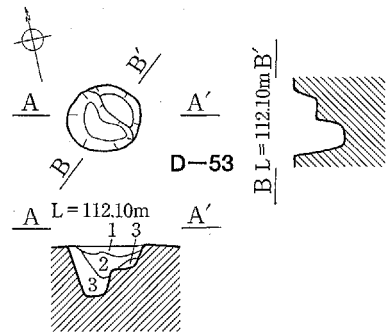
D−51
1 暗褐色土　粘性あり、白色軽石を含む
2 暗褐色土　粘性あり、明黄色土をブロック状に含む



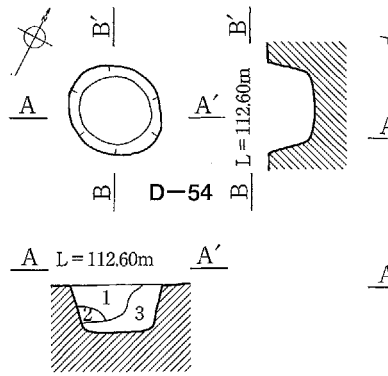
D−50
1 暗褐色土　粘性あり、白色軽石を含む
2 暗褐色土　粘性あり、白色軽石・明黄色土を含む
3 暗褐色土　粘性あり、明黄色土をブロック状に含む
4 暗褐色土　粘性あり
5 暗褐色土　粘性あり、黒色土・黄色土を含む



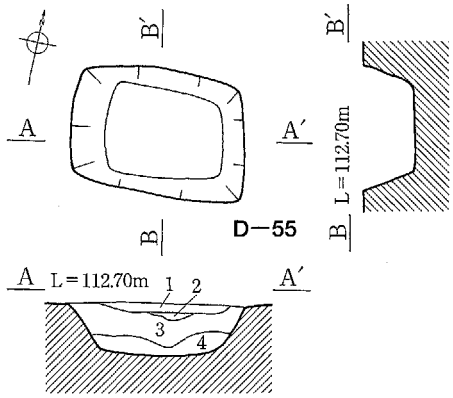
D−52
1 暗褐色土　粘性あり、白色軽石を含む
2 暗褐色土　粘性あり、明黄色土をブロック状に含む
3 暗褐色土　粘性あり



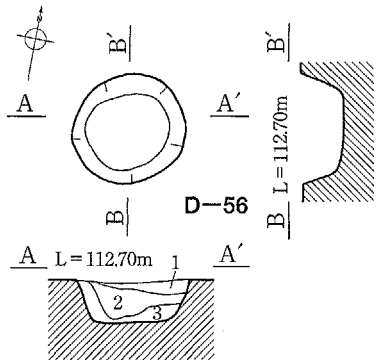
D−53
1 暗褐色土　粘性あり、白色軽石を含む
2 暗褐色土　粘性あり、明黄色土をブロック状に含む
3 暗褐色土　粘性あり



D−54
1 暗褐色土　粘性あり、白色軽石を含む
2 暗褐色土　粘性あり、明黄色土をブロック状に含む
3 暗褐色土　粘性あり



D−55
1 暗褐色土　粘性あり、白色軽石を含む
2 暗褐色土　粘性あり、白色軽石・明黄色土を含む
3 暗褐色土　粘性あり、明黄色土をブロック状に含む
4 暗褐色土　粘性あり



D−56
1 暗褐色土　粘性あり、白色軽石を含む
2 暗褐色土　粘性あり、明黄色土をブロック状に含む
3 暗褐色土　粘性あり

0　2m

Fig.25　D−45～56号土坑

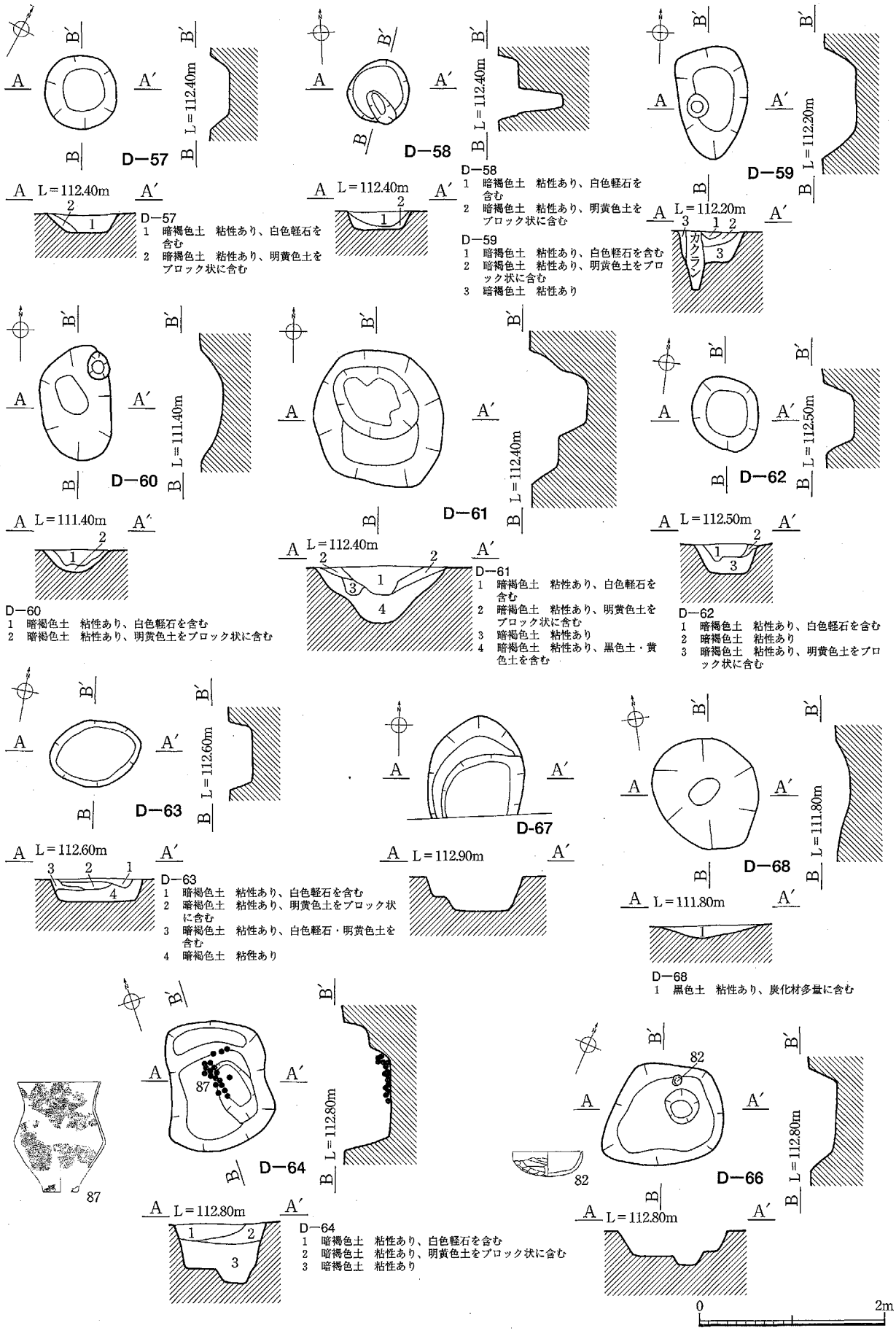


Fig.26 D−57～64・66～68号土坑

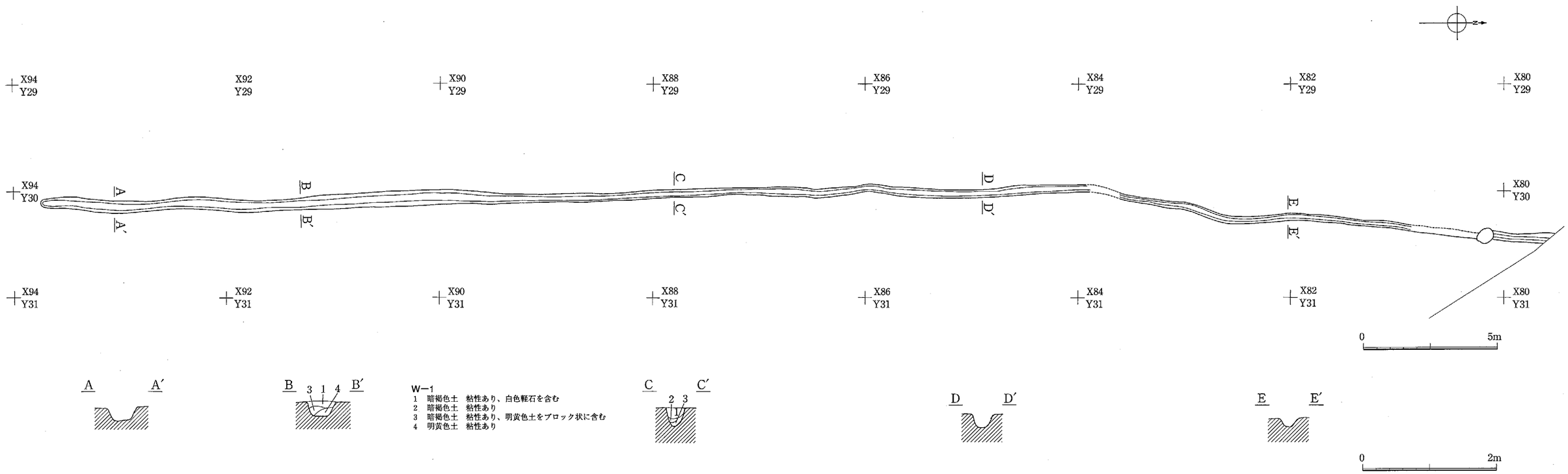
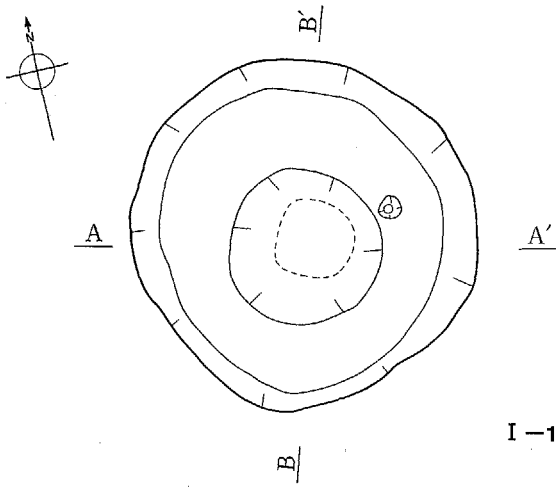
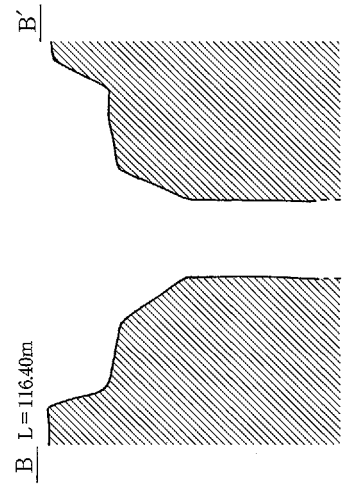
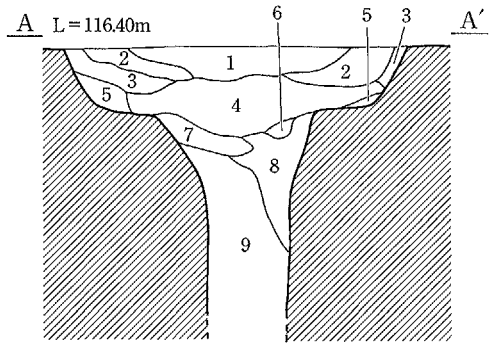

X94 Y29
X92 Y29
X90 Y29
X88 Y29
X86 Y29
X84 Y29
X82 Y29
X80 Y29
X94 Y30
X80 Y30
X94 Y31
X92 Y31
X90 Y31
X88 Y31
X86 Y31
X84 Y31
X82 Y31
X80 Y31
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
0
5m
0
2m
3 1 4
2 3
W−1
1 暗褐色土 粘性あり、白色軽石を含む
2 暗褐色土 粘性あり
3 暗褐色土 粘性あり、明黄色土をブロック状に含む
4 明黄色土 粘性あり

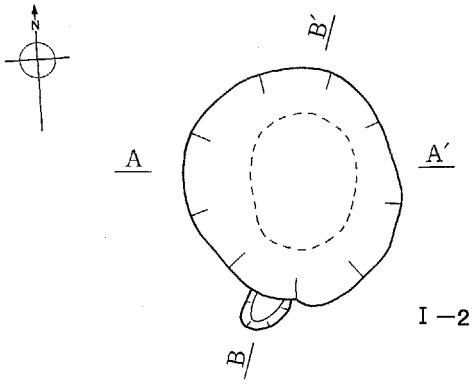
Fig.27 W−1号溝跡

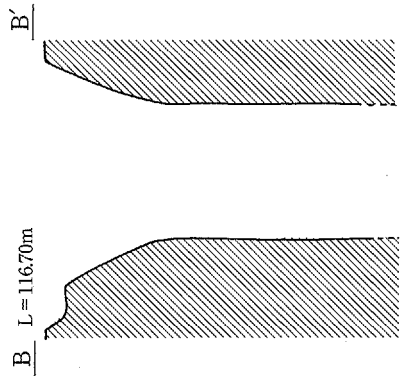


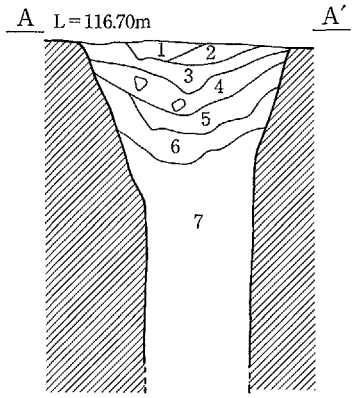




I −1
1 黒色土　粘性あり、白色軽石多量含む
2 暗褐色土　粘性あり、白色軽石少量含む
3 暗褐色土　粘性あり、白色軽石少量含む
4 黒色土　粘性あり、白色軽石少量含む
5 黒色土　粘性あり、白色軽石少量・暗褐色土ブロック含む
6 暗褐色土　粘性あり、白色軽石微量含む
7 暗褐色土　粘性あり、白色軽石微量、黄色土少量含む
8 暗褐色土　粘性あり、黄色土含む
9 暗褐色土　粘性あり、白色軽石微量含む







I −2
1 暗褐色土　粘性あり、白色軽石多量含む
2 暗褐色土　粘性あり、白色軽石少量含む
3 暗褐色土　粘性あり、白色軽石微量含む
4 暗褐色土　粘性あり、白色軽石微量・黒色土ブロック含む
5 明黄褐色土　粘性あり、黄色土ブロック含む
6 黒色土　粘性あり、暗褐色土ブロック含む
7 暗褐色土　粘性あり、黒色土ブロック含む

Fig.28　I −1・2号井戸跡

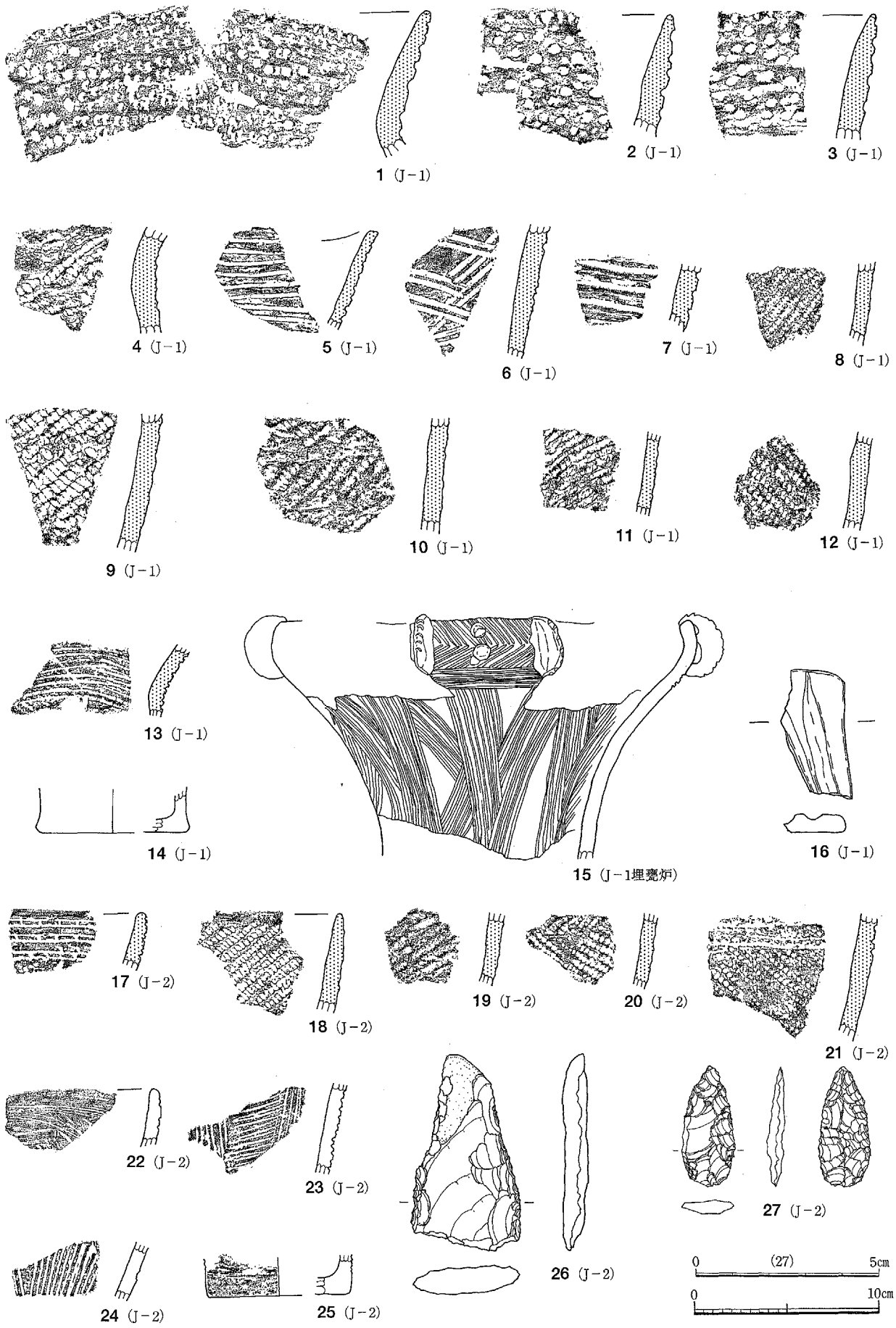


Fig.29　J－1・2号住居跡出土遺物

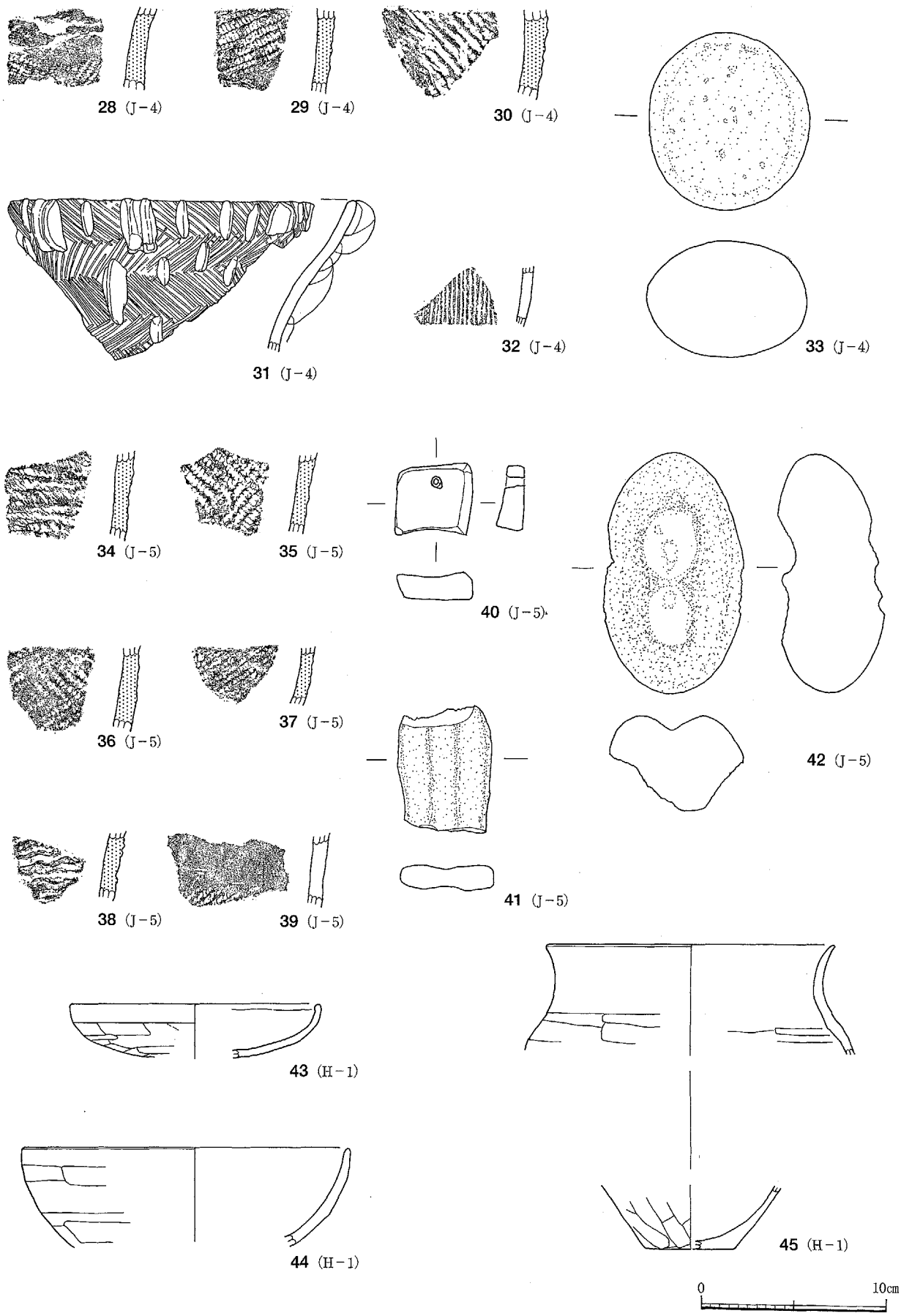


Fig.30　J－4・5号住居跡、H－1号住居跡出土遺物

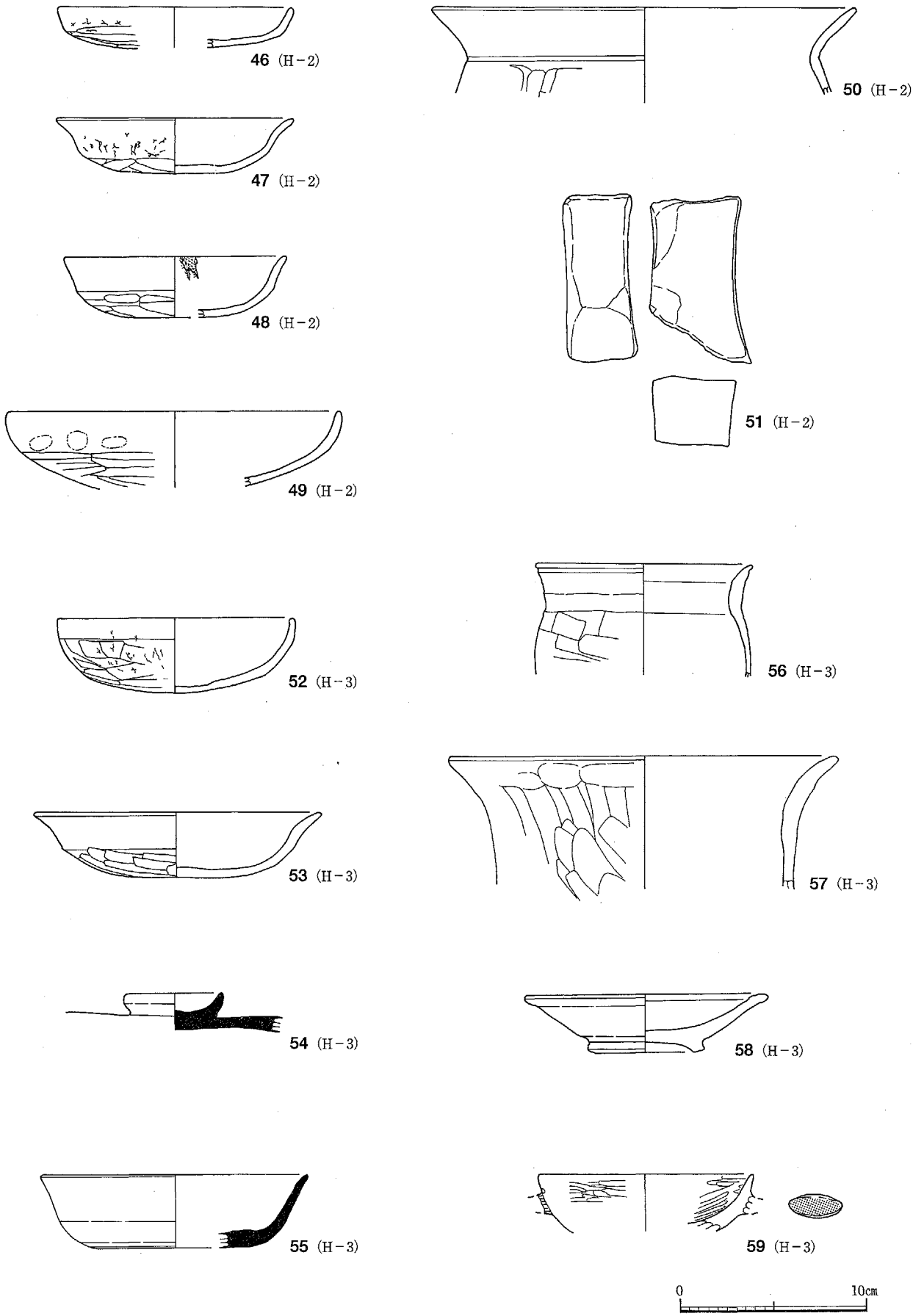


Fig.31　H－2・3号住居跡出土遺物

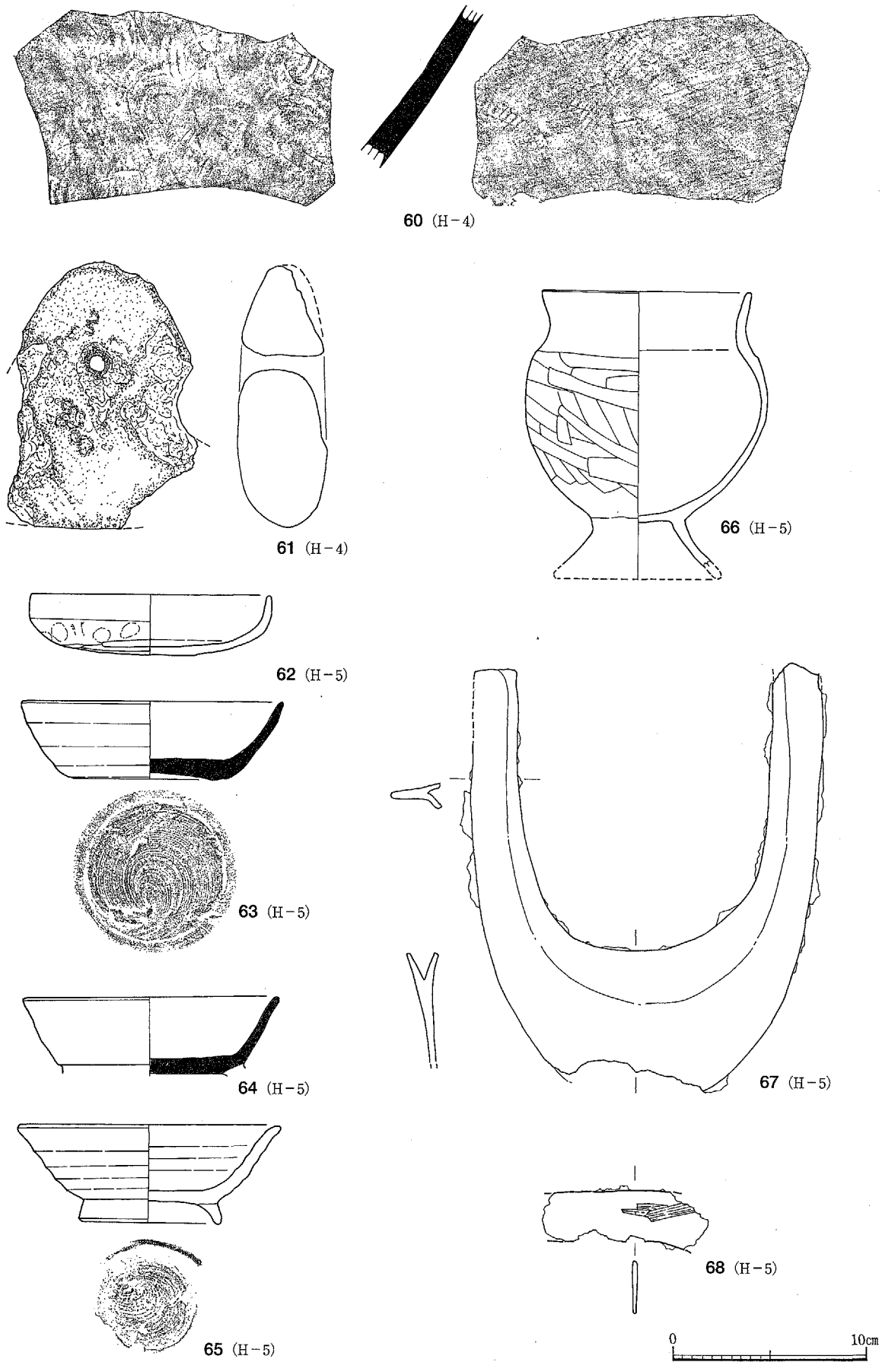


Fig.32　H－4・5号住居跡出土遺物

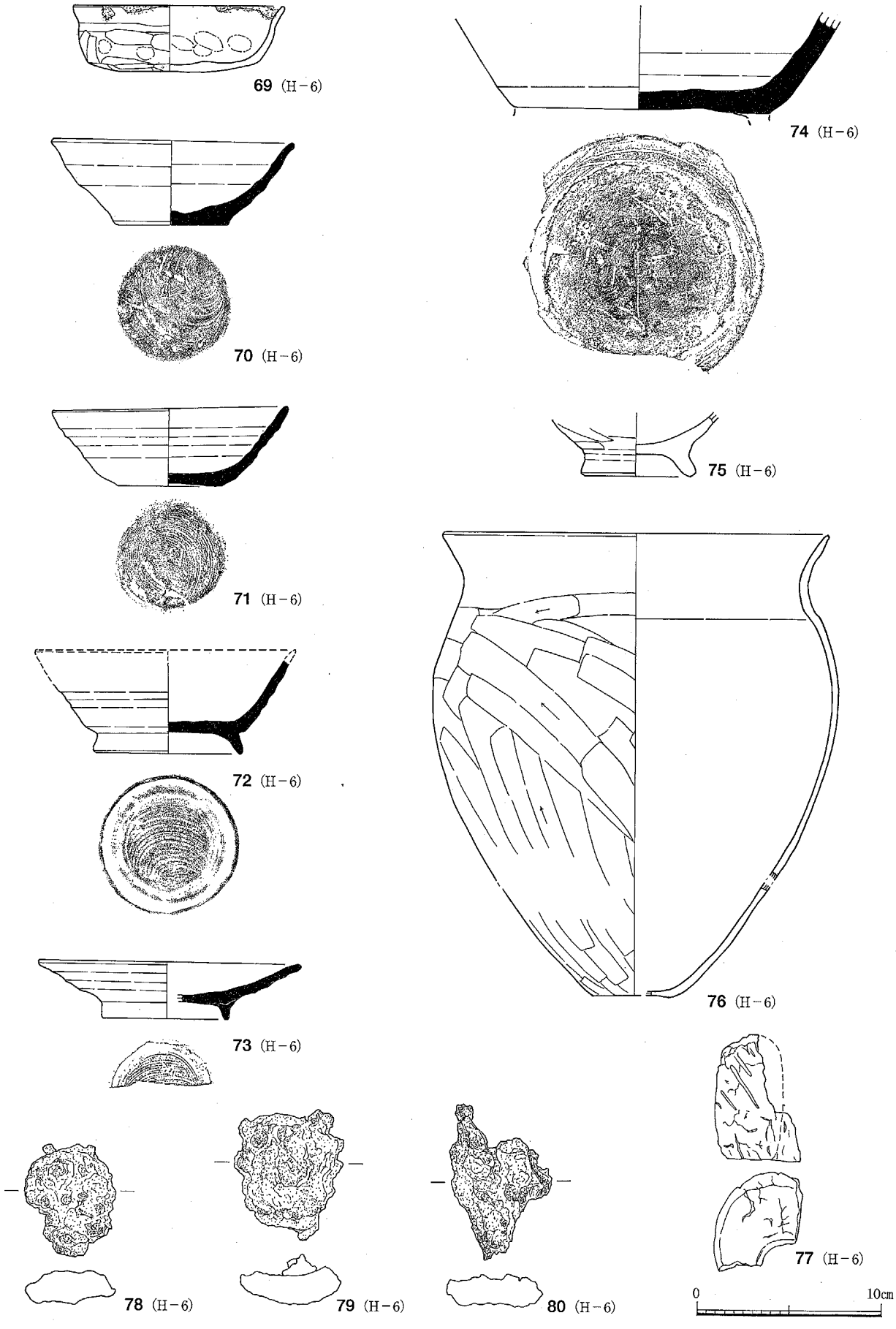


Fig.33　H－6号住居跡出土遺物

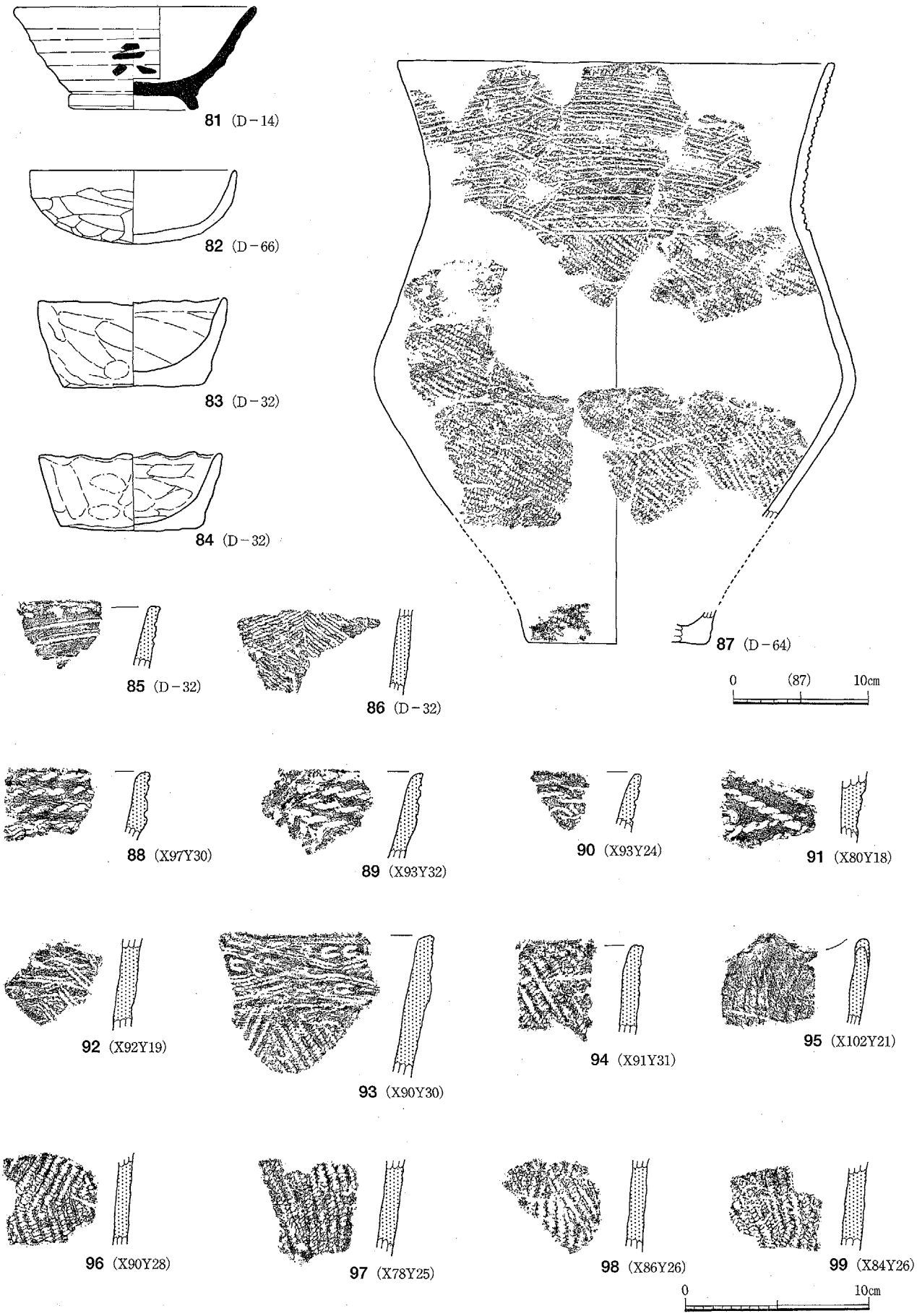


Fig.34　土坑出土遺物、遺構外出土縄文土器

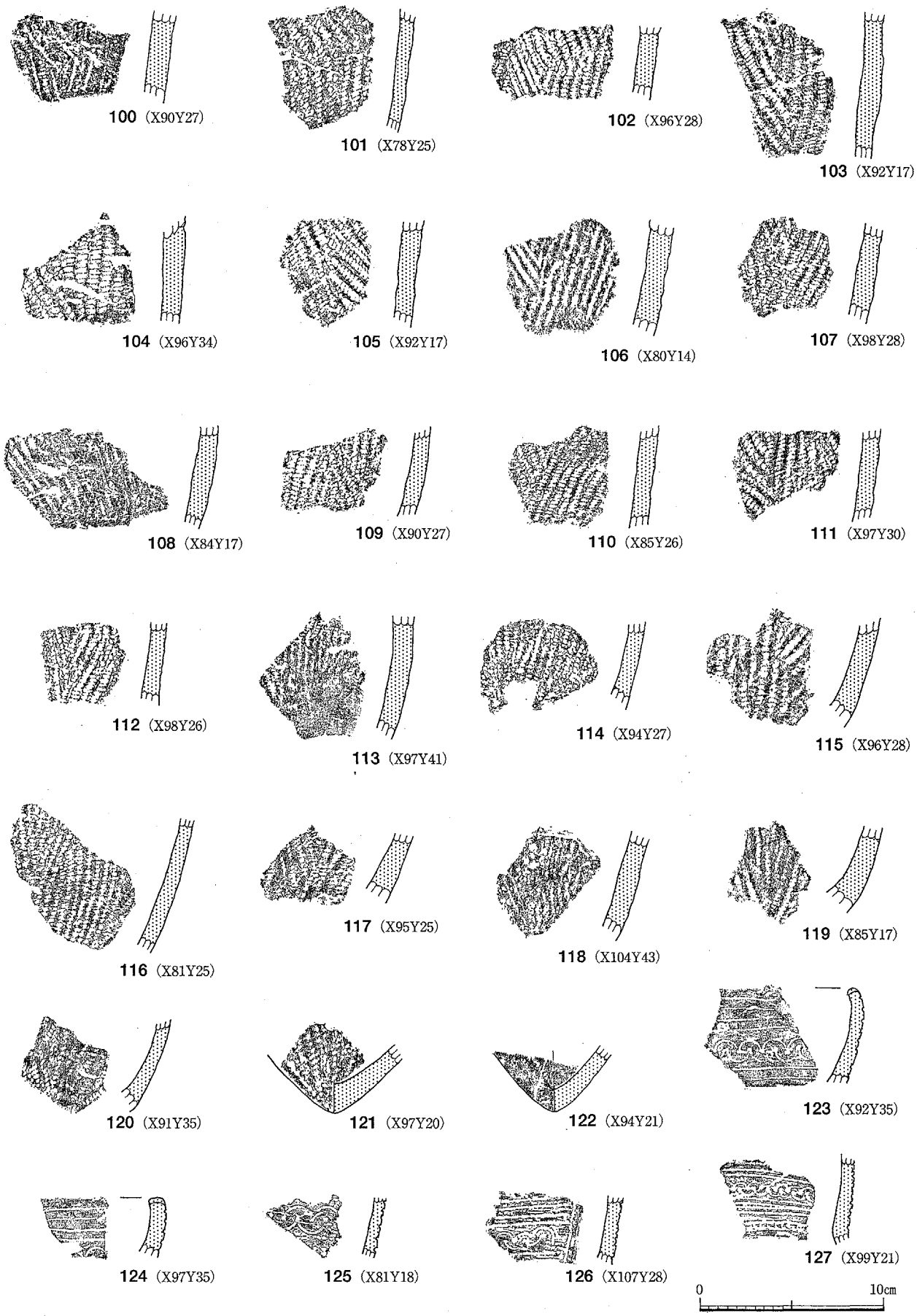


Fig.35　遺構外出土縄文土器

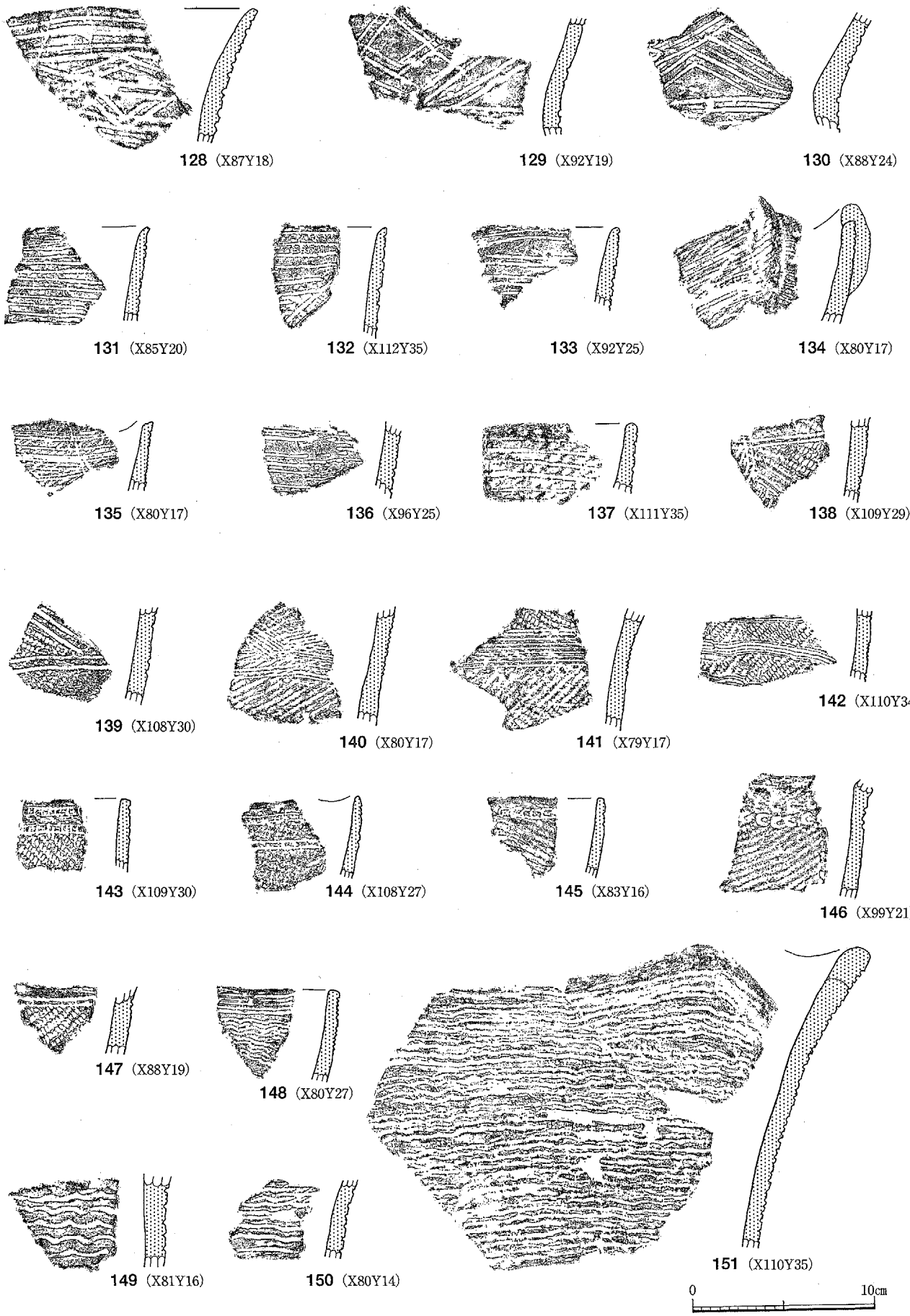


Fig.36　遺構外出土縄文土器

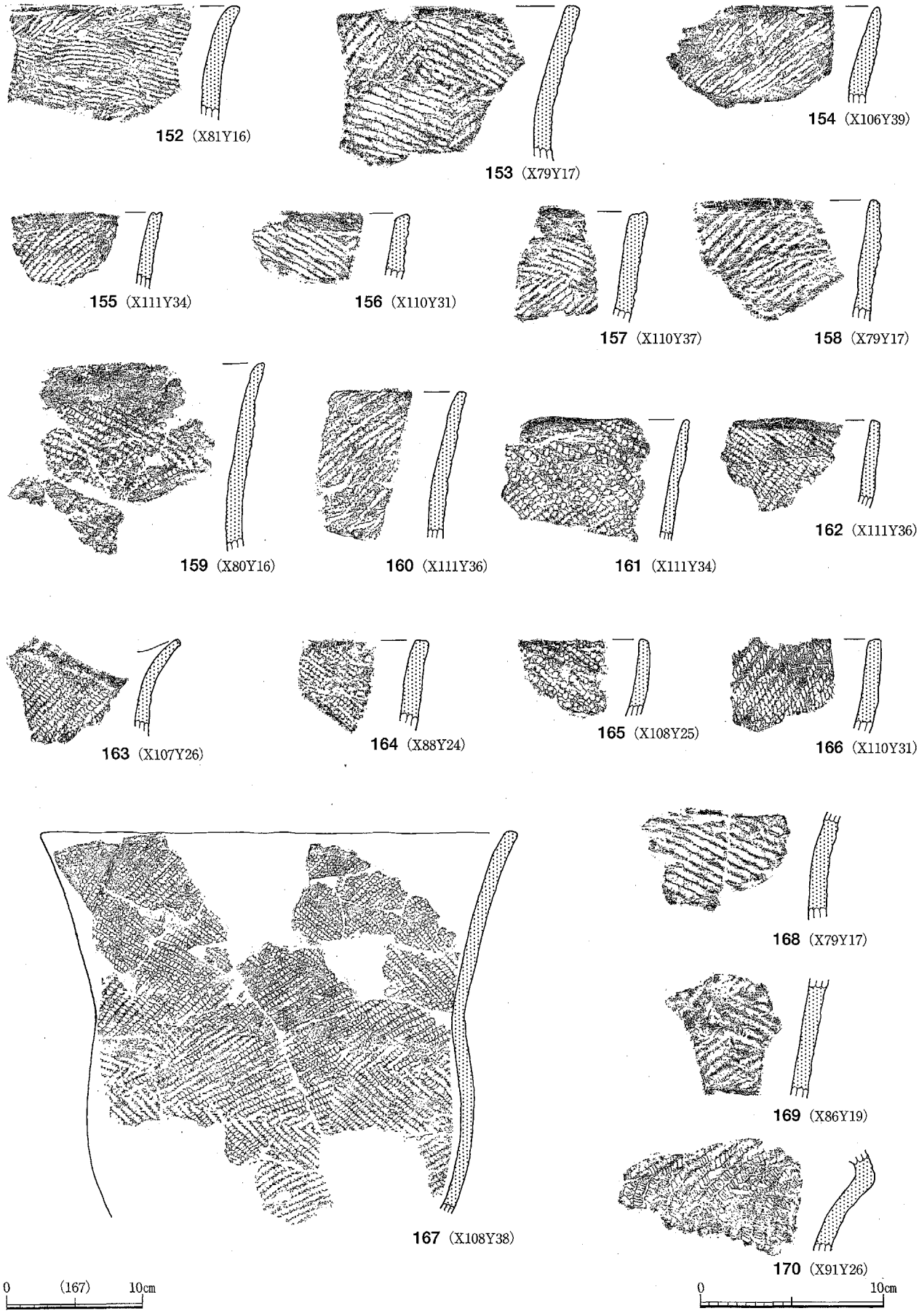


Fig.37　遺構外出土縄文土器

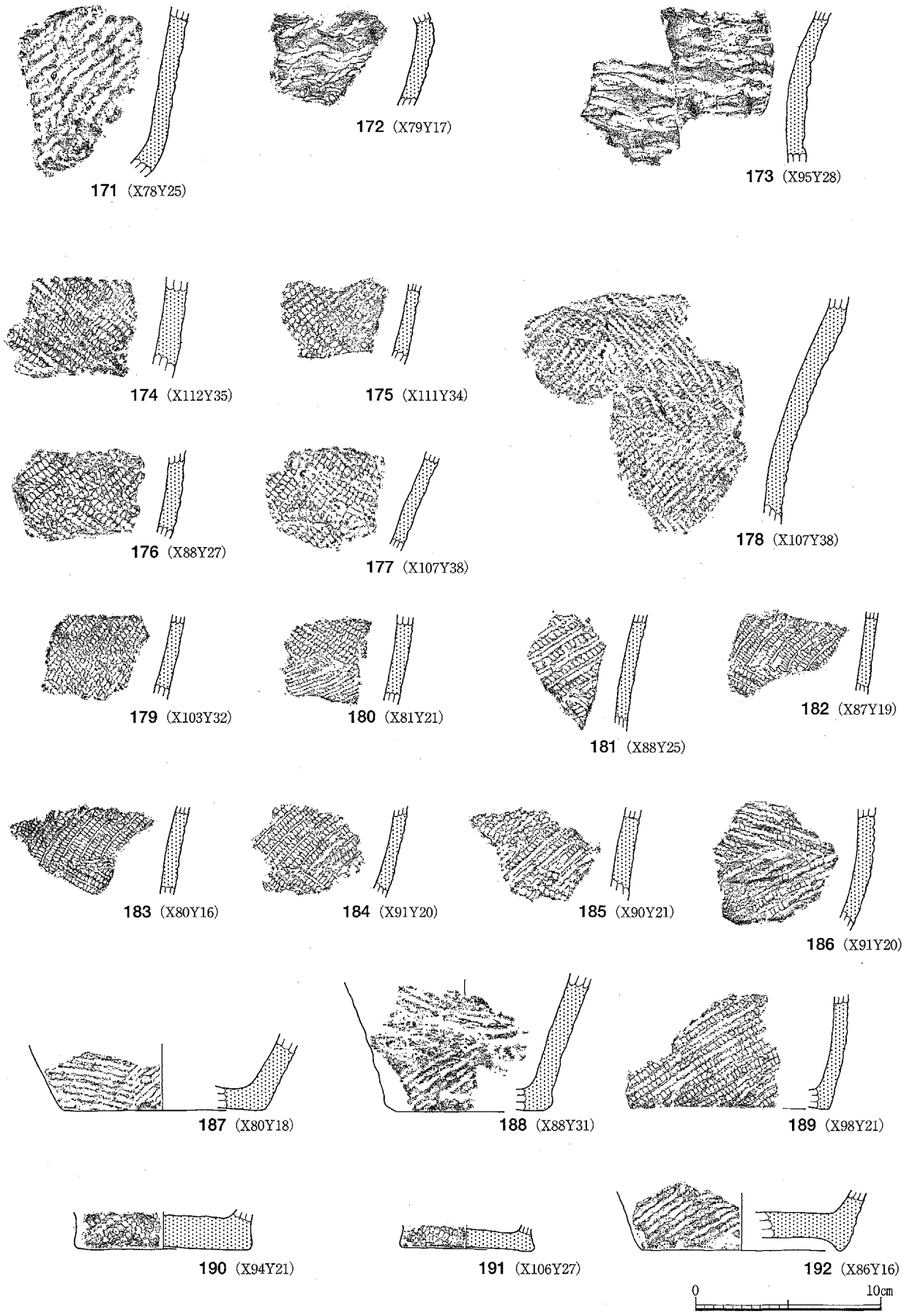


Fig.38　遺構外出土縄文土器

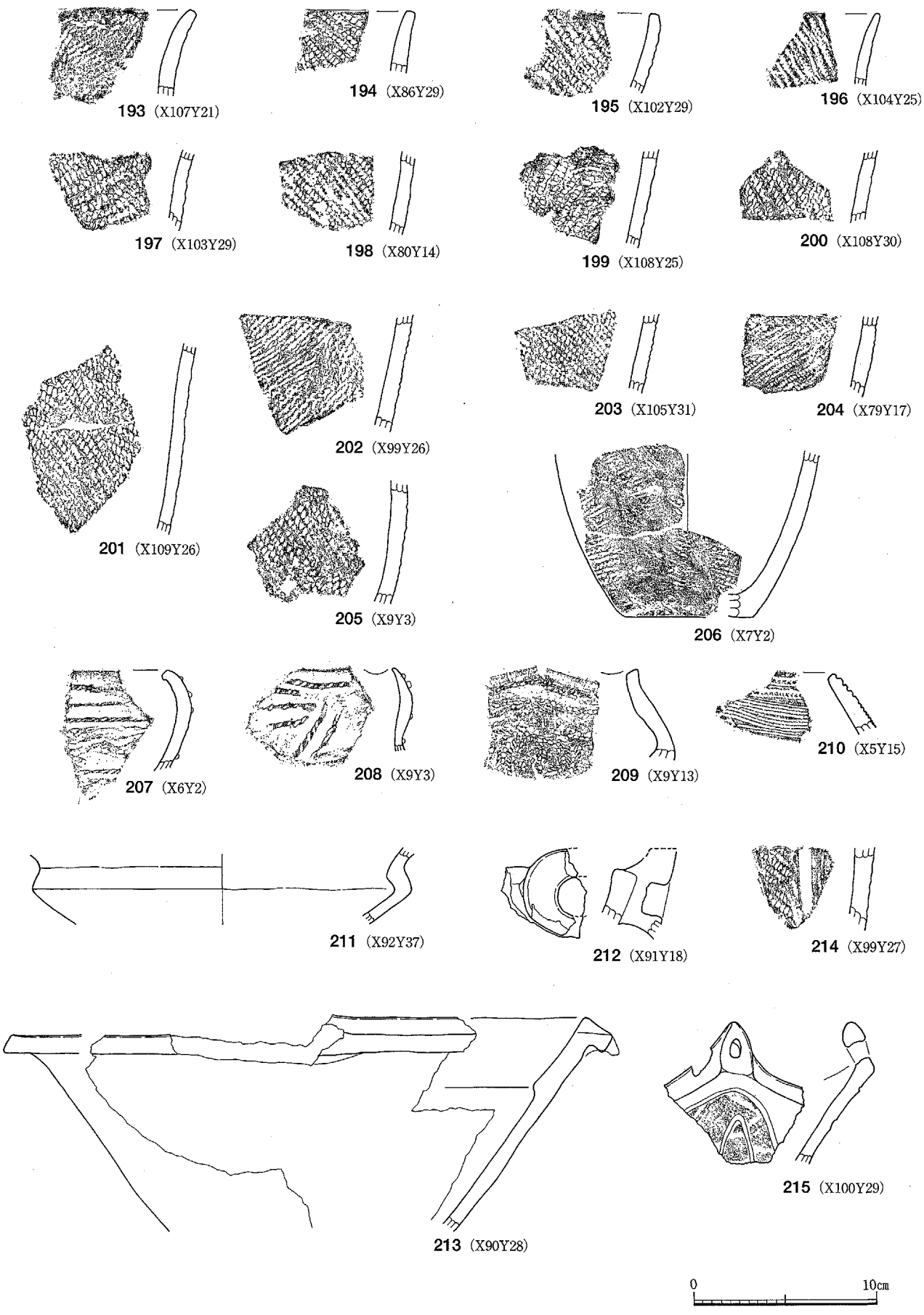


Fig.39　遺構外出土縄文土器

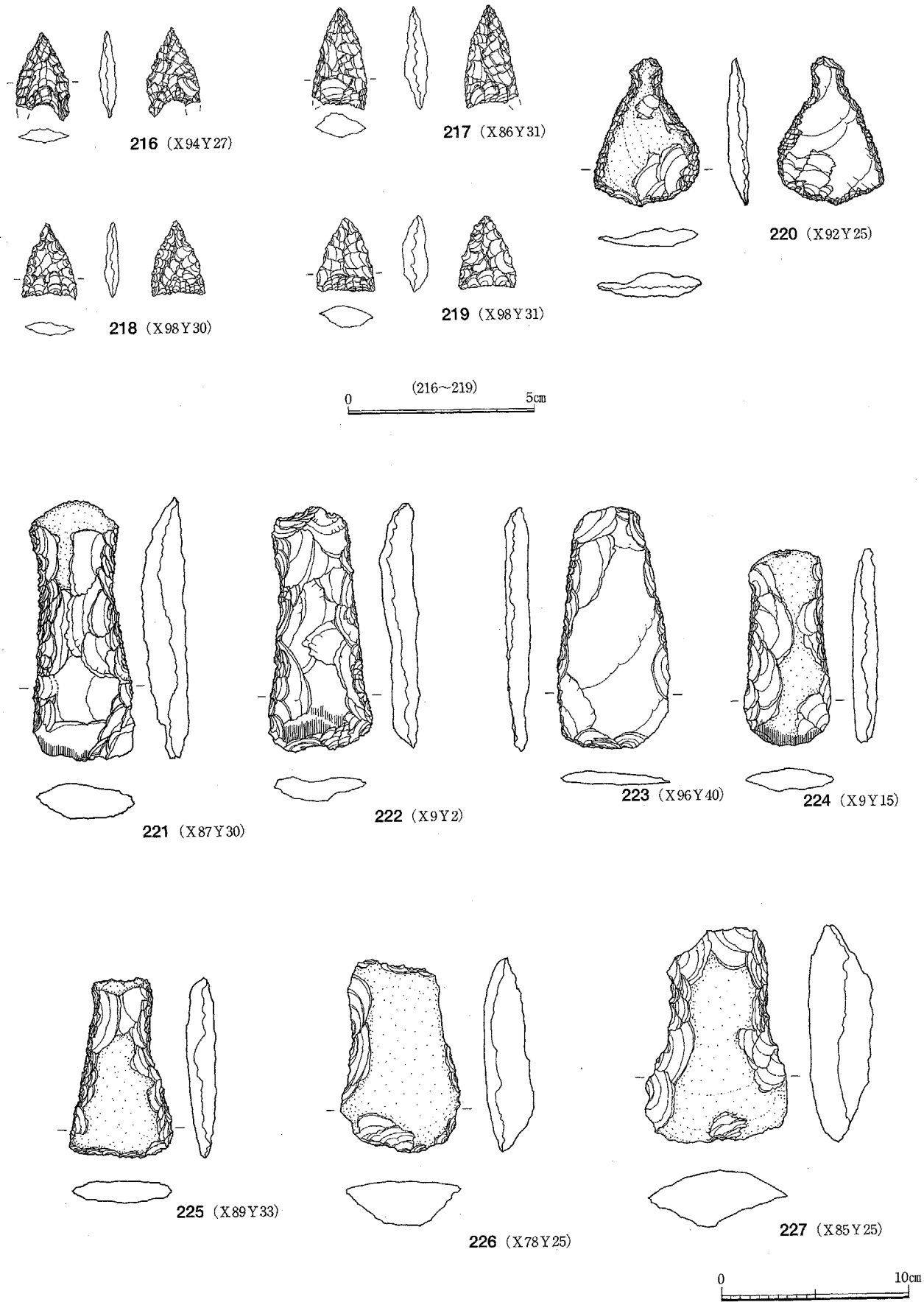


Fig.40　遺構外出土石器

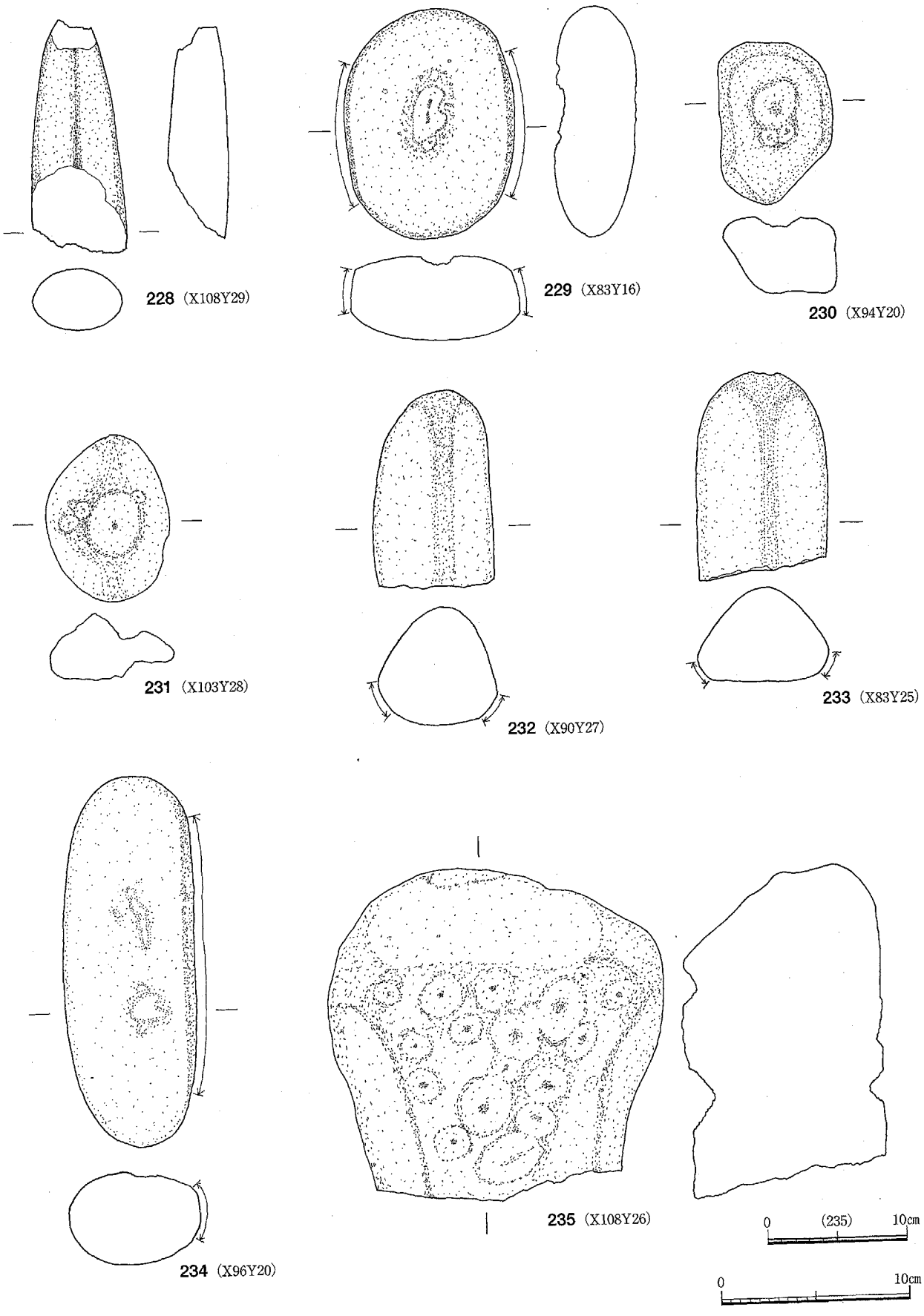
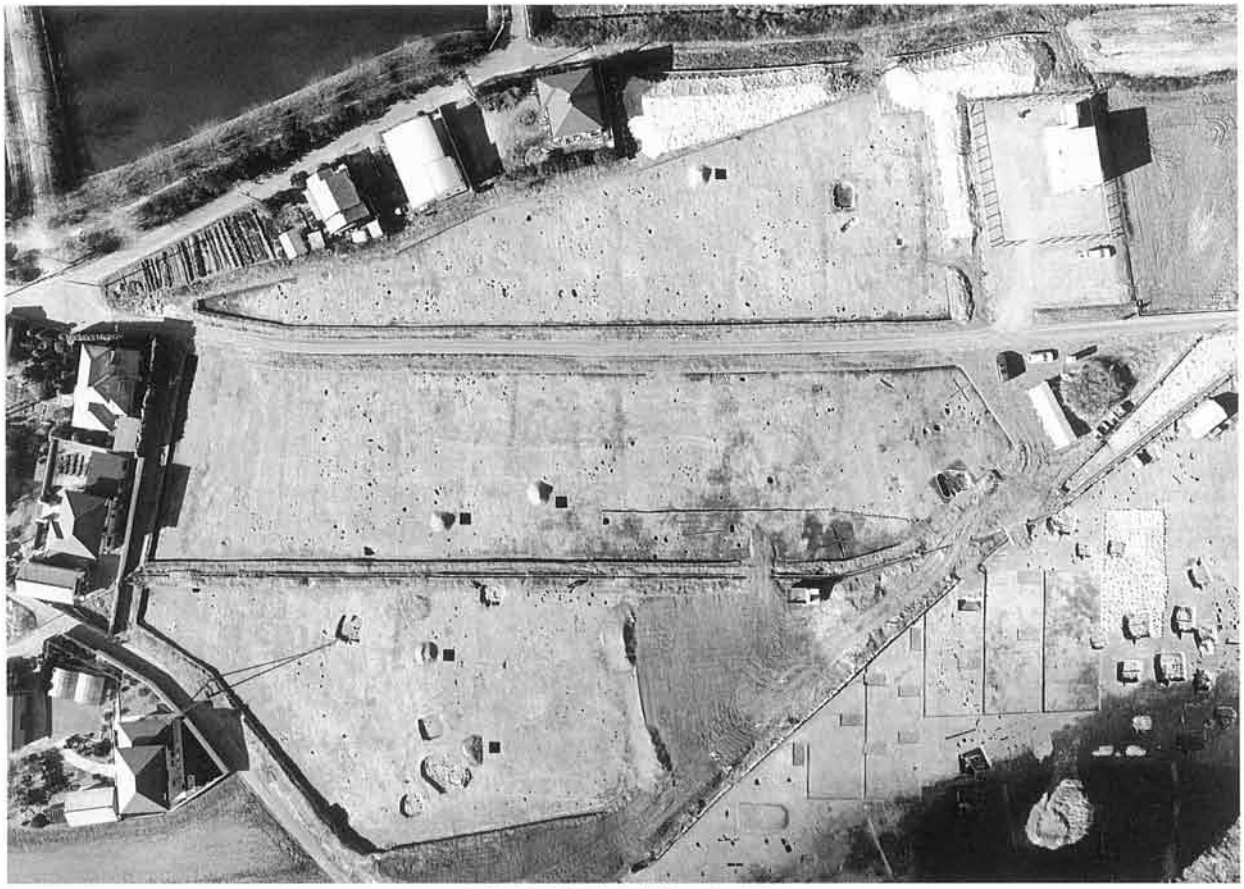


Fig.41　遺構外出土石器

写　真　図　版

南調査区全景（空撮　南から）



南調査区全景（空撮　上が西）

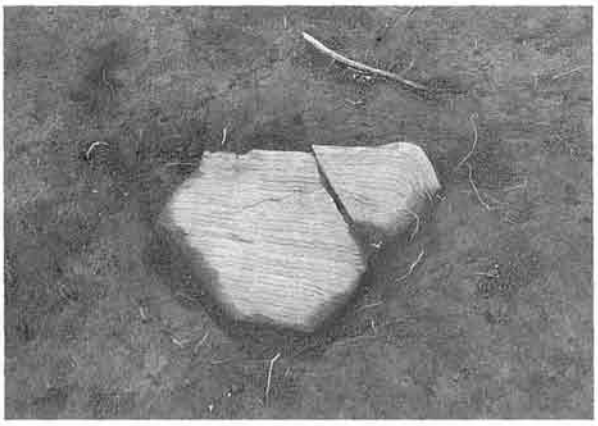
北調査区全景（空撮　上が南）

北調査区全景（西から）

南調査区中央地区全景（北から）

南調査区東地区遺構配列状況（北東から）

南調査区遺物出土状況（南から）



X110Y35グリッド出土遺物（南から）

J－1号住居跡覆土断面（北から）

J－1号住居跡埋甕炉（南から）

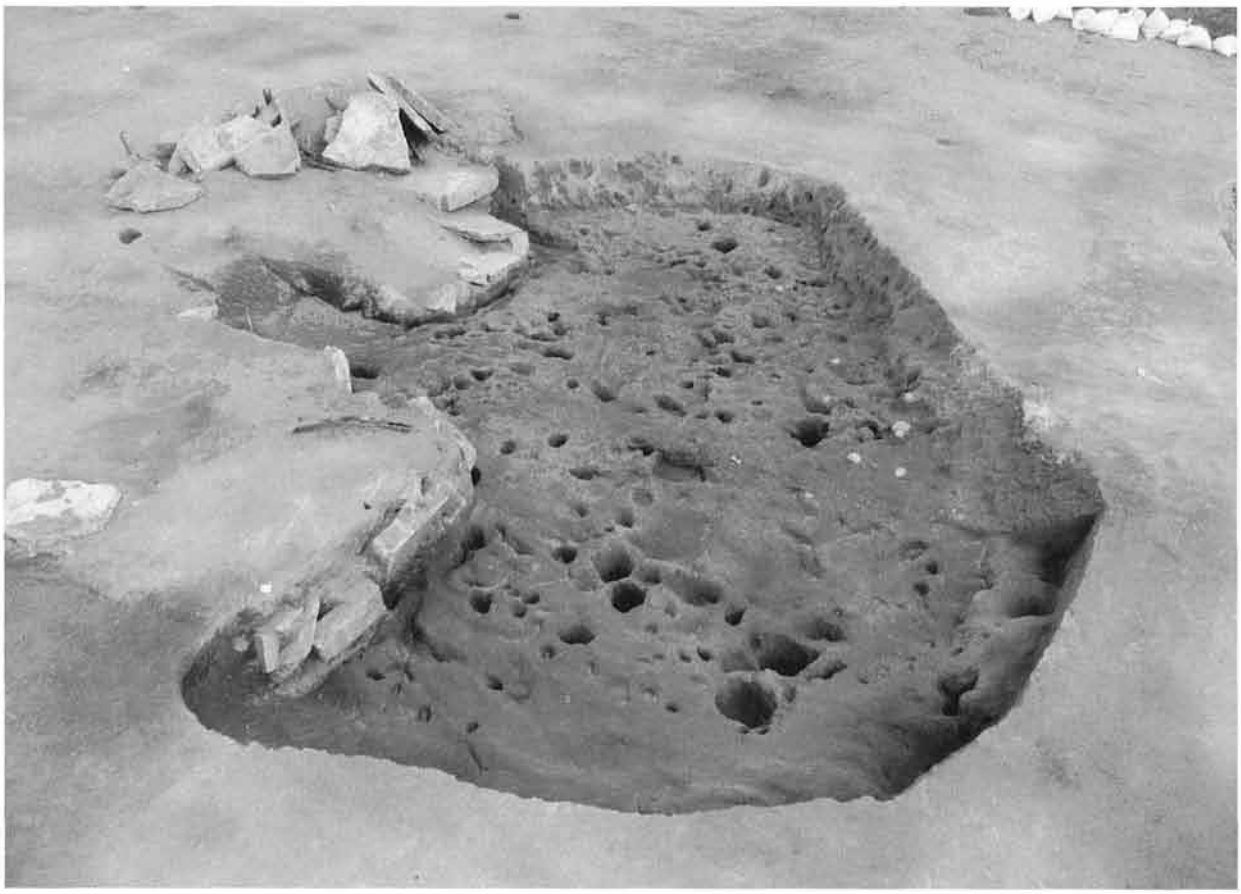
J－1号住居跡全景（南から）

Ｊ－2号住居跡全景（西から）

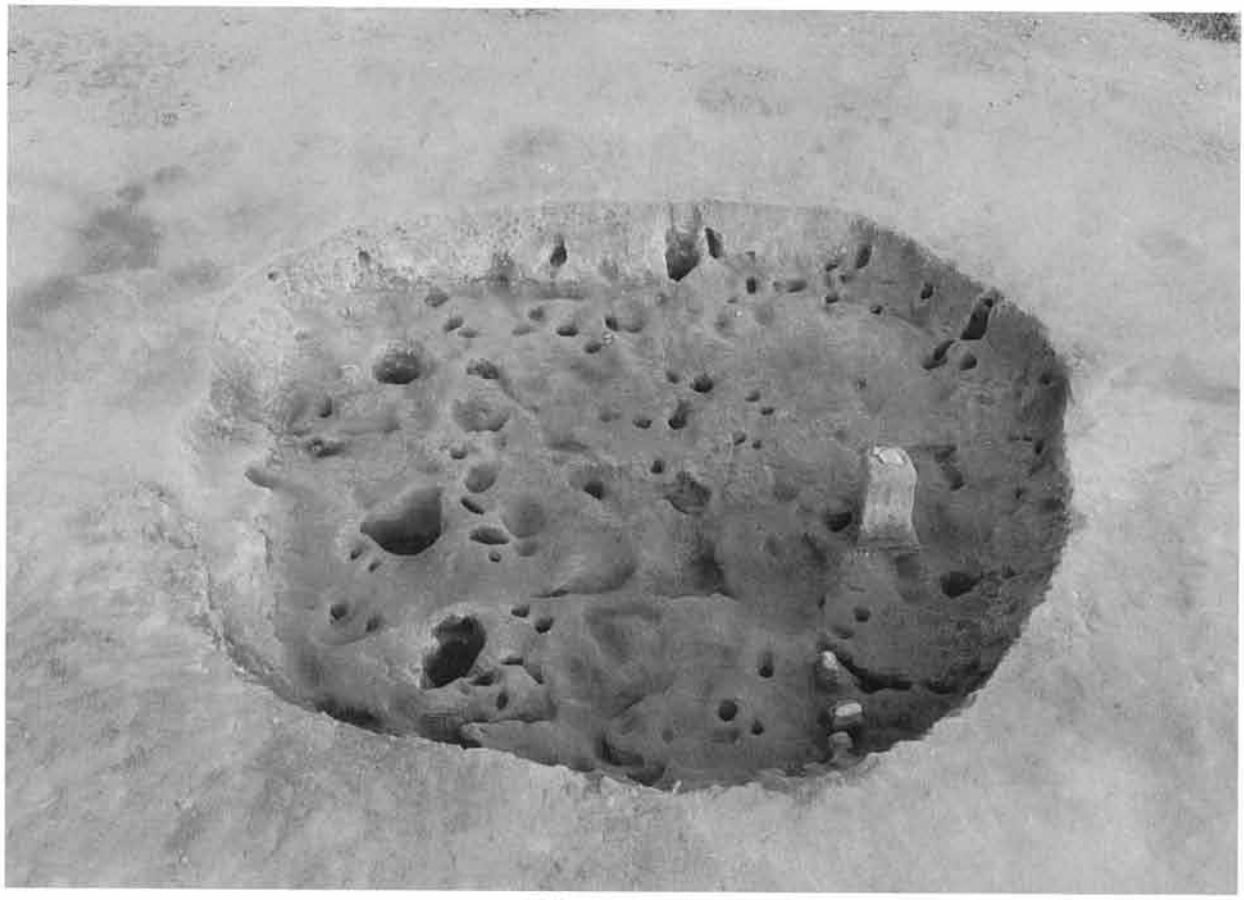
Ｊ－2号住居跡出土遺物（東から）

Ｊ－4号住居跡覆土断面（南西から）

Ｊ－4号住居跡出土遺物（南西から）



Ｊ－4号住居跡全景（南西から）



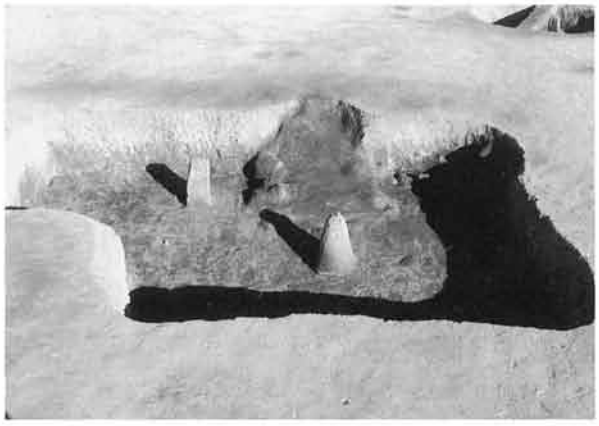
Ｊ－5号住居跡全景（西から）

Ｊ－5号住居跡覆土断面（西から）

Ｈ－1号住居跡全景（西から）

Ｈ－1号住居跡竈覆土断面（南西から）

Ｈ－1号住居跡竈（西から）



H－2号住居跡遺物出土状況（西から）

H－2号住居跡竈粘土堆積状況（西から）

H－2号住居跡竈覆土断面（南から）

H－2号住居跡竈（西から）

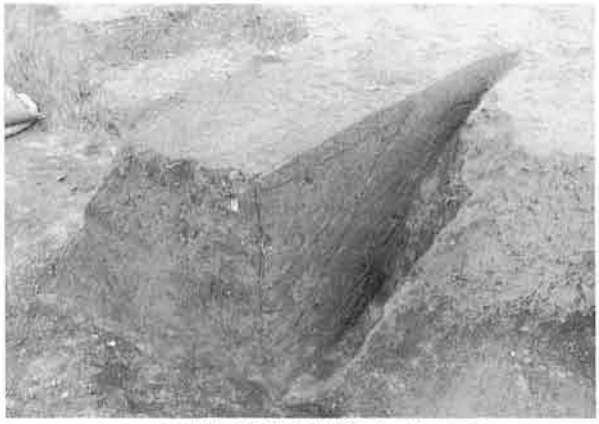
H－2号住居跡全景（西から）

H－3号住居跡覆土断面（西から）

H－3号住居跡遺物出土状況（西から）

H－3号住居跡全景（西から）

H－4号住居跡全景（西から）

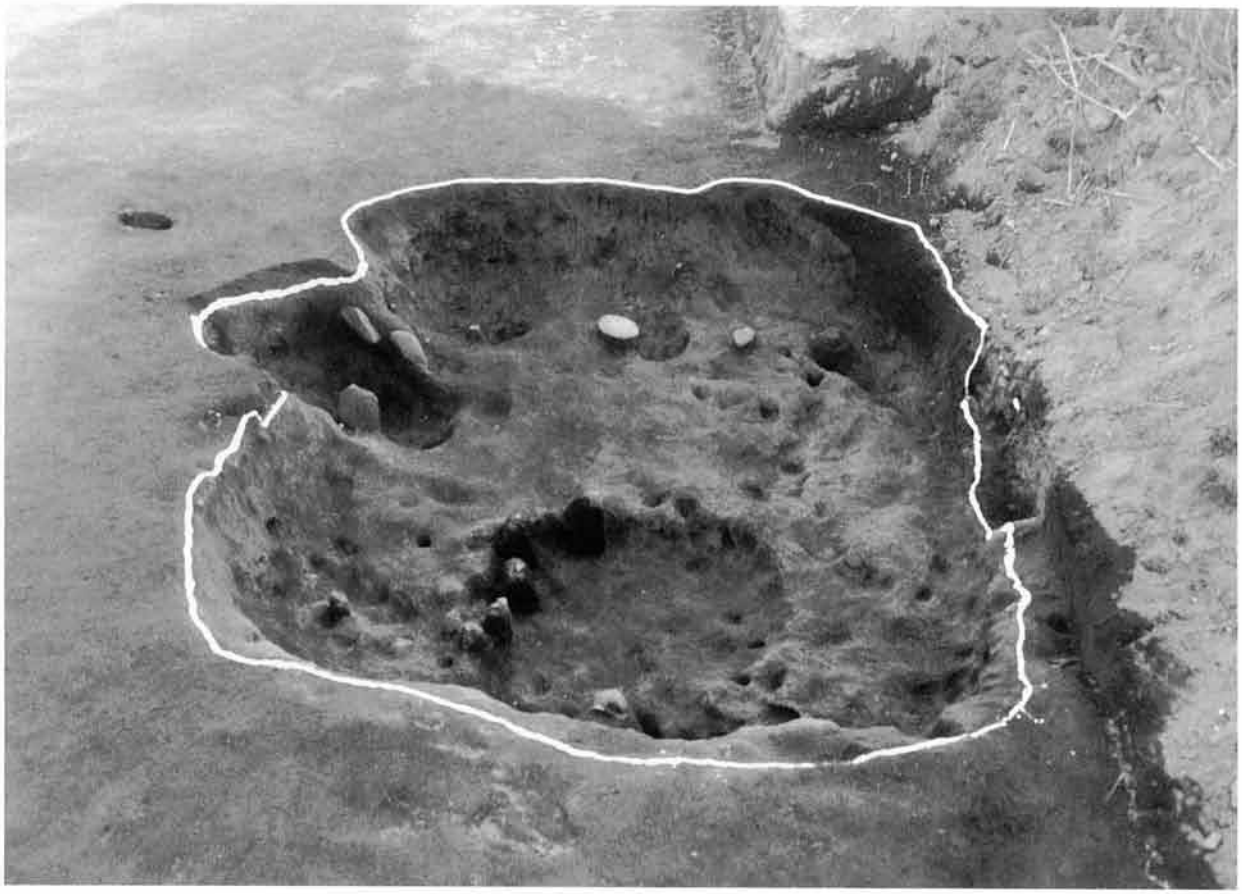


H－4号住居跡竈覆土断面（南から）

H－4号住居跡竈（西から）

H－5号住居跡竈覆土断面（南から）

H－5号住居跡竈（西から）



H－5号住居跡遺物出土状況（北から）

H－5号住居跡全景（西から）

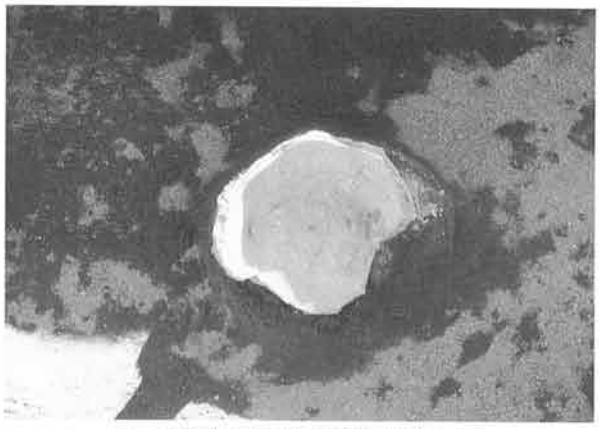
H－5号住居跡出土遺物（北から）

H－5号住居跡出土遺物（南から）

H－5号住居跡出土遺物（南から）

H－6号住居跡遺物出土状況（西から）

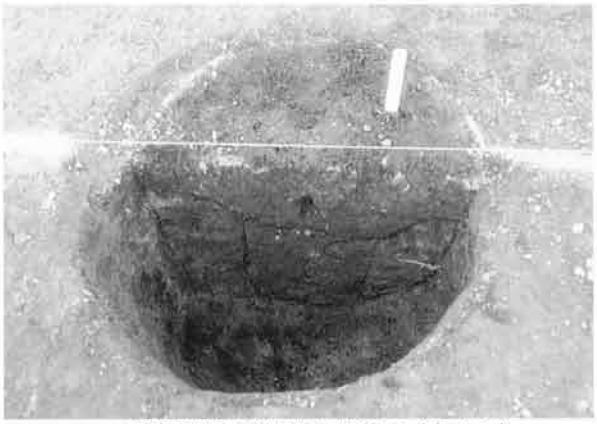
H－6号住居跡竈（西から）



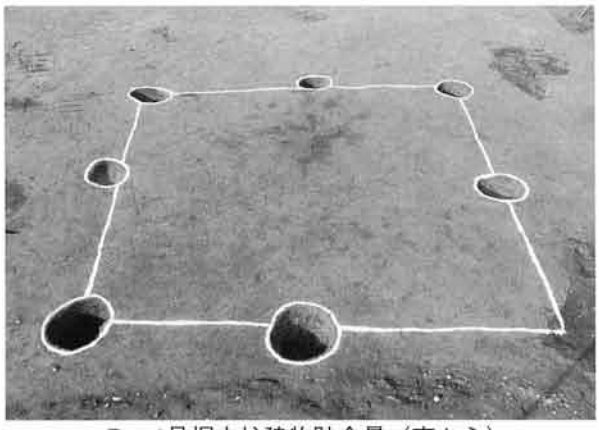
H－6号住居跡出土遺物（北から）

H－6号住居跡出土遺物（北から）

H－6号住居跡出土遺物（北から）



B－1号掘立柱建物跡覆土断面（南から）



B－1号掘立柱建物跡全景（南から）

W－1号溝跡覆土断面（南から）

W－1号溝跡全景（南から）

I －1号井戸跡全景（南から）

D－6号土坑全景（東から）

D－11号土坑全景（南から）

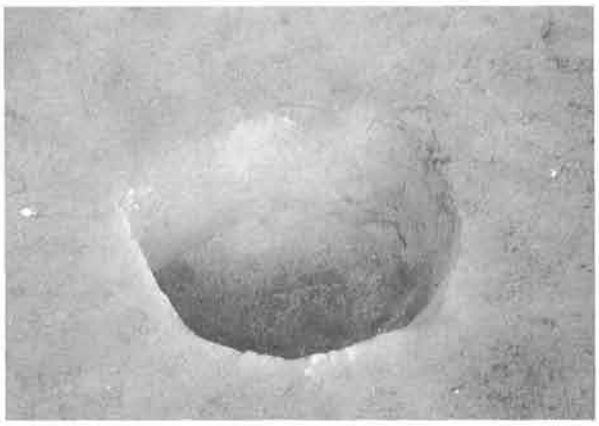
D－14号土坑覆土断面（南東から）

D－14号土坑出土遺物（北西から）

D－14号土坑全景（北西から）

D－17号土坑全景（東から）

D－32号土坑全景（北西から）

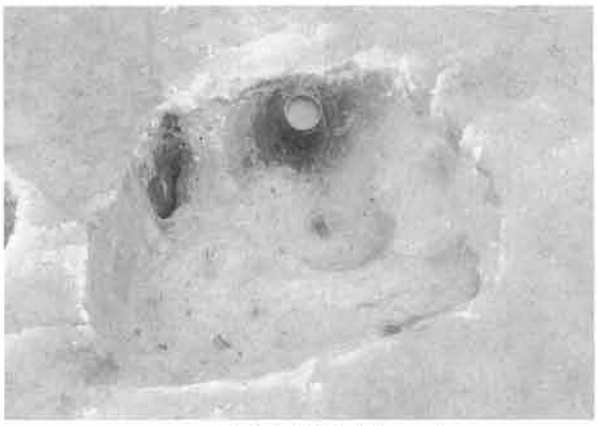


D－56号土坑全景（南から）

D－59号土坑全景（東から）

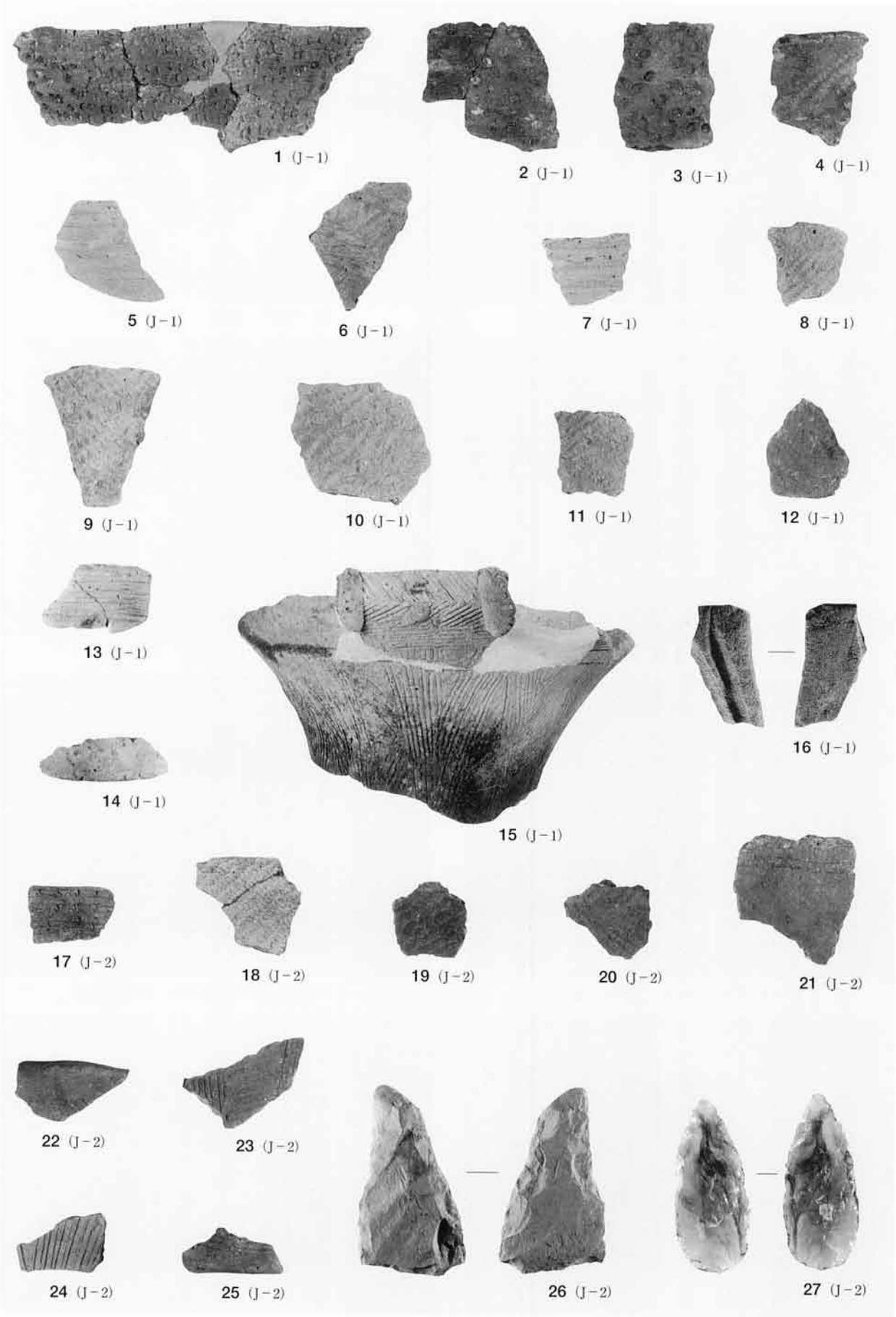
D－64号土坑全景（南西から）

D－64号土坑出土遺物（南西から）

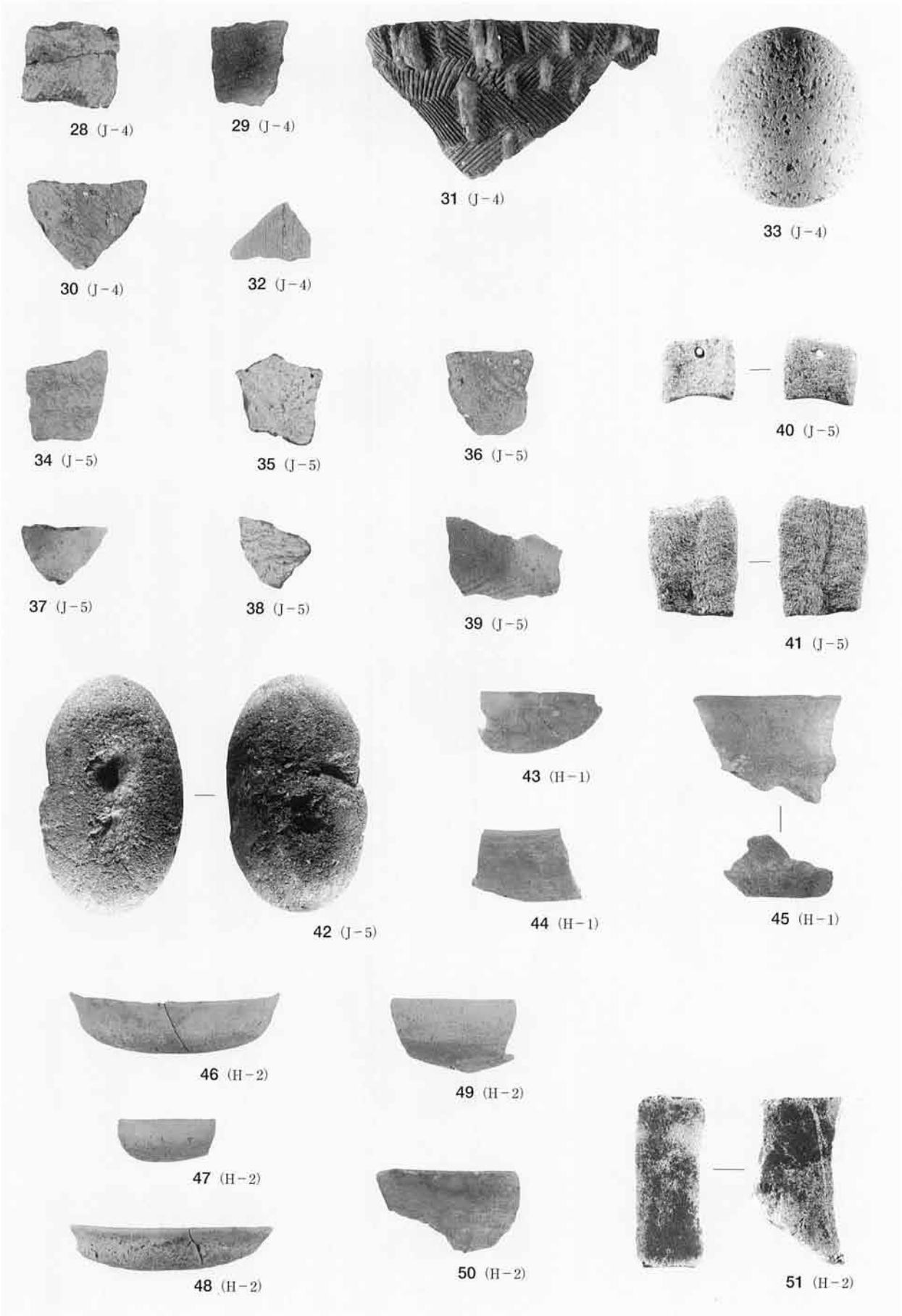


D－66号土坑全景（南から）

D－66号土坑出土遺物（南から）



J－1・2号住居跡出土遺物



J－4・5号、H－1・2号住居跡出土遺物

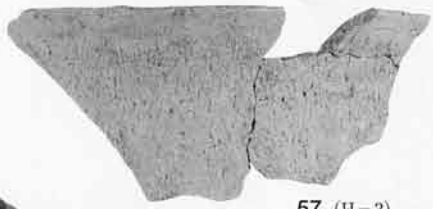
52 (H−3)

53 (H−3)

54 (H−3)

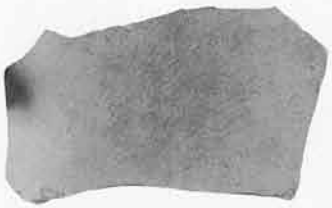
55 (H−3)

56 (H−3)


57 (H−3)

58 (H−3)

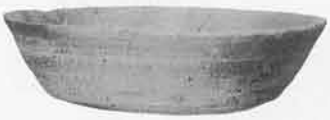
59 (H−3)


60 (H−4)

61 (H−4)

66 (H−5)

62 (H−5)


63 (H−5)

67 (H−5)

69 (H−6)

64 (H−5)

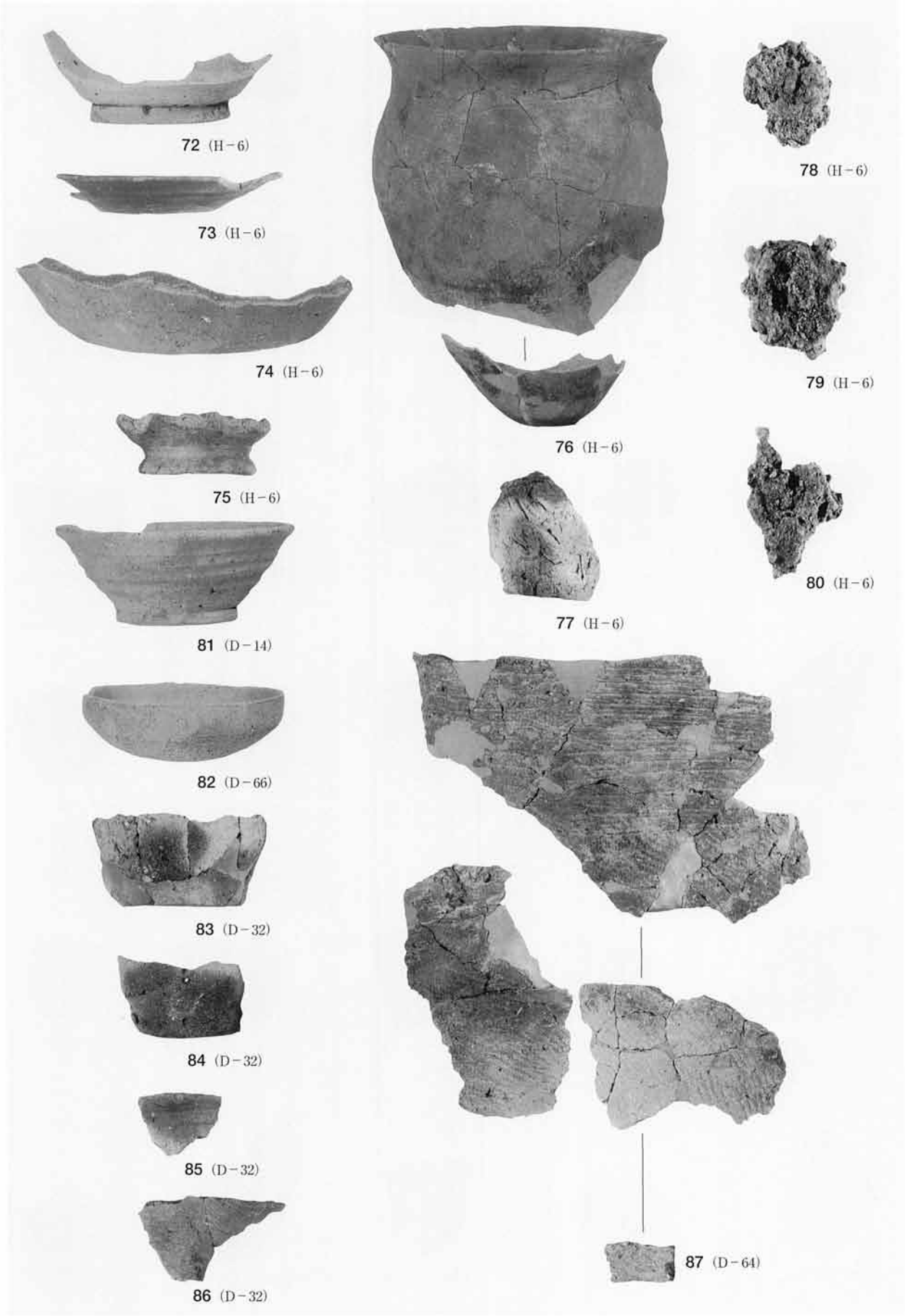
70 (H−6)

65 (H−5)

68 (H−5)

71 (H−6)

H−3〜6号住居跡出土遺物



H－6号住居跡、D－14・32・64・66号土坑出土遺物

88（X97Y30）

89（X93Y32）

90（X93Y24）

91（X80Y18）

92（X92Y19）

93（X90Y30）

94（X91Y31）

95（X102Y21）

96（X90Y28）

97（X78Y25）

98（X86Y26）

99（X84Y26）

100（X90Y27）

101（X78Y25）

102（X96Y28）

103（X92Y17）

104（X96Y34）

105（X92Y17）

106（X80Y14）

107（X98Y28）

108（X84Y17）

109（X90Y27）

110（X85Y26）

111（X97Y30）

112（X98Y26）

113（X97Y41）

114（X94Y27）

115（X96Y28）

116（X81Y25）

117（X95Y25）

遺構外出土縄文土器（88～117）

118（X104Y43）

119（X85Y17）

120（X91Y35）

121（X97Y20）

122（X94Y21）

123（X92Y35）

124（X97Y35）

125（X81Y18）

126（X107Y28）

127（X99Y21）

128（X87Y18）

129（X92Y19）

130（X88Y24）

131（X85Y20）

132（X112Y35）

133（X92Y25）

134（X80Y17）

135（X80Y17）

136（X96Y25）

137（X111Y35）

138（X109Y29）

139（X108Y30）

140（X80Y17）

141（X79Y17）

142（X110Y34）

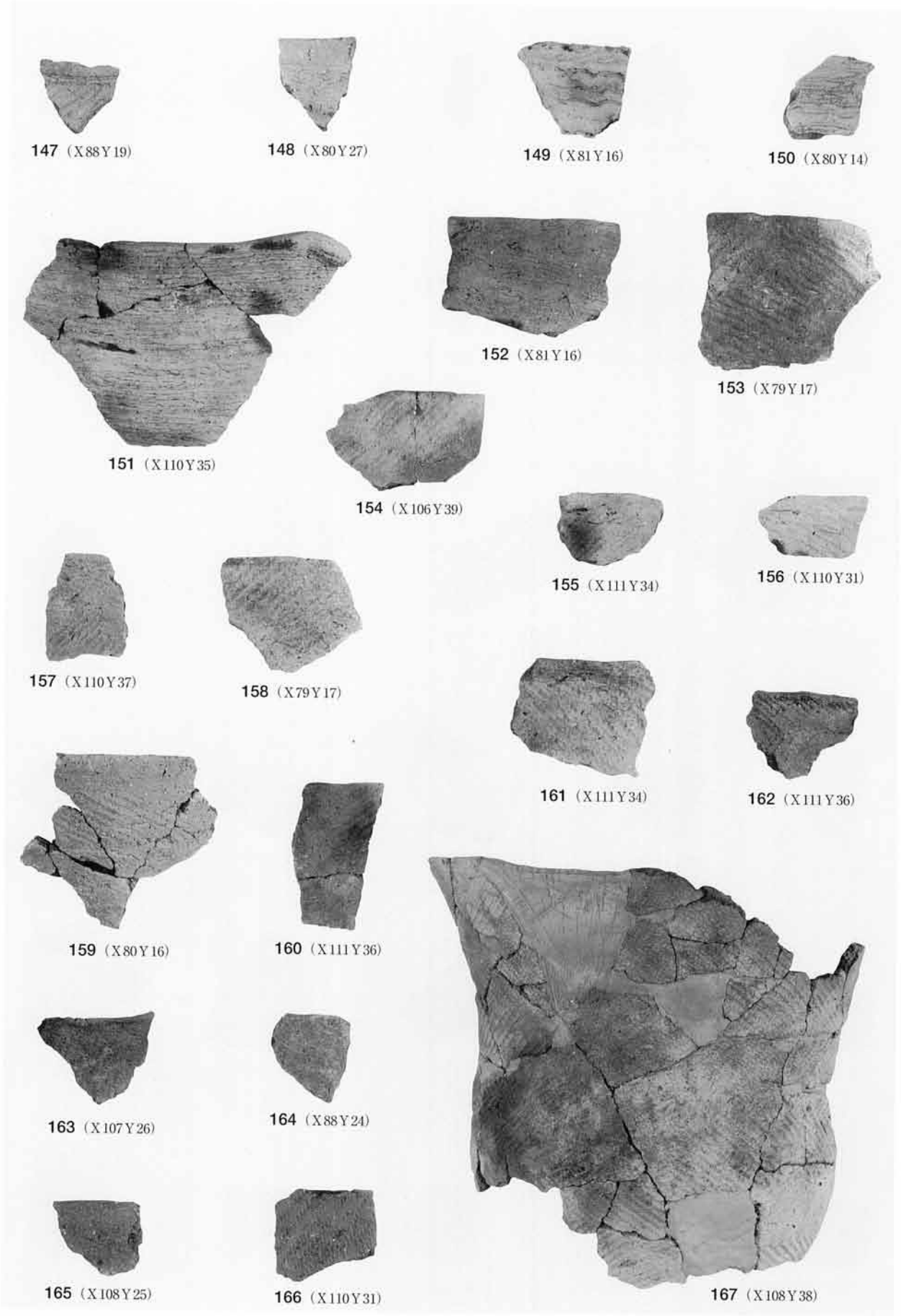
143（X109Y30）

144（X108Y27）

145（X83Y16）

146（X99Y21）

遺構外出土縄文土器（118～146）



遺構外出土縄文土器（147～167）

168（X79Y17）

169（X86Y19）

170（X91Y26）

171（X78Y25）

172（X79Y17）

173（X95Y28）

174（X112Y35）

175（X111Y34）

176（X88Y27）

177（X107Y38）

178（X107Y38）

179（X103Y32）

180（X81Y21）

181（X88Y25）

182（X87Y19）

183（X80Y16）

184（X91Y20）

185（X90Y21）

186（X91Y20）

187（X80Y18）

188（X88Y31）

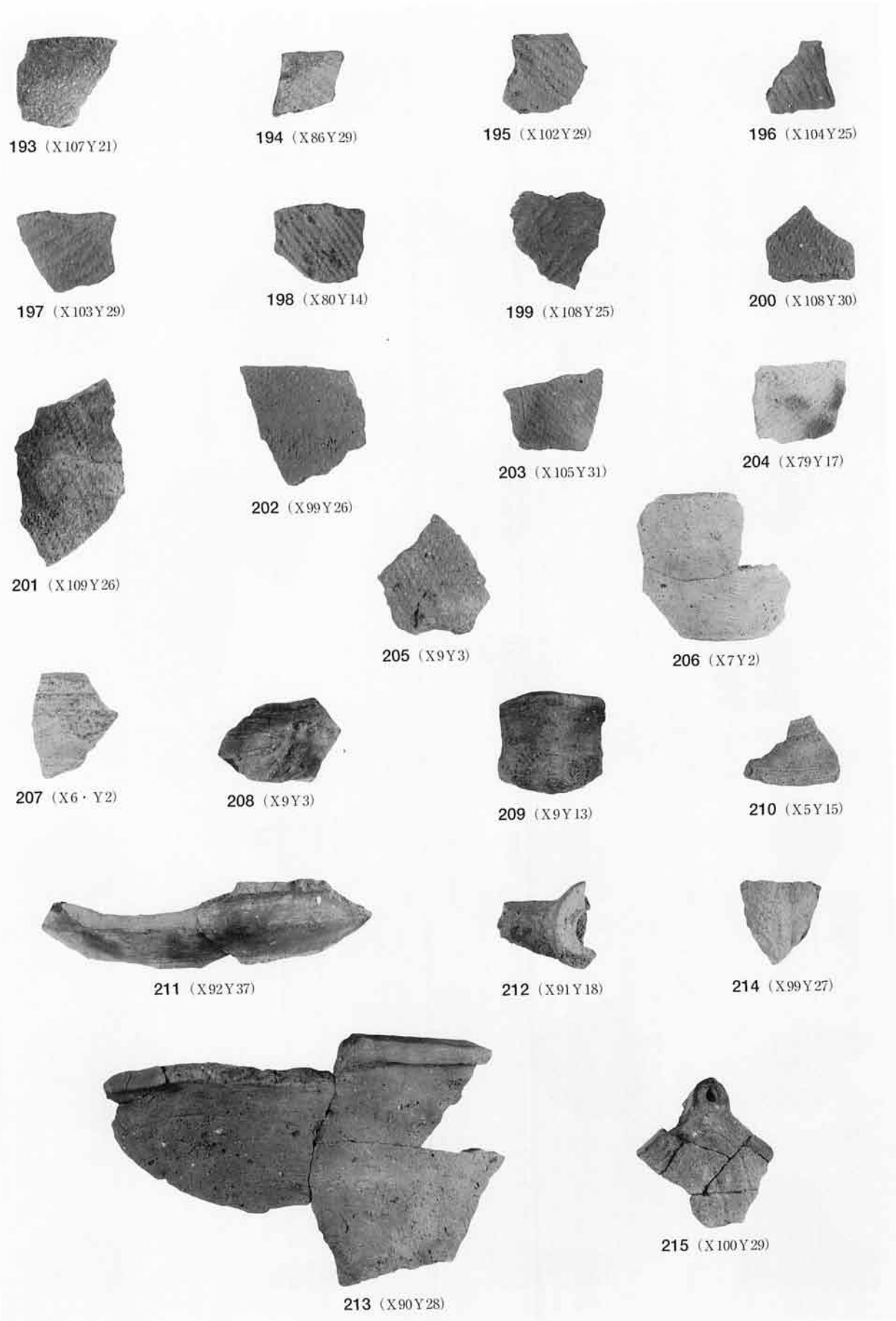
189（X98Y21）

190（X94Y21）

191（X106Y27）

192（X86Y16）

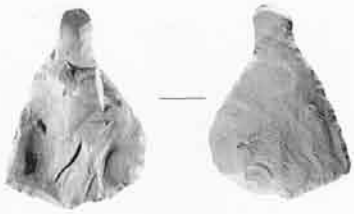
遺構外出土縄文土器（168～192）



遺構外出土縄文土器（193～215）

216（X94Y27）

217（X86Y31）



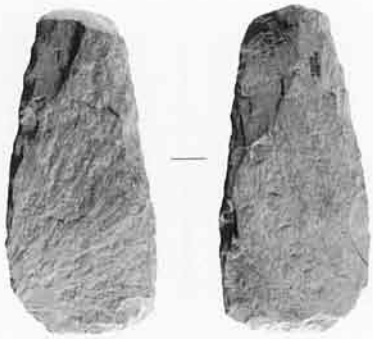
220（X92Y25）

218（X98Y30）

219（X98Y31）

221（X87Y30）

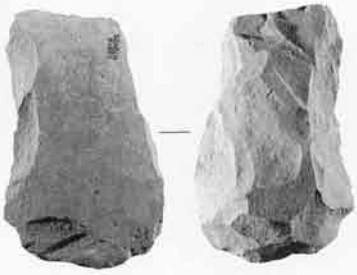
222（X9Y2）



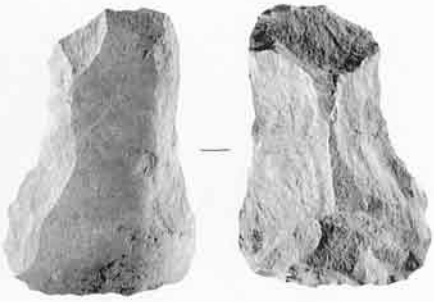
223（X96Y40）

224（X9Y15）

225（X89Y33）



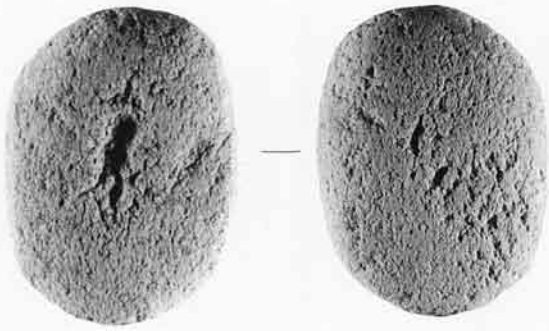
226（X78Y25）



227（X85Y25）

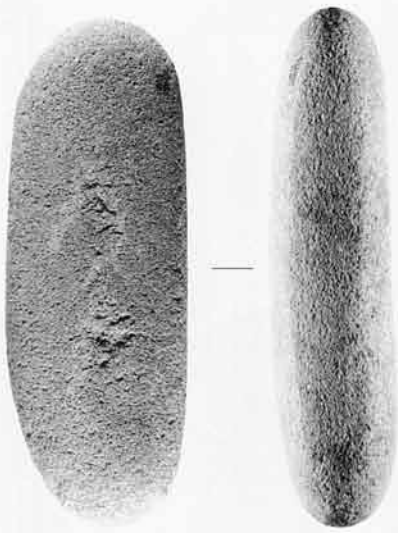
遺構外出土縄文土器（216～227）

228（X108Y29）

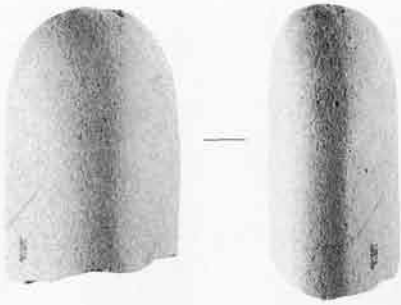


229（X83Y16）

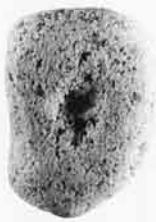
232（X90Y27）



234（X96Y20）

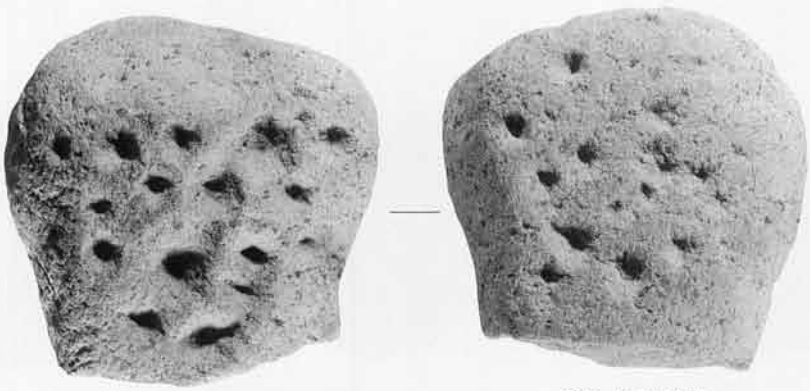


233（X83Y25）



230（X94Y20）

231（X103Y28）



235（X108Y26）

遺構外出土縄文土器（228～235）

Tab.10　報告書抄録

フリガナ	ローズタウンイセキグン　トミダシモダイニチヨンイセキ
書名	ローズタウン遺跡群　富田下大日Ⅳ遺跡
副書名	ローズタウン住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	平野岳志（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）　山崎　悟・福山俊彰・土生朗治（山武考古学研究所）
編集機関	山武考古学研究所　／〒286-0045　千葉県成田市並木町221番地　☎0476－24－0536
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団／〒371-0018　前橋市三俣町二丁目10－2　☎027－231－9531
発行年月日	西暦2002年3月8日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ローズタウン 遺跡群　富田 下大日Ⅳ遺跡	前橋市江木町	10201	13D16	36°23′28″ 8966	139°08′27″ 6104	20011016 ～ 20020308	17,400㎡	住宅団地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
ローズタウン 遺跡群　富田 下大日Ⅳ遺跡	集落	縄文時代 奈良・ 平安時代	竪穴住居跡10軒 掘立柱建物跡１棟 井戸跡２基・土坑66基 溝跡１条・ピット930基	縄文土器・石器・土師器・須恵器 鉄製品・砥石・鉄滓・羽口

ローズタウン遺跡群　富田下大日Ⅳ遺跡

発　行　2002年3月8日

編　集　山武考古学研究所

発　行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10－2
TEL 027－231－9531

印　刷　㈱文化総合企画
TEL 0476－93－0593